

---

---

岸和田市  
人権問題に関する市民意識調査  
報告書

---

---

令和 8 年 3 月



## 目次

<b>1. 調査概要</b> .....	<b>1</b>
(1) 調査目的 .....	1
(2) 調査の実施について .....	1
(3) 調査票（標準サンプル）の回収状況 .....	1
(4) 留意点 .....	1
(5) 調査票の設計と結果の分析 .....	2
(6) 回答者の属性 .....	2
<b>2. 調査結果</b> .....	<b>3</b>
(1) さまざまな人権について .....	3
(2) 人権を侵害された経験 .....	9
(3) 慣習や文化などについて .....	18
(4) 憲法で決められた権利について .....	21
(5) あなたのまわりの少数者について .....	24
(6) 家族や性別役割などについて .....	27
(7) 子どもの人権について .....	31
(8) 高齢者・障害者の人権について .....	34
(9) 外国人の人権について .....	38
(10) 部落差別（同和問題）について .....	42
(11) さまざまな分野での男女の地位について.....	54
(12) 人権や差別に関する考え方について .....	58
(13) 差別や人権に関する教育について .....	65
(14) 人権に関する法律や取組などについて.....	68
(15) 岸和田市の人権施策・人権教育に関する意見（自由記述） .....	74
<b>3. 調査結果の考察</b> .....	<b>75</b>
(1) 調査結果（単純集計）からみえてきたこと.....	75
(2) 年齢別比較からみえてきたこと .....	78
(3) 前回調査との比較について .....	79
(4) クロス集計からみえてきたこと .....	80
<b>4. 資料（調査票）</b> .....	<b>97</b>



## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

この調査は、さまざまな人権問題に関する市民の皆様のご意見をお聞きして、これからのまちづくりに生かしていくために実施しました。令和4年に改訂したプランの中間見直しの基礎資料とします。

### (2) 調査の実施について

対象者	令和7年9月25日現在、岸和田市に在住している18歳以上の市民3,000人
調査期間	令和7年10月15日から11月15日
調査方法	郵送配付、回答は無記名で、郵送またはWebによる回収

※ これまでの意識調査では若年層の回収率が低いために、年齢別比較を行った場合、若年層については統計的に信頼できる比較分析が難しくなることがありました。そこで、今回の調査では30歳未満からの有効回収数を増やすため、岸和田市の性別・年齢別構成を反映して抽出した標本数2,500人(標準サンプル)に加えて、18～29歳500人を追加サンプルとして抽出し、合計3,000人を対象としました。

### (3) 調査票(標準サンプル)の回収状況

	全体	内訳	
		郵送	WEB
配付	2,500	-	-
有効回収数	981	730	251
有効回収率	39.2%	-	-

### 18-29歳(追加サンプル)分

	全体	内訳	
		郵送	WEB
配付	500	-	-
有効回収数	91	38	53
有効回収率	18.2%	-	-

### (4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下のとおりとなっています。

1. 調査結果を総数、男女別で示す際は、標準サンプルの981件を対象とし、年齢別に関しては18～19歳と20歳代に追加サンプルを加えた84件、93件を対象としています。また、前回調査との比較と設問間クロス集計に関しては、追加サンプルを含めていません。
2. 「N」は「Number」の略で、比率算出の母数です。
3. 単一回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。

4. 今回の調査では、回答者の「自認する性」を問う設問の選択肢を「女性」「男性」「いずれでもない」としました。回収した調査票で、性別を「いずれでもない」とした回答者は4人、「無回答」が16人いましたが、分析の対象とするには数が少ないことから、性別による調査結果の表示は「女性」「男性」のみとしました。

5. 本報告書では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを『そう思う』、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせたものを『そう思わない』と表記しています。

同様に

- 「男性のほうが優位である」と「どちらかといえば男性のほうが優位である」を合わせたものを『男性優位』、「どちらかといえば女性のほうが優位である」と「女性のほうが優位である」を合わせたものを『女性優位』

- 「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」を合わせたものを『避けると思う』、「どちらかといえば避けないと思う」と「避けないと思う」を合わせたものを『避けないと思う』

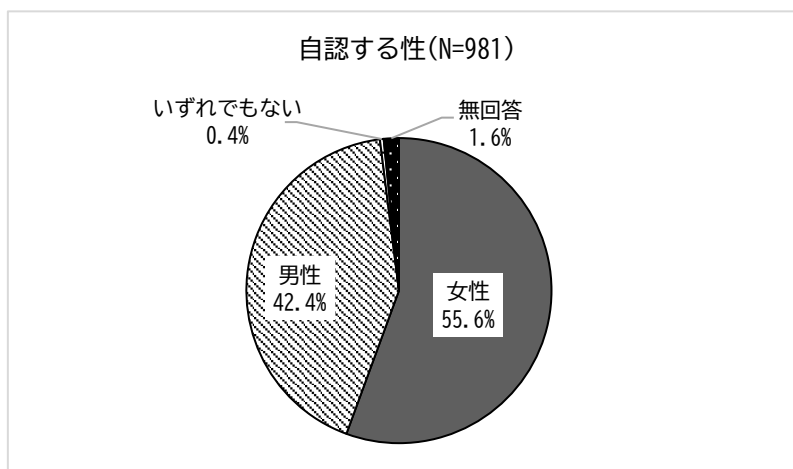
と表記しています。

### (5) 調査票の設計と結果の考察

調査票の設計については、「岸和田市人権尊重のまちづくり審議会」に調査項目について意見を求め、検討を行いました。

調査結果については、石元清英さん(関西大学名誉教授)に考察をお願いしました。

### (6) 回答者の属性



	母数(N)	女性	男性	いずれでもない	無回答
全体	981	55.6%	42.4%	0.4%	1.6%
年齢別	18, 19 歳	52.4%	45.2%	2.4%	0.0%
	20 歳代	55.9%	44.1%	0.0%	0.0%
	30 歳代	62.8%	36.2%	1.1%	0.0%
	40 歳代	51.0%	47.9%	0.0%	1.0%
	50 歳代	56.7%	43.3%	0.0%	0.0%
	60 歳代	52.9%	46.6%	0.5%	0.0%
	70 歳以上	59.3%	40.1%	0.7%	0.0%

	母数(N)	18~19 歳	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳以上	無回答
全体	981	1.3%	7.6%	9.6%	9.8%	20.3%	19.5%	30.3%	1.6%
性別	女性	1.3%	7.3%	10.8%	9.0%	20.6%	18.5%	32.3%	0.2%
	男性	1.4%	8.4%	8.2%	11.1%	20.9%	21.4%	28.6%	0.0%

## 2. 調査結果

### (1) さまざまな人権について

問1 さまざまな人権に関する次のような意見や考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合を見ると、「⑦凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ」が 78.1%で最も多く、次いで「④部落差別(同和問題)は、他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる」が 56.5%、「⑥ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい」が 48.7%、「⑧刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない」が 47.3%、「住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいるという物件は避けたい」が 43.6%となっています。

一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合では、「⑩認知症になるのは、それまでの本人の読書習慣や人付き合いなど、その人の責任という面もある」が 64.0%で最も多く、次いで「⑨同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」が 63.1%、「⑭新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」が 53.7%、「⑩知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない」が 49.4%、「⑬表現の自由に関わる問題なので、インターネット上の情報規制は行うべきではない」が 44.8%となっています。

また、「どちらともいえない」の割合は、「③被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている」が 40.5%で最も多く、次いで「⑫ハンセン病患者が強制隔離されたことについては、仕方がなかった」が 38.8%、「⑤自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない」が 33.6%、「⑥ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい」が 33.5%、「⑧刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない」が 31.8%となっています。

	母数(N)	①就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ						②部落差別(同和問題)は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい						
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	981	19.0%	19.2%	27.2%	19.8%	13.3%	1.6%	13.1%	14.4%	27.8%	17.4%	24.9%	2.3%	
性別	女性	545	16.0%	20.9%	29.5%	20.2%	11.6%	1.8%	14.3%	13.8%	30.5%	16.1%	22.8%	2.6%
	男性	416	22.6%	17.1%	24.5%	19.0%	15.6%	1.2%	12.0%	15.4%	23.6%	19.5%	27.9%	1.7%
年齢別	18, 19 歳	84	28.6%	28.6%	13.1%	21.4%	8.3%	0.0%	8.3%	13.1%	25.0%	16.7%	36.9%	0.0%
	20 歳代	93	21.5%	20.4%	26.9%	21.5%	9.7%	0.0%	11.8%	12.9%	25.8%	23.7%	24.7%	1.1%
	30 歳代	94	19.1%	21.3%	28.7%	20.2%	9.6%	1.1%	5.3%	9.6%	25.5%	27.7%	29.8%	2.1%
	40 歳代	96	16.7%	24.0%	31.3%	17.7%	10.4%	0.0%	6.3%	17.7%	34.4%	19.8%	21.9%	0.0%
	50 歳代	201	21.9%	19.4%	26.4%	17.9%	13.9%	0.5%	8.5%	12.9%	28.9%	17.4%	32.3%	0.0%
	60 歳代	191	18.8%	22.5%	27.2%	22.0%	8.9%	0.5%	9.4%	15.7%	32.5%	15.7%	25.1%	1.6%
	70 歳以上	297	16.5%	13.1%	27.9%	19.5%	18.9%	4.0%	23.6%	16.5%	21.2%	13.8%	19.9%	5.1%

	母数(N)	③被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている						④部落差別(同和問題)は、他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる						
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	
全体	981	13.1%	22.8%	40.5%	13.1%	7.1%	3.3%	22.9%	33.6%	22.7%	11.6%	6.5%	2.5%	
性別	女性	545	12.7%	23.5%	41.1%	12.3%	6.8%	3.7%	23.7%	35.2%	22.4%	11.4%	4.8%	2.6%
	男性	416	13.5%	22.6%	39.9%	14.2%	7.9%	1.9%	22.1%	32.7%	22.8%	11.8%	8.9%	1.7%
年齢別	18, 19 歳	84	3.6%	10.7%	41.7%	23.8%	20.2%	0.0%	33.3%	29.8%	21.4%	8.3%	7.1%	0.0%
	20 歳代	93	12.9%	8.6%	47.3%	16.1%	12.9%	2.2%	22.6%	43.0%	15.1%	8.6%	9.7%	1.1%
	30 歳代	94	7.4%	11.7%	52.1%	14.9%	11.7%	2.1%	26.6%	33.0%	19.1%	14.9%	4.3%	2.1%
	40 歳代	96	8.3%	26.0%	46.9%	14.6%	4.2%	0.0%	26.0%	32.3%	24.0%	10.4%	7.3%	0.0%
	50 歳代	201	17.9%	18.9%	43.3%	13.4%	5.5%	1.0%	20.4%	31.3%	27.9%	12.9%	7.5%	0.0%
	60 歳代	191	13.1%	30.4%	38.2%	10.5%	5.8%	2.1%	19.4%	39.3%	23.6%	12.0%	3.7%	2.1%
	70 歳以上	297	14.1%	26.6%	32.7%	13.8%	6.4%	6.4%	25.3%	29.3%	20.9%	11.1%	8.4%	5.1%

	母数 (N)	⑤自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない						⑥ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	14.5%	19.7%	33.6%	14.4%	15.3%	2.5%	19.7%	29.0%	33.5%	10.4%	5.8%	1.6%	
性別	女性	545	14.1%	22.2%	33.6%	14.1%	13.4%	2.6%	20.0%	26.2%	33.9%	12.7%	5.7%	1.5%
	男性	416	14.7%	16.6%	34.1%	14.7%	18.0%	1.9%	19.7%	32.5%	33.4%	7.5%	6.3%	0.7%
年齢別	18,19歳	84	6.0%	13.1%	25.0%	15.5%	40.5%	0.0%	15.5%	34.5%	26.2%	14.3%	9.5%	0.0%
	20歳代	93	6.5%	11.8%	23.7%	21.5%	35.5%	1.1%	11.8%	28.0%	33.3%	16.1%	10.8%	0.0%
	30歳代	94	6.4%	17.0%	33.0%	22.3%	19.1%	2.1%	11.7%	33.0%	35.1%	14.9%	4.3%	1.1%
	40歳代	96	14.6%	26.0%	34.4%	8.3%	16.7%	0.0%	17.7%	32.3%	31.3%	15.6%	3.1%	0.0%
	50歳代	201	16.9%	16.4%	39.8%	11.9%	14.4%	0.5%	16.4%	28.4%	36.8%	9.0%	9.5%	0.0%
	60歳代	191	10.5%	22.0%	39.3%	14.7%	9.9%	3.7%	16.2%	29.3%	39.8%	9.4%	5.2%	0.0%
	70歳以上	297	19.9%	19.9%	29.6%	15.2%	11.4%	4.0%	29.0%	25.6%	29.3%	7.7%	4.7%	3.7%

	母数 (N)	⑦凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ						⑧刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	51.7%	26.4%	14.0%	4.4%	2.1%	1.4%	17.0%	30.3%	31.8%	12.6%	6.6%	1.6%	
性別	女性	545	49.4%	27.2%	16.0%	4.0%	2.0%	1.5%	16.9%	29.0%	33.6%	13.0%	5.9%	1.7%
	男性	416	55.8%	25.5%	10.8%	4.6%	2.4%	1.0%	17.3%	31.0%	30.0%	12.5%	7.9%	1.2%
年齢別	18,19歳	84	54.8%	26.2%	11.9%	4.8%	2.4%	0.0%	34.5%	39.3%	15.5%	6.0%	4.8%	0.0%
	20歳代	93	55.9%	23.7%	12.9%	3.2%	4.3%	0.0%	26.9%	39.8%	18.3%	10.8%	4.3%	0.0%
	30歳代	94	58.5%	29.8%	7.4%	2.1%	1.1%	1.1%	27.7%	40.4%	18.1%	9.6%	3.2%	1.1%
	40歳代	96	59.4%	29.2%	4.2%	7.3%	0.0%	0.0%	19.8%	39.6%	27.1%	11.5%	2.1%	0.0%
	50歳代	201	52.7%	27.9%	12.9%	3.5%	3.0%	0.0%	18.4%	30.8%	31.8%	11.9%	6.5%	0.5%
	60歳代	191	47.1%	31.4%	16.2%	3.7%	1.6%	0.0%	12.6%	28.8%	41.4%	12.0%	4.2%	1.0%
	70歳以上	297	47.1%	22.9%	18.5%	4.7%	3.0%	3.7%	10.1%	22.2%	36.7%	16.2%	11.4%	3.4%

	母数 (N)	⑨同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない						⑩知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	8.4%	8.1%	17.7%	24.4%	38.7%	2.8%	10.2%	15.0%	22.2%	27.8%	21.6%	3.2%	
性別	女性	545	7.3%	6.1%	16.5%	23.3%	43.9%	2.9%	9.9%	12.1%	19.3%	29.4%	25.5%	3.9%
	男性	416	9.1%	10.6%	19.7%	25.7%	32.9%	1.9%	9.9%	18.8%	26.9%	26.2%	16.8%	1.4%
年齢別	18,19歳	84	3.6%	1.2%	20.2%	23.8%	51.2%	0.0%	2.4%	17.9%	17.9%	33.3%	28.6%	0.0%
	20歳代	93	3.2%	6.5%	18.3%	19.4%	52.7%	0.0%	4.3%	11.8%	19.4%	34.4%	30.1%	0.0%
	30歳代	94	3.2%	3.2%	9.6%	18.1%	64.9%	1.1%	1.1%	10.6%	19.1%	30.9%	37.2%	1.1%
	40歳代	96	4.2%	10.4%	9.4%	29.2%	46.9%	0.0%	7.3%	12.5%	20.8%	33.3%	26.0%	0.0%
	50歳代	201	9.0%	6.0%	16.4%	26.9%	41.8%	0.0%	7.0%	12.4%	21.4%	33.8%	24.9%	0.5%
	60歳代	191	6.3%	8.9%	20.4%	26.2%	36.6%	1.6%	8.9%	16.2%	26.2%	27.2%	20.4%	1.0%
	70歳以上	297	13.1%	9.4%	22.9%	23.2%	24.6%	6.7%	17.8%	17.2%	23.9%	20.5%	12.5%	8.1%

	母数 (N)	⑪住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいるという物件は避けたい						⑫ハンセン病患者が強制隔離されたことについては、仕方がなかった						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	16.2%	27.4%	29.1%	15.7%	10.3%	1.3%	10.9%	18.5%	38.8%	12.3%	16.1%	3.4%	
性別	女性	545	14.5%	30.8%	29.4%	14.5%	9.5%	1.3%	9.7%	17.4%	40.7%	13.0%	15.2%	3.9%
	男性	416	19.0%	23.6%	28.4%	16.6%	11.5%	1.0%	12.3%	19.7%	37.3%	10.8%	18.0%	1.9%
年齢別	18, 19 歳	84	11.9%	31.0%	27.4%	17.9%	11.9%	0.0%	11.9%	17.9%	54.8%	8.3%	7.1%	0.0%
	20 歳代	93	19.4%	31.2%	22.6%	16.1%	10.8%	0.0%	10.8%	22.6%	46.2%	12.9%	5.4%	2.2%
	30 歳代	94	24.5%	31.9%	21.3%	12.8%	8.5%	1.1%	7.4%	18.1%	48.9%	18.1%	5.3%	2.1%
	40 歳代	96	17.7%	34.4%	22.9%	16.7%	8.3%	0.0%	5.2%	17.7%	52.1%	7.3%	17.7%	0.0%
	50 歳代	201	21.9%	27.9%	29.9%	10.9%	9.5%	0.0%	10.4%	12.9%	42.3%	13.9%	19.9%	0.5%
	60 歳代	191	9.9%	27.2%	36.1%	14.7%	12.0%	0.0%	6.8%	20.4%	37.2%	12.0%	20.4%	3.1%
	70 歳以上	297	12.1%	24.9%	29.0%	19.5%	11.1%	3.4%	15.8%	18.5%	30.3%	11.1%	17.8%	6.4%

	母数 (N)	⑬表現の自由に関わる問題なので、インターネット上の情報規制は行うべきではない						⑭新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	11.9%	9.1%	31.5%	23.8%	21.0%	2.8%	5.8%	7.6%	31.2%	23.3%	30.4%	1.6%	
性別	女性	545	8.8%	9.4%	32.7%	23.5%	22.0%	3.7%	4.2%	7.5%	31.2%	24.8%	30.5%	1.8%
	男性	416	15.4%	8.7%	29.8%	24.5%	20.2%	1.4%	7.9%	8.2%	31.5%	20.4%	30.8%	1.2%
年齢別	18, 19 歳	84	13.1%	16.7%	20.2%	26.2%	23.8%	0.0%	8.3%	8.3%	45.2%	17.9%	20.2%	0.0%
	20 歳代	93	19.4%	11.8%	31.2%	23.7%	12.9%	1.1%	8.6%	12.9%	39.8%	23.7%	15.1%	0.0%
	30 歳代	94	13.8%	10.6%	26.6%	28.7%	18.1%	2.1%	8.5%	16.0%	40.4%	17.0%	17.0%	1.1%
	40 歳代	96	11.5%	11.5%	26.0%	35.4%	15.6%	0.0%	8.3%	11.5%	40.6%	22.9%	16.7%	0.0%
	50 歳代	201	6.5%	9.0%	33.3%	24.4%	25.9%	1.0%	7.0%	4.5%	36.8%	19.4%	32.3%	0.0%
	60 歳代	191	9.4%	6.8%	35.1%	24.6%	22.5%	1.6%	5.2%	5.2%	28.3%	28.8%	31.9%	0.5%
	70 歳以上	297	13.8%	9.1%	31.3%	17.5%	21.9%	6.4%	2.0%	5.7%	21.5%	23.6%	42.8%	4.4%

	母数 (N)	⑮自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない						⑯認知症になるのは、それまでの本人の読書習慣や人付き合いなど、その人の責任という面もある						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	15.8%	17.0%	29.2%	17.0%	19.3%	1.7%	3.8%	6.0%	25.1%	21.6%	42.4%	1.1%	
性別	女性	545	16.3%	16.5%	26.8%	18.9%	19.8%	1.7%	3.5%	6.2%	23.3%	22.2%	43.7%	1.1%
	男性	416	14.9%	17.3%	32.5%	15.1%	19.0%	1.2%	4.1%	6.0%	27.2%	20.4%	41.3%	1.0%
年齢別	18, 19 歳	84	4.8%	11.9%	25.0%	17.9%	40.5%	0.0%	2.4%	13.1%	20.2%	21.4%	42.9%	0.0%
	20 歳代	93	9.7%	11.8%	24.7%	19.4%	34.4%	0.0%	2.2%	10.8%	22.6%	30.1%	34.4%	0.0%
	30 歳代	94	12.8%	16.0%	24.5%	24.5%	21.3%	1.1%	1.1%	4.3%	20.2%	23.4%	50.0%	1.1%
	40 歳代	96	14.6%	24.0%	29.2%	10.4%	21.9%	0.0%	4.2%	5.2%	19.8%	21.9%	49.0%	0.0%
	50 歳代	201	17.9%	12.9%	31.8%	21.4%	15.9%	0.0%	4.5%	6.0%	26.4%	18.9%	43.8%	0.5%
	60 歳代	191	11.0%	18.8%	33.5%	17.3%	17.8%	1.6%	4.2%	3.7%	30.4%	18.8%	42.9%	0.0%
	70 歳以上	297	20.5%	16.8%	26.9%	14.1%	18.2%	3.4%	4.0%	7.1%	24.9%	21.5%	39.7%	2.7%

## 《性別》

### 1) 性的マイノリティに関する考え方

「⑨同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」については、『そう思う』と回答した男性が19.7%に対し、女性は13.4%と、男性が女性を6.3ポイント上回り、男性の方が忌避意識が強い傾向にあります。

「⑩知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない」については、『そう思う』と回答した男性が28.7%に対し、女性は22.0%と、男性が女性を6.7ポイント上回り、男性の方が戸惑いを感じやすい傾向にあります。

### 2) 犯罪に関する考え方

「⑦凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ」については、『そう思う』と回答した男性が81.3%に対し、女性は76.6%と、男性が女性を4.7ポイント上回っています。

### 3) 結婚に関する考え方

「⑤自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない」については、『そう思う』と回答した女性が36.3%に対し、男性は31.3%と、女性が男性を5.0ポイント上回り、被差別部落(同和地区)出身者に対する忌避意識は女性の方が高い傾向にあります。

### 4) 自己責任に関する考え方

「⑥ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい」については、『そう思う』と回答した男性が52.2%に対し、女性は46.2%と、男性が女性を6.0ポイント上回り、男性の方が自己責任を重視する傾向にあります。

### 5) インターネット上の情報規制に関する考え方

「③表現の自由に関わる問題なので、インターネット上の情報規制は行うべきではない」については、『そう思う』と回答した男性が24.1%に対し、女性は18.2%と、男性が女性を5.9ポイント上回っています。

## 《年齢別》

### 1) 若年層(18,19歳、20歳代)の傾向

「①就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ」については、『そう思う』と回答した18,19歳が57.2%で最も多く、他の年齢を大きく上回っています。

「⑤自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない」については、『そう思わない』と回答した18,19歳が56.0%、20歳代が57.0%と、他の年齢を大きく上回っています。

「⑩自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない」については、『そう思わない』と回答した18,19歳が58.4%、20歳代が53.8%と、他の年齢を大きく上回っています。

### 2) 壮年層(30歳代～50歳代)の傾向

「⑦凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ」については、『そう思う』と回答した30歳代が88.3%、40歳代が88.6%、他の年齢を大きく上回っています。

「⑪住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいるという物件は避けたい」については、『そう思う』と回答した30歳代が56.4%で最も多くなってお

り、生活環境の維持に対する強いこだわりが見られます。

「⑤自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない」については、『そう思う』と回答した40歳代が40.6%で最も多く、「⑤自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない」についても、『そう思う』と回答した40歳代が38.6%で最も多く、他の年齢階層に比べ、被差別部落(同和地区)出身者や在日韓国・朝鮮人への忌避意識が強い傾向を示しています。

### 3) 高齢層(60歳代、70歳以上)の傾向

「②部落差別(同和問題)は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい」については、『そう思う』と回答した70歳以上が40.1%で最も多くなっています。

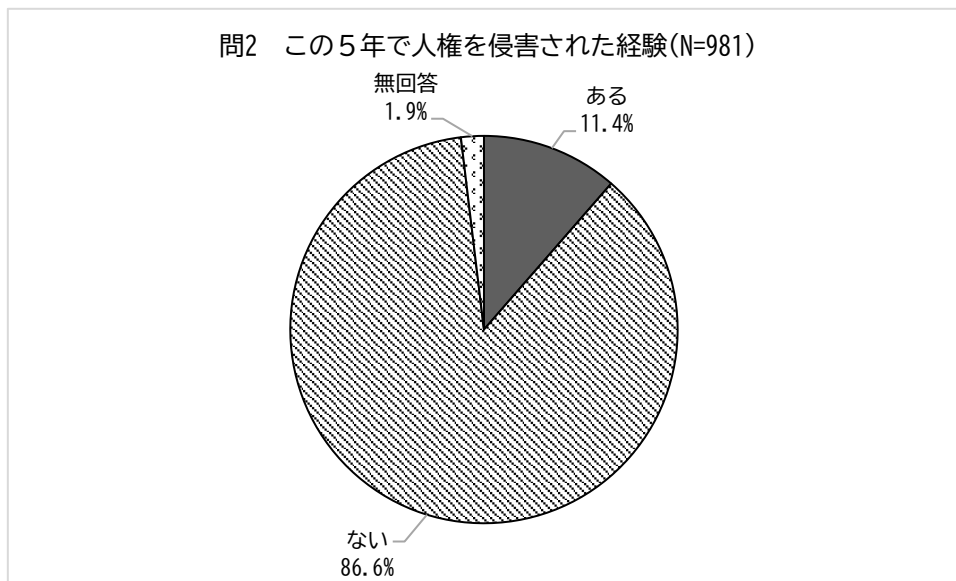
「⑥ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい」については、『そう思う』と回答した70歳以上が54.6%で最も多くなっています。

「⑩知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない」については、『そう思う』と回答した70歳以上が35.0%で最も多くなっています。

「⑭新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」については、『そう思わない』と回答した70歳以上が66.4%で最も多く、新聞やテレビなど信頼する傾向が見られます。

## (2) 人権を侵害された経験

問2 この5年位の間、あなたは、人権を侵害されたことがありますか。(○はいずれか1つ)



この5年で人権を侵害された経験は 11.4%が「ある」と回答しています。

	母数 (N)	ある	ない	無回答
全体	981	11.4%	86.6%	1.9%
R2 調査	1,263	13.1%	81.9%	5.1%
性別				
女性	545	12.7%	85.3%	2.0%
男性	416	9.6%	88.7%	1.7%
年齢別				
18, 19 歳	84	8.3%	90.5%	1.2%
20 歳代	93	16.1%	83.9%	0.0%
30 歳代	94	21.3%	77.7%	1.1%
40 歳代	96	15.6%	84.4%	0.0%
50 歳代	201	12.4%	86.1%	1.5%
60 歳代	191	11.5%	87.4%	1.0%
70 歳以上	297	5.7%	90.6%	3.7%

### 《経年変化》

経年変化を見ると、「ある」については、令和2年調査の13.1%から11.4%へとわずかに減少しました。

### 《性別》

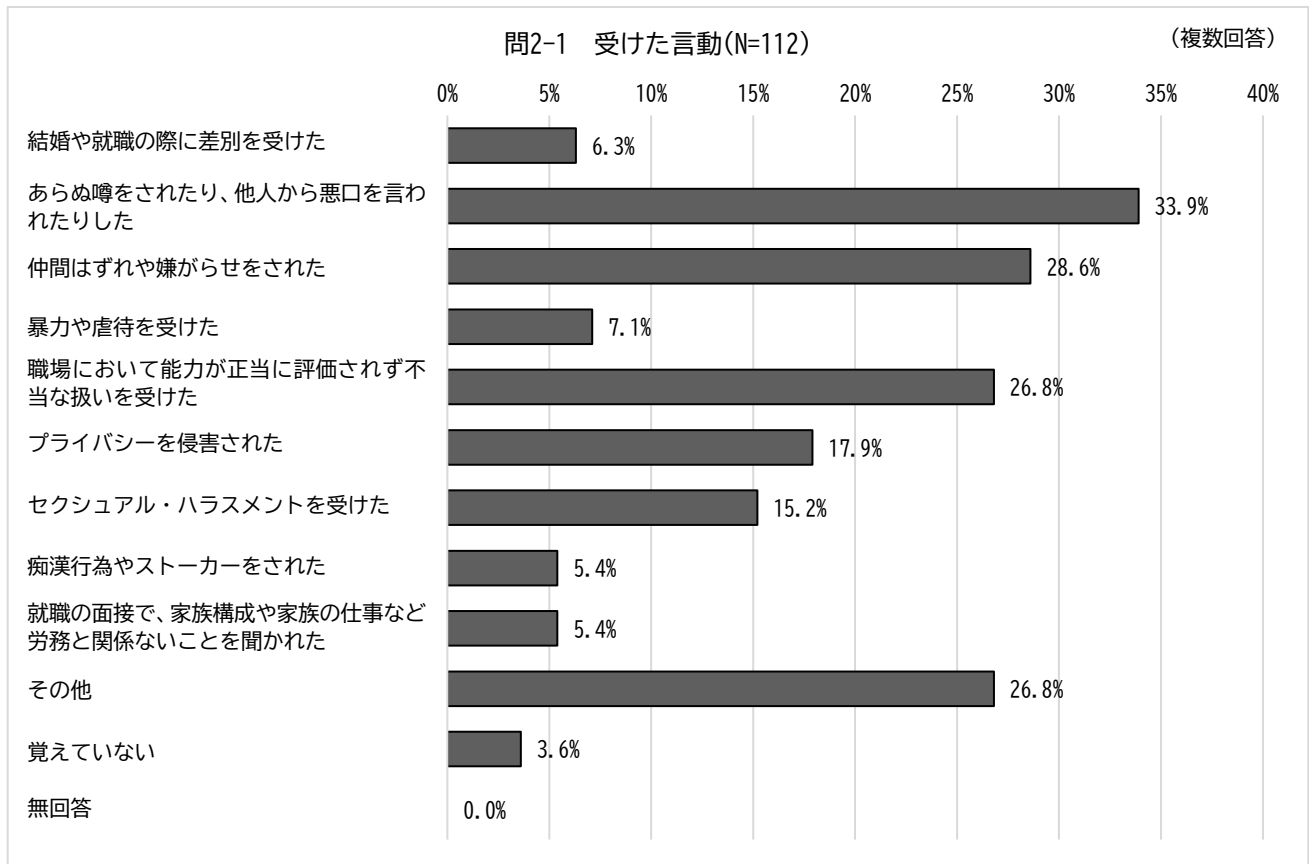
性別で見ると、「ある」と回答した女性が12.7%に対し、男性は9.6%と、女性が男性をわずかに上回っています。

### 《年齢別》

年齢別で見ると、「ある」と回答した30歳代が21.3%で最も多く、70歳以上が5.7%で最も少なく、15.6ポイントの差があります。

問2-1～問2-2は、問2で「1. ある」と答えた方にお聞きします。

問2-1 どのような言動を受けましたか。(〇はいくつでも)



「あらぬ噂をされたり、他人から悪口を言われたりした」が 33.9%で最も多く、次いで「仲間はずれや嫌がらせをされた」が 28.6%、「職場において能力が正当に評価されず不当な扱いを受けた」が 26.8%の順となっています。

	母数 (N)	結婚や就職の際に差別を受けた	あらぬ噂をされたり、他人から悪口を言われたりした	仲間はずれや嫌がらせをされた	暴力や虐待を受けた	職場において能力が正当に評価されず不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラスメントを受けた	痴漢行為やストーカーをされた	就職の面接で、家族構成や家族の仕事など労務と関係ないことを聞かれた	その他	覚えていない	無回答	
全体	112	6.3%	33.9%	28.6%	7.1%	26.8%	17.9%	15.2%	5.4%	5.4%	26.8%	3.6%	0.0%	
R2 調査	165	5.5%	44.2%	25.5%	6.1%	30.9%	15.8%	12.1%	8.5%	8.5%	10.9%	5.5%	5.5%	
性別	女性	69	4.3%	36.2%	37.7%	10.1%	29.0%	17.4%	20.3%	8.7%	5.8%	21.7%	4.3%	0.0%
	男性	40	7.5%	30.0%	12.5%	2.5%	25.0%	20.0%	7.5%	0.0%	2.5%	35.0%	2.5%	0.0%
年齢別	18, 19 歳	7	0.0%	42.9%	42.9%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%
	20 歳代	15	20.0%	40.0%	46.7%	13.3%	20.0%	33.3%	40.0%	13.3%	13.3%	26.7%	0.0%	0.0%
	30 歳代	20	5.0%	15.0%	20.0%	5.0%	30.0%	30.0%	25.0%	15.0%	10.0%	5.0%	15.0%	0.0%
	40 歳代	15	6.7%	20.0%	33.3%	13.3%	40.0%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	26.7%	0.0%	0.0%
	50 歳代	25	8.0%	48.0%	36.0%	8.0%	20.0%	16.0%	16.0%	4.0%	8.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	60 歳代	22	0.0%	31.8%	13.6%	4.5%	45.5%	13.6%	4.5%	0.0%	0.0%	45.5%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	17	5.9%	47.1%	35.3%	5.9%	5.9%	5.9%	5.9%	0.0%	5.9%	35.3%	5.9%	0.0%

## 《経年変化》

「あらぬ噂をされたり、他人から悪口を言われたりした」については、令和 2 年調査の 44.2%から 33.9%へと、10.3 ポイント減少し、「職場において能力が正当に評価されず不当な扱いを受けた」については、令和 2 年調査の 30.9%から 26.8%へと、4.1 ポイント減少しています。

また、「仲間はずれや嫌がらせをされた」については、令和 2 年調査の 25.5%から 28.6%、「セクシュアル・ハラスメントを受けた」については、令和 2 年調査の 12.1%から 15.2%へと、共に 3.1 ポイント増加しています。

## 《性別》

性別による差が大きいものは以下の通りです。

「仲間はずれや嫌がらせをされた」と回答した女性が 37.7%に対し、男性は 12.5%と、女性が男性を 25.2 ポイント上回っています。

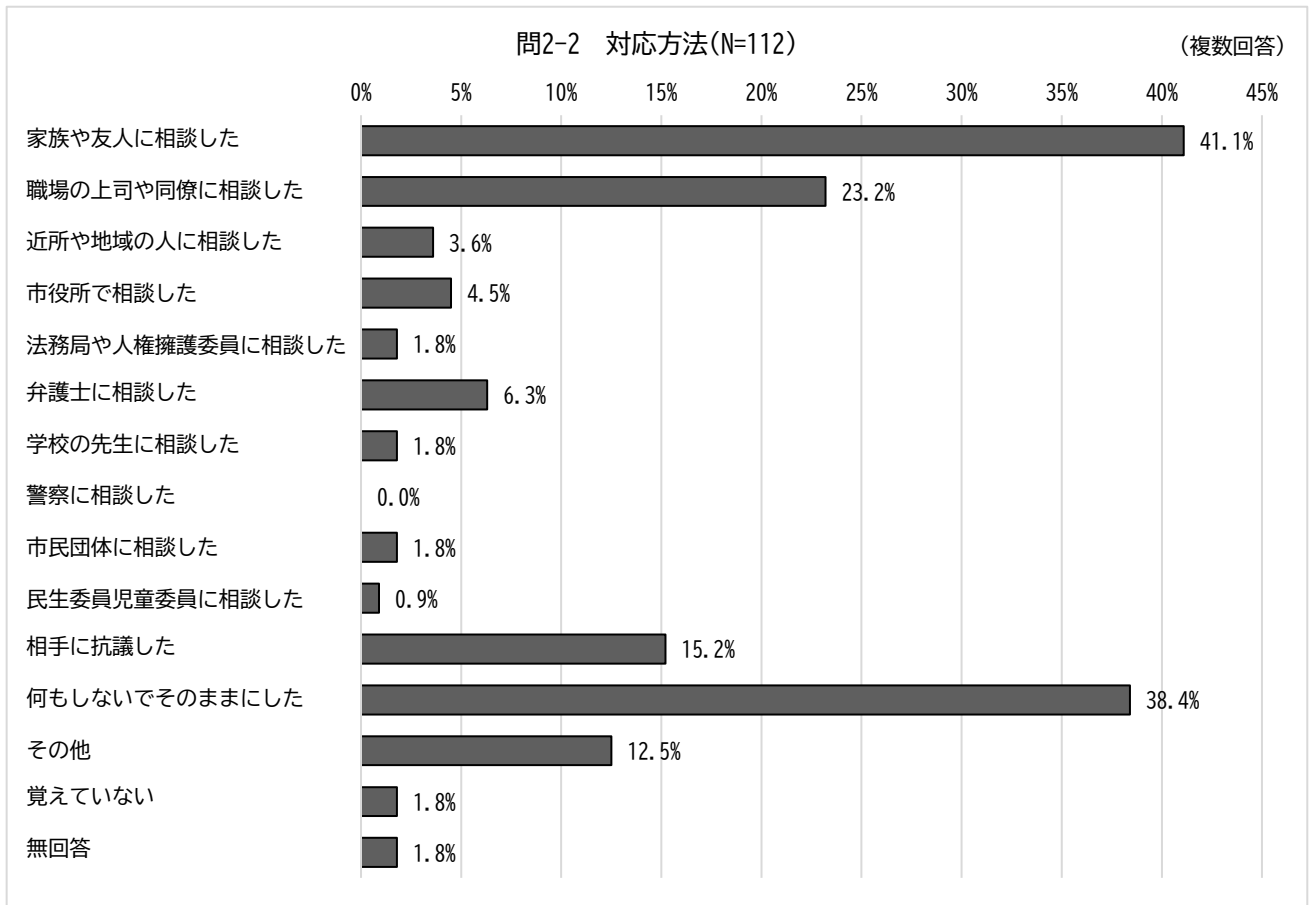
「セクシュアル・ハラスメントを受けた」と回答した女性が 20.3%に対し、男性は 7.5%と、女性が男性を 12.8 ポイント上回っています。

「痴漢行為やストーカーをされた」と回答した女性が 8.7%に対し、男性は 0.0%と、女性が男性を 8.7 ポイント上回っています。

## 《年齢別》

回答者数(母数)がいずれの年齢層も 30 を下回っているため、回答割合についてのコメントは控えます。

問2-2 どのように対応しましたか。(〇はいくつでも)



人権侵害を受けたあと、何らかの対応をしたという回答のなかでは、「家族や友人に相談した」が 41.1%で最も多く、次いで「職場の上司や同僚に相談した」が 23.2%、「相手に抗議した」が 15.2%の順になっています。また、「何もしないでそのままにした」は 38.4%でした。

	母数(N)	家族や友人に相談した	職場の上司や同僚に相談した	近所や地域の人に相談した	市役所で相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	弁護士に相談した	学校の先生に相談した	警察に相談した	市民団体に相談した	民生委員児童委員に相談した	相手に抗議した	何もしないでそのままにした	その他	覚えていない	無回答	
全体	112	41.1%	23.2%	3.6%	4.5%	1.8%	6.3%	1.8%	0.0%	1.8%	0.9%	15.2%	38.4%	12.5%	1.8%	1.8%	
R2 調査	165	40.0%	20.0%	1.8%	3.0%	1.2%	2.4%	1.8%	6.1%	1.2%	0.6%	21.2%	35.8%	7.9%	0.6%	0.6%	
性別	女性	69	50.7%	26.1%	5.8%	5.8%	0.0%	4.3%	0.0%	2.9%	0.0%	17.4%	33.3%	11.6%	1.4%	2.9%	
	男性	40	22.5%	17.5%	0.0%	0.0%	5.0%	10.0%	2.5%	0.0%	0.0%	12.5%	47.5%	12.5%	2.5%	0.0%	
年齢別	18, 19 歳	7	42.9%	28.6%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	14.3%	57.1%	14.3%	0.0%	0.0%	
	20 歳代	15	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	13.3%	6.7%	13.3%	0.0%	0.0%	13.3%	13.3%	13.3%	0.0%	0.0%	
	30 歳代	20	60.0%	50.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	30.0%	0.0%	5.0%	0.0%	
	40 歳代	15	33.3%	26.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	13.3%	53.3%	6.7%	0.0%	6.7%	
	50 歳代	25	44.0%	12.0%	4.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	16.0%	28.0%	20.0%	4.0%	0.0%
	60 歳代	22	31.8%	9.1%	9.1%	4.5%	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	45.5%	13.6%	0.0%	0.0%
	70 歳以上	17	23.5%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	5.9%	58.8%	23.5%	0.0%	5.9%

### 《経年変化》

令和2年調査から、大きな変化は見られませんが、「相手に抗議した」については、令和2年調査の21.2%から15.2%へと、6.0ポイント減少し、「警察に相談した」については、令和2年調査の6.1%から0.0%へと、6.1ポイント減少しました。

また、「何もしないでそのままにした」については令和2年調査の35.8%から38.4%へと、2.6ポイント増加しています。

### 《性別》

「家族や友人に相談した」と回答した女性が50.7%に対し、男性は22.5%と、女性が男性を28.2ポイント上回り、「職場の上司や同僚に相談した」と回答した女性が26.1%に対し、男性は17.5%と、女性が男性を8.6ポイント上回っています。

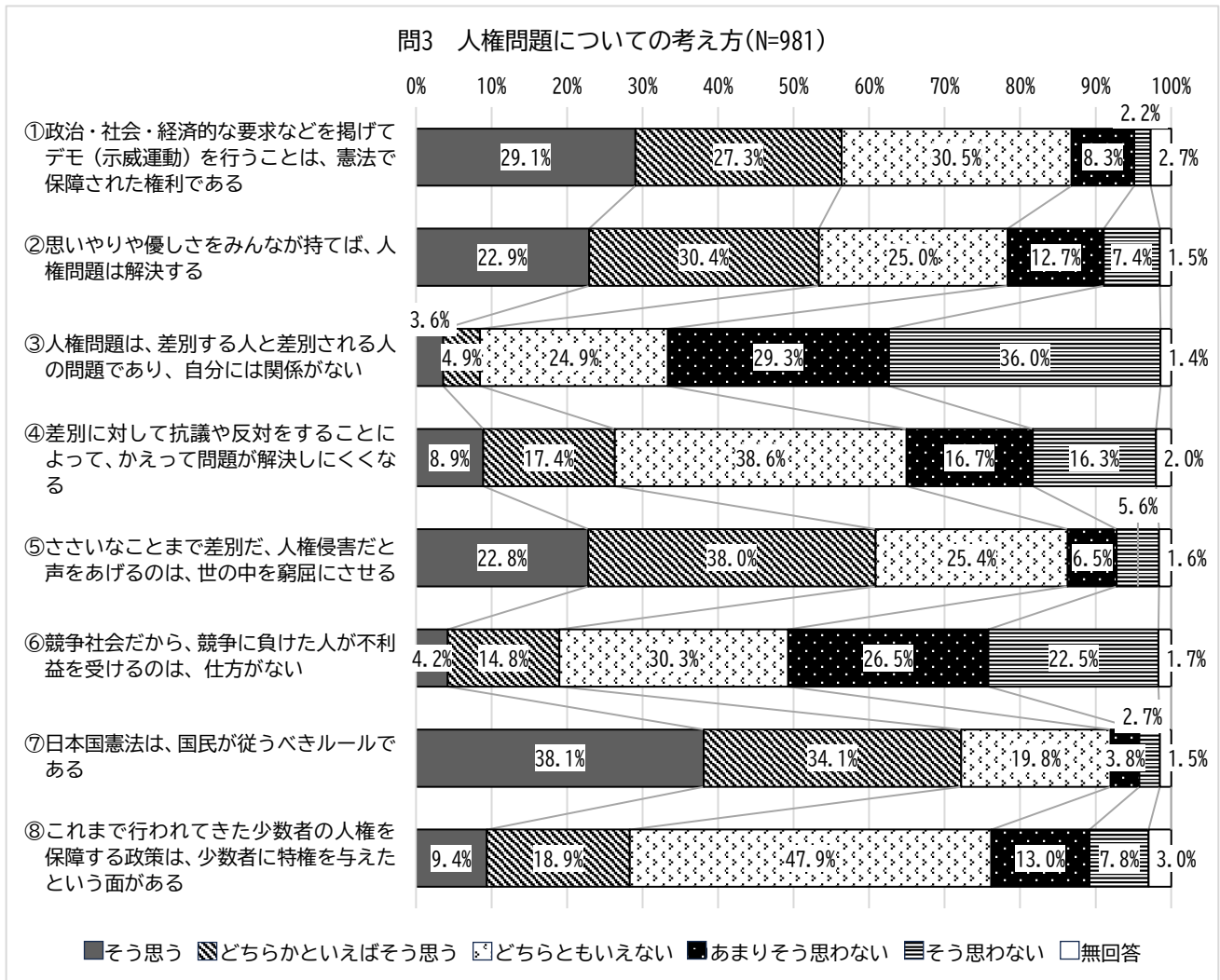
また、「何もしないでそのままにした」と回答した男性が47.5%に対し、女性が33.3%と、男性が女性を14.2ポイント上回っています。

### 《年齢別》

回答者数(母数)がいずれの年齢層も30を下回っているため、回答割合についてのコメントは控えます。

約4割の方が人権侵害を受けても「何もしないでそのままにした」と回答しています。一人で悩まず公的な相談窓口へご相談ください。岸和田市の人権相談では相談をお聞きするほか、カウンセラーによる電話相談、面談相談もあります。また、回数に限りはありますが無料の弁護士相談もあります。詳細は広報やホームページに掲載しておりますのでご確認ください。

問3 人権問題などに関して次のような意見や考え方があります。あなたはこれらについて、どう思いますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が半数を超えているものは、「⑦日本国憲法は、国民が従うべきルールである」が 72.2%で最も多く、次いで「⑤ささいなことまで差別だ、人権侵害だと声をあげるのは、世の中を窮屈にさせる」が 60.8%、「①政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ(示威運動)を行うことは、憲法で保障された権利である」が 56.4%、「②思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」が 53.3%となっています。

反対に、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』が多いものは、「③人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない」が 65.3%、「⑥競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」が 49.0%となっています。

また、「どちらともいえない」と回答した割合は、「⑧これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」が 47.9%で最も多く、次いで「④差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」が 38.6%、「①政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ(示威運動)を行うことは、憲法で保障された権利である」が 30.5%、「⑥競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」が 30.3%となっています。

	母数 (N)	①政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ（示威運動）を行うことは、憲法で保障された権利である						②思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	29.1%	27.3%	30.5%	8.3%	2.2%	2.7%	22.9%	30.4%	25.0%	12.7%	7.4%	1.5%	
性別	女性	545	21.8%	27.5%	36.7%	7.9%	2.2%	3.9%	21.1%	31.6%	27.3%	13.9%	4.8%	1.3%
	男性	416	38.5%	27.9%	22.4%	7.9%	2.2%	1.2%	25.5%	28.8%	21.6%	11.3%	11.1%	1.7%
年齢別	18,19歳	84	28.6%	33.3%	31.0%	4.8%	2.4%	0.0%	20.2%	27.4%	22.6%	20.2%	9.5%	0.0%
	20歳代	93	31.2%	29.0%	32.3%	4.3%	2.2%	1.1%	14.0%	38.7%	19.4%	10.8%	17.2%	0.0%
	30歳代	94	36.2%	22.3%	36.2%	5.3%	0.0%	0.0%	21.3%	23.4%	24.5%	20.2%	9.6%	1.1%
	40歳代	96	27.1%	25.0%	33.3%	10.4%	2.1%	2.1%	17.7%	24.0%	29.2%	24.0%	5.2%	0.0%
	50歳代	201	28.9%	25.9%	36.3%	7.0%	1.0%	1.0%	23.9%	30.8%	25.4%	12.9%	6.5%	0.5%
	60歳代	191	28.8%	33.5%	27.2%	6.3%	2.1%	2.1%	19.4%	33.5%	31.4%	7.3%	7.3%	1.0%
	70歳以上	297	28.3%	25.6%	26.3%	9.8%	4.0%	6.1%	28.6%	32.0%	20.9%	10.1%	5.1%	3.4%

	母数 (N)	③人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない						④差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	3.6%	4.9%	24.9%	29.3%	36.0%	1.4%	8.9%	17.4%	38.6%	16.7%	16.3%	2.0%	
性別	女性	545	3.7%	4.2%	26.1%	30.5%	34.3%	1.3%	7.5%	18.0%	40.4%	17.2%	14.3%	2.6%
	男性	416	3.1%	5.8%	23.3%	27.6%	38.7%	1.4%	10.1%	16.6%	36.8%	15.9%	19.5%	1.2%
年齢別	18,19歳	84	1.2%	7.1%	23.8%	39.3%	28.6%	0.0%	6.0%	19.0%	36.9%	22.6%	15.5%	0.0%
	20歳代	93	2.2%	8.6%	24.7%	38.7%	25.8%	0.0%	7.5%	23.7%	35.5%	20.4%	11.8%	1.1%
	30歳代	94	4.3%	7.4%	17.0%	31.9%	38.3%	1.1%	4.3%	17.0%	28.7%	27.7%	20.2%	2.1%
	40歳代	96	0.0%	3.1%	24.0%	36.5%	36.5%	0.0%	6.3%	14.6%	50.0%	18.8%	10.4%	0.0%
	50歳代	201	1.0%	1.5%	31.8%	23.4%	42.3%	0.0%	6.0%	15.4%	39.8%	18.9%	19.4%	0.5%
	60歳代	191	1.6%	5.2%	19.9%	35.1%	37.2%	1.0%	9.4%	14.7%	41.9%	16.2%	15.7%	2.1%
	70歳以上	297	7.7%	4.7%	26.9%	22.9%	34.3%	3.4%	13.1%	18.5%	36.7%	10.8%	16.8%	4.0%

	母数 (N)	⑤ささいなことまで差別だ、人権侵害だと声をあげる のは、世の中を窮屈にさせる						⑥競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受ける のは、仕方がない						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	22.8%	38.0%	25.4%	6.5%	5.6%	1.6%	4.2%	14.8%	30.3%	26.5%	22.5%	1.7%	
性別	女性	545	20.6%	38.7%	26.8%	6.2%	5.5%	2.2%	2.8%	11.7%	31.0%	29.4%	23.1%	2.0%
	男性	416	25.7%	38.2%	22.6%	7.0%	5.5%	1.0%	6.3%	18.5%	29.6%	22.6%	21.6%	1.4%
年齢別	18, 19 歳	84	25.0%	39.3%	27.4%	6.0%	2.4%	0.0%	9.5%	27.4%	28.6%	22.6%	11.9%	0.0%
	20 歳代	93	23.7%	38.7%	24.7%	7.5%	4.3%	1.1%	5.4%	19.4%	36.6%	22.6%	15.1%	1.1%
	30 歳代	94	23.4%	36.2%	23.4%	7.4%	7.4%	2.1%	3.2%	21.3%	31.9%	21.3%	21.3%	1.1%
	40 歳代	96	24.0%	40.6%	24.0%	8.3%	3.1%	0.0%	4.2%	17.7%	28.1%	32.3%	17.7%	0.0%
	50 歳代	201	24.4%	37.3%	27.9%	5.5%	4.5%	0.5%	6.0%	12.4%	35.8%	23.4%	21.9%	0.5%
	60 歳代	191	17.3%	41.9%	25.1%	9.9%	5.2%	0.5%	3.1%	12.0%	27.7%	31.9%	24.6%	0.5%
	70 歳以上	297	25.3%	36.0%	23.9%	4.4%	6.4%	4.0%	3.4%	12.5%	27.6%	25.6%	26.3%	4.7%

	母数 (N)	⑦日本国憲法は、国民が従うべきルールである						⑧これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策 は、少数者に特権を与えたという面がある						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	38.1%	34.1%	19.8%	3.8%	2.7%	1.5%	9.4%	18.9%	47.9%	13.0%	7.8%	3.0%	
性別	女性	545	31.7%	36.7%	22.8%	4.8%	2.0%	2.0%	6.4%	16.1%	52.5%	13.8%	6.8%	4.4%
	男性	416	47.6%	31.0%	15.4%	2.4%	2.9%	0.7%	13.2%	23.1%	41.3%	12.3%	9.4%	0.7%
年齢別	18, 19 歳	84	53.6%	20.2%	14.3%	9.5%	2.4%	0.0%	8.3%	22.6%	51.2%	13.1%	4.8%	0.0%
	20 歳代	93	38.7%	34.4%	21.5%	4.3%	1.1%	0.0%	8.6%	23.7%	55.9%	9.7%	0.0%	2.2%
	30 歳代	94	31.9%	34.0%	22.3%	6.4%	4.3%	1.1%	9.6%	12.8%	45.7%	21.3%	7.4%	3.2%
	40 歳代	96	24.0%	43.8%	25.0%	4.2%	3.1%	0.0%	13.5%	15.6%	46.9%	17.7%	6.3%	0.0%
	50 歳代	201	37.3%	33.8%	22.4%	4.0%	2.0%	0.5%	10.4%	18.9%	52.7%	10.4%	7.5%	0.0%
	60 歳代	191	31.4%	42.9%	19.4%	2.6%	2.1%	1.6%	7.3%	23.0%	44.5%	15.2%	7.9%	2.1%
	70 歳以上	297	48.1%	28.3%	15.2%	2.7%	2.7%	3.0%	8.1%	18.5%	45.5%	10.4%	10.8%	6.7%

## 《性別》

「①政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ(示威運動)を行うことは、憲法で保障された権利である」については、『そう思う』と回答した男性が 66.4%に対し、女性は 49.3%と、男性が女性を 17.1 ポイント上回っています。

「⑥競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」については、『そう思う』と回答した男性が 24.8%に対し、女性は 14.5%と、男性が女性を 10.3 ポイント上回り、『そう思わない』と回答した女性が 52.5%に対し、男性は 44.2%と女性が男性を 8.3 ポイント上回っています。

「⑦日本国憲法は、国民が従うべきルールである」については、『そう思う』と回答した男性が 78.6%に対し、女性は 68.4%と、男性が女性を 10.2 ポイント上回っています。

「⑧これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」については、『そう思う』と回答した男性が 36.3%に対し、女性は 22.5%と、男性が女性を 13.8 ポイント上回っています。

これら以外の項目については大きな差は見られません。

## 《年齢別》

### 1) 若年層(18,19 歳、20 歳代)の特徴

「①政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ(示威運動)を行うことは、憲法で保障された権利である」については、『そう思う』と回答した18,19 歳が61.9%、20 歳代が60.2%と、他の年齢に比べて多くなっています。

「⑥競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」については、『そう思う』と回答した18,19 歳が36.9%と最も多くなっています。

「⑧これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」については、『そう思う』と回答した18,19 歳が30.9%、20 歳代が32.3%と、他の年齢に比べて多くなっています。

### 2) 高齢層(60 歳代、70 歳以上)の特徴

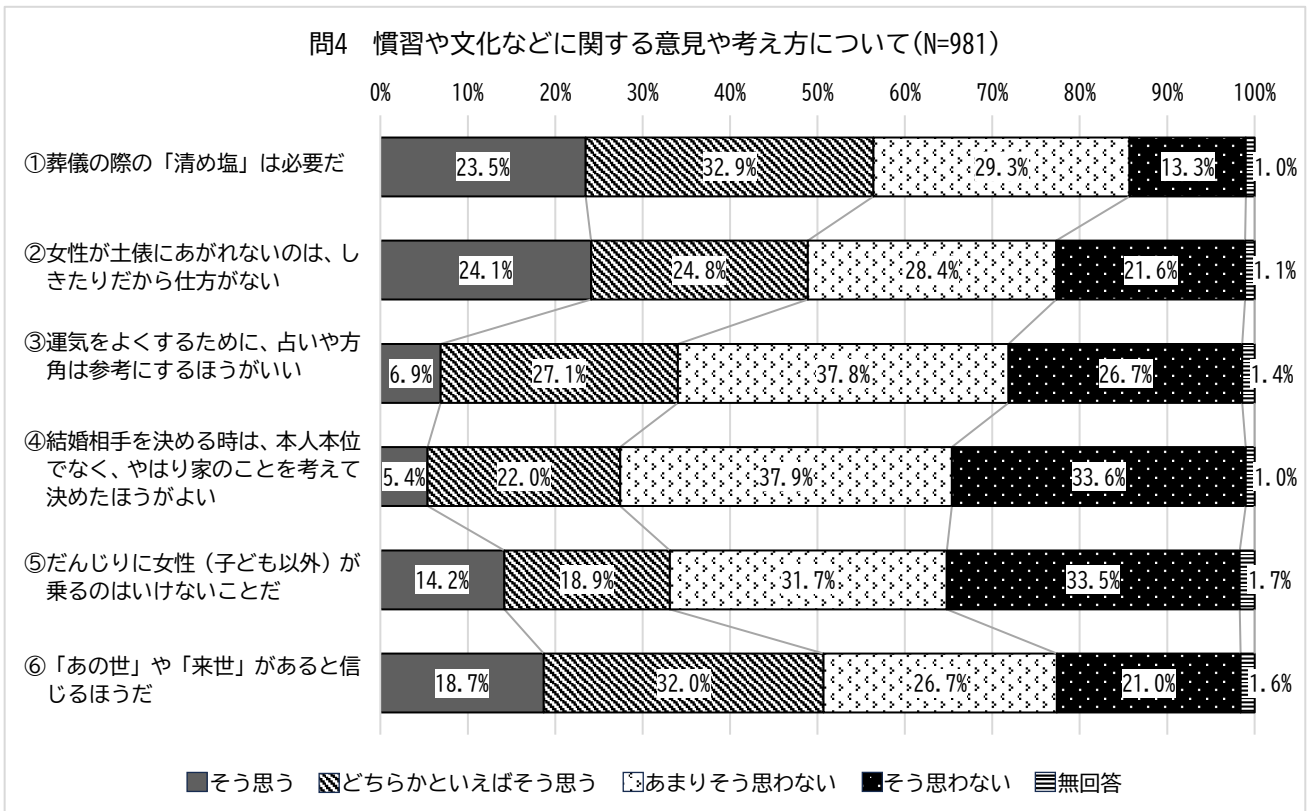
「②思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」については、『そう思う』と回答した70 歳以上が60.6%で最も多く、個人の心構えを重視する傾向が伺えます。

「⑦日本国憲法は、国民が従うべきルールである」については、『そう思う』と回答した70 歳以上が76.4%で最も多くなっています。

⑧「これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」という意見に『そう思う』が28.3%と、『そう思わない』の20.8%を上回っており、判断保留の「どちらともいえない」が5割近くなっています。人権施策(人権に関する取り組み)は、社会の中で生じる不利益や孤立を防ぎ、誰もが尊厳をもって生活できる環境を整えるために必要です。こうした課題を放置すると支援につながらない人が増え、不公平感や地域への不信が広がり、安心して暮らせる環境が損なわれます。人権施策は、地域社会の基盤を支える取り組みであり、その重要性をすべての方に理解していただくことが求められます。

### (3) 慣習や文化などについて

問4 次のような慣習や文化などに関する意見や考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「①葬儀の際の『清め塩』は必要だ』については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』が56.4%に対し、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない』は42.6%と、『そう思う』が『そう思わない』を13.8ポイント上回っています。

反対に「④結婚相手を決める時は、本人本位でなく、やはり家のことを考えて決めたほうがよい』については、『そう思わない』が71.5%に対し、『そう思う』は27.4%と、『そう思わない』が『そう思う』を44.1ポイント上回り、「⑤だんじりに女性(子ども以外)が乗るのはいけないことだ』については、『そう思わない』が65.2%に対し、『そう思う』は33.1%と、『そう思わない』が『そう思う』を32.1ポイント上回り、「③運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい』については、『そう思わない』が64.5%に対し、『そう思う』は34.0%と、『そう思わない』が『そう思う』を30.5ポイント上回っています。

また、「②女性が土俵にあがれないのは、しきたりだから仕方ない」、「⑥『あの世』や『来世』があると信じるほうだ』については、『そう思わない』と『そう思う』の割合がほぼ拮抗しています。

	母数 (N)	①葬儀の際の「清め塩」は必要だ					②女性が土俵にあがれないのは、しきたりだから仕方がない				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	23.5%	32.9%	29.3%	13.3%	1.0%	24.1%	24.8%	28.4%	21.6%	1.1%
R2 調査	1,263	26.0%	32.9%	26.0%	12.7%	2.4%	23.8%	24.9%	25.3%	23.8%	2.1%
性別											
女性	545	20.9%	33.9%	32.3%	11.4%	1.5%	21.8%	27.7%	28.8%	20.2%	1.5%
男性	416	27.2%	31.5%	25.2%	15.6%	0.5%	26.9%	21.6%	26.7%	24.0%	0.7%
年齢別											
18, 19 歳	84	36.9%	39.3%	21.4%	2.4%	0.0%	17.9%	20.2%	39.3%	22.6%	0.0%
20 歳代	93	20.4%	41.9%	30.1%	5.4%	2.2%	14.0%	21.5%	36.6%	24.7%	3.2%
30 歳代	94	20.2%	41.5%	22.3%	14.9%	1.1%	19.1%	25.5%	26.6%	27.7%	1.1%
40 歳代	96	27.1%	44.8%	25.0%	3.1%	0.0%	22.9%	22.9%	36.5%	17.7%	0.0%
50 歳代	201	23.9%	29.9%	31.3%	14.4%	0.5%	20.4%	25.9%	31.3%	22.4%	0.0%
60 歳代	191	23.6%	31.9%	30.9%	12.6%	1.0%	22.5%	26.2%	29.3%	20.9%	1.0%
70 歳以上	297	23.9%	25.9%	30.6%	17.8%	1.7%	31.3%	25.9%	19.2%	21.5%	2.0%

	母数 (N)	③運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい					④結婚相手を決める時は、本人本位でなく、やはり家のことを考えて決めたほうがよい				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	6.9%	27.1%	37.8%	26.7%	1.4%	5.4%	22.0%	37.9%	33.6%	1.0%
R2 調査	1,263	7.4%	29.1%	34.2%	27.2%	2.0%	5.6%	20.8%	36.0%	35.7%	1.8%
性別											
女性	545	7.2%	28.6%	39.6%	23.3%	1.3%	5.5%	24.2%	39.3%	29.9%	1.1%
男性	416	7.0%	26.0%	34.1%	31.7%	1.2%	5.5%	19.2%	35.3%	39.2%	0.7%
年齢別											
18, 19 歳	84	7.1%	42.9%	28.6%	21.4%	0.0%	7.1%	19.0%	33.3%	40.5%	0.0%
20 歳代	93	9.7%	25.8%	38.7%	24.7%	1.1%	5.4%	19.4%	40.9%	33.3%	1.1%
30 歳代	94	6.4%	31.9%	40.4%	20.2%	1.1%	5.3%	18.1%	40.4%	35.1%	1.1%
40 歳代	96	9.4%	35.4%	35.4%	19.8%	0.0%	2.1%	28.1%	41.7%	28.1%	0.0%
50 歳代	201	9.0%	31.8%	35.8%	23.4%	0.0%	6.0%	23.9%	37.8%	32.3%	0.0%
60 歳代	191	3.1%	28.8%	40.8%	25.7%	1.6%	1.0%	20.4%	44.0%	32.5%	2.1%
70 歳以上	297	6.1%	19.5%	37.4%	34.0%	3.0%	9.4%	21.5%	30.6%	36.7%	1.7%

	母数 (N)	⑤だんじりに女性(子ども以外)が乗るのはいけないことだ					⑥「あの世」や「来世」があると信じるほうだ				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	14.2%	18.9%	31.7%	33.5%	1.7%	18.7%	32.0%	26.7%	21.0%	1.6%
R2 調査	1,263	16.3%	20.4%	31.4%	29.8%	2.1%	19.6%	36.1%	27.3%	15.0%	1.8%
性別											
女性	545	12.3%	22.4%	32.1%	31.2%	2.0%	19.6%	36.1%	27.3%	15.0%	1.8%
男性	416	16.1%	14.7%	30.3%	37.5%	1.4%	17.5%	26.7%	26.0%	28.8%	1.0%
年齢別											
18, 19 歳	84	11.9%	16.7%	29.8%	41.7%	0.0%	28.6%	39.3%	23.8%	8.3%	0.0%
20 歳代	93	11.8%	19.4%	26.9%	40.9%	1.1%	29.0%	30.1%	25.8%	15.1%	0.0%
30 歳代	94	9.6%	11.7%	34.0%	42.6%	2.1%	22.3%	33.0%	30.9%	12.8%	1.1%
40 歳代	96	9.4%	11.5%	34.4%	44.8%	0.0%	17.7%	43.8%	22.9%	15.6%	0.0%
50 歳代	201	16.4%	15.9%	31.3%	35.3%	1.0%	20.4%	33.3%	24.9%	19.4%	2.0%
60 歳代	191	12.6%	23.6%	31.4%	30.9%	1.6%	15.2%	36.1%	25.7%	21.5%	1.6%
70 歳以上	297	16.8%	22.6%	31.0%	26.3%	3.4%	14.8%	23.9%	30.6%	28.3%	2.4%

## 《経年変化》

「①葬儀の際の『清め塩』は必要だ』については、『そう思う』は令和 2 年調査の 58.9%から 56.4%へと、2.5 ポイント減少し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 38.7%から 42.6%へと、3.9 ポイント増加しています。

「③運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい』については、『そう思う』は令和 2 年調査の 36.5%から 34.0%へと、2.5 ポイント減少し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 61.4%から 64.5%へと、3.1 ポイント増加しています。

「⑤だんじりに女性(子ども以外)が乗るのはいけないことだ』については、『そう思う』は令和 2 年調査の 36.7%から 33.1%へと、3.6 ポイント減少し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 61.2%から 65.2%へと、4.0 ポイント増加しています。

## 《性別》

「④結婚相手を決める時は、本人本位でなく、やはり家のことを考えて決めたほうがよい』については、『そう思う』と回答した女性が 29.7%に対し、男性は 24.7%で、女性が男性を 5.0 ポイント上回り、「⑥『あの世』や『来世』があると信じるほうだ』については、『そう思う』と回答した女性が 55.7%に対し、男性は 44.2%で、女性が男性を 11.5 ポイント上回り、『そう思わない』と回答した男性が 54.8%に対し、女性は 42.3%で、男性が女性を 12.5 ポイント上回っています。

その他の項目については、大きな差は見られません。

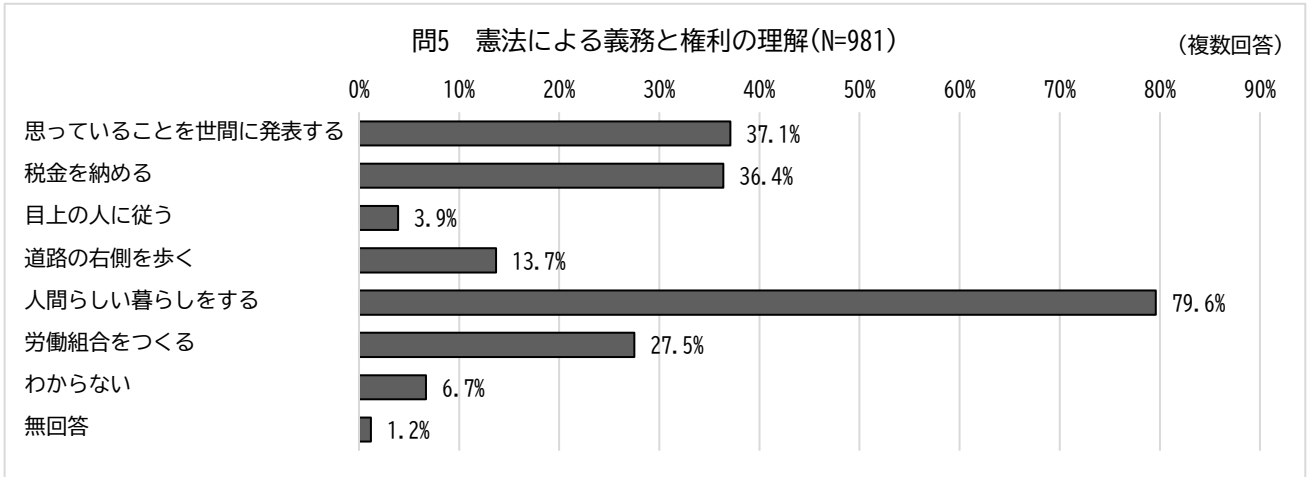
## 《年齢別》

伝統や慣習、俗信について、『そう思う』を年齢別で見ると、「①葬儀の際の『清め塩』は必要だ」「③運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい」「⑥『あの世』や『来世』があると信じるほうだ』については、18,19 歳が順に 76.2%、50.0%、67.9%で最も多く、「②女性が土俵にあげられないのは、しきたりだから仕方がない」「⑤だんじりに女性(子ども以外)が乗るのはいけないことだ』については、70 歳以上が 57.2%、39.4%で最も多くなっています。

また、「④結婚相手を決める時は、本人本位でなく、やはり家のことを考えて決めたほうがよい』については、『そう思う』の回答割合が 40 歳代(30.2%)と 70 歳以上(30.9%)で 30%を超えています。

#### (4) 憲法で決められた権利について

問5 あなたは憲法によって、義務ではなく、国民の権利と決められているのはどれだと思いますか。(〇は  
いくつでも)



憲法で権利として決められているものの割合を見ると、「人間らしい暮らしをする」は79.6%と8割近かったものの、「思っていることを世間に発表する」は37.1%、「労働組合をつくる」は27.5%にすぎませんでした。

義務や道徳、ルールを権利と誤認したものについては「税金を納める」が36.4%、「道路の右側を歩く」が13.7%、「目上の人に従う」が3.9%となっています。

	母数(N)	思っていることを世間に発表する	税金を納める	目上の人に従う	道路の右側を歩く	人間らしい暮らしをする	労働組合をつくる	わからない	無回答
全体	981	37.1%	36.4%	3.9%	13.7%	79.6%	27.5%	6.7%	1.2%
R2調査	1,263	34.8%	33.8%	2.5%	8.2%	81.6%	27.6%	4.4%	3.9%
性別									
女性	545	34.1%	36.9%	3.3%	15.4%	79.8%	25.5%	7.5%	1.1%
男性	416	41.1%	35.6%	4.8%	10.3%	79.8%	30.5%	5.5%	1.2%
年齢別									
18,19歳	84	52.4%	29.8%	13.1%	7.1%	72.6%	40.5%	8.3%	1.2%
20歳代	93	47.3%	36.6%	7.5%	8.6%	74.2%	34.4%	12.9%	0.0%
30歳代	94	50.0%	26.6%	6.4%	9.6%	80.9%	35.1%	9.6%	0.0%
40歳代	96	49.0%	32.3%	1.0%	6.3%	86.5%	29.2%	3.1%	0.0%
50歳代	201	38.3%	31.3%	3.0%	6.5%	81.6%	27.9%	6.0%	1.5%
60歳代	191	32.5%	29.8%	1.0%	7.3%	85.9%	29.3%	5.8%	1.6%
70歳以上	297	28.6%	47.8%	4.4%	26.3%	75.8%	22.6%	5.7%	1.3%

#### 《経年変化》

大きな変化は見られませんが、「道路の右側を歩く」については令和2年調査の8.2%から13.7%へと、5.5ポイント増加しています。

#### 《性別》

憲法で権利として決められているものについては、「思っていることを世間に発表する」と回答した男性が41.1%に対し、女性は34.1%と、男性が女性を7.0ポイント上回り、「労働組合をつくる」と回答した男性が30.5%に対し、女性は25.5%と、男性が女性を5.0ポイント上回っています。

ルールを権利と誤認したものについては、「道路の右側を歩く」と回答した女性が15.4%に対し、男性は10.3%と、女性が男性を5.1ポイント上回っています。

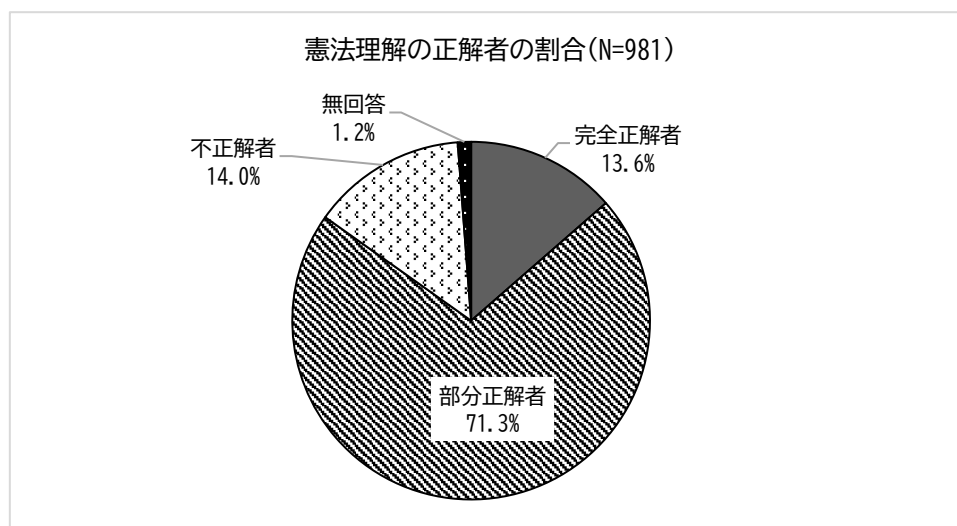
## 《年齢別》

憲法で権利として決められているものについては、「人間らしい暮らしをする」と回答した 40 歳代が 86.5%で最も多く、18,19 歳は 72.6%で最も少なく、13.9 ポイントの差があり、「思っていることを世間に発表する」と回答した 18,19 歳が 52.4%で最も多く、70 歳以上が 28.6%で最も少なく、23.8 ポイントの差があり、「労働組合をつくる」と回答した 18,19 歳が 40.5%で最も多く、70 歳以上が 22.6%で最も少なく、17.9 ポイントの差があります。

義務や道徳、ルールを権利と誤認したものについては、「税金を納める」と回答した 70 歳以上が 47.8%で最も多く、30 歳代は 26.6%で最も少なく、21.2 ポイントの差があり、「道路の右側を歩く」と回答した 70 歳以上が 26.3%で最も多く、40 歳代が 6.3%で最も少なく、20.0 ポイントの差があり、「目上の人に従う」と回答した 18,19 歳が 13.1%で最も多く、40 歳代、60 歳代が共に 1.0%で最も少なく、12.1 ポイントの差があります。

## 憲法理解の程度に関する分類

完全正解者	正答である「思っていることを世間に発表する」「人間らしい暮らしをする」「労働組合をつくる」の3つだけを選択した回答者
部分正解者	3つの正答のうちの一部だけを選択するか、3つの全部または一部を選択した上で、他の項目も選択した回答者
不正解者	3つの正答以外の項目だけを選択した回答者



「完全正解者」については13.6%に過ぎず、「部分正解者」については71.3%に達しています。

	母数(N)	完全正解者	部分正解者	不正解者	無回答
全体	981	13.6%	71.3%	14.0%	1.2%
R2調査	1,263	14.5%	71.3%	10.3%	3.9%
性別	女性	12.1%	72.7%	14.1%	1.1%
	男性	15.4%	69.7%	13.7%	1.2%
年齢別	18,19歳	16.7%	64.3%	17.9%	1.2%
	20歳代	16.1%	64.5%	19.4%	0.0%
	30歳代	16.0%	72.3%	11.7%	0.0%
	40歳代	20.8%	70.8%	8.3%	0.0%
	50歳代	13.4%	73.1%	11.9%	1.5%
	60歳代	17.8%	70.7%	9.9%	1.6%
	70歳以上	8.1%	73.4%	17.2%	1.3%

### 《経年変化》

「不正解者」については令和2年調査の10.3%から14.0%へと、3.7ポイント増加しています。

### 《性別》

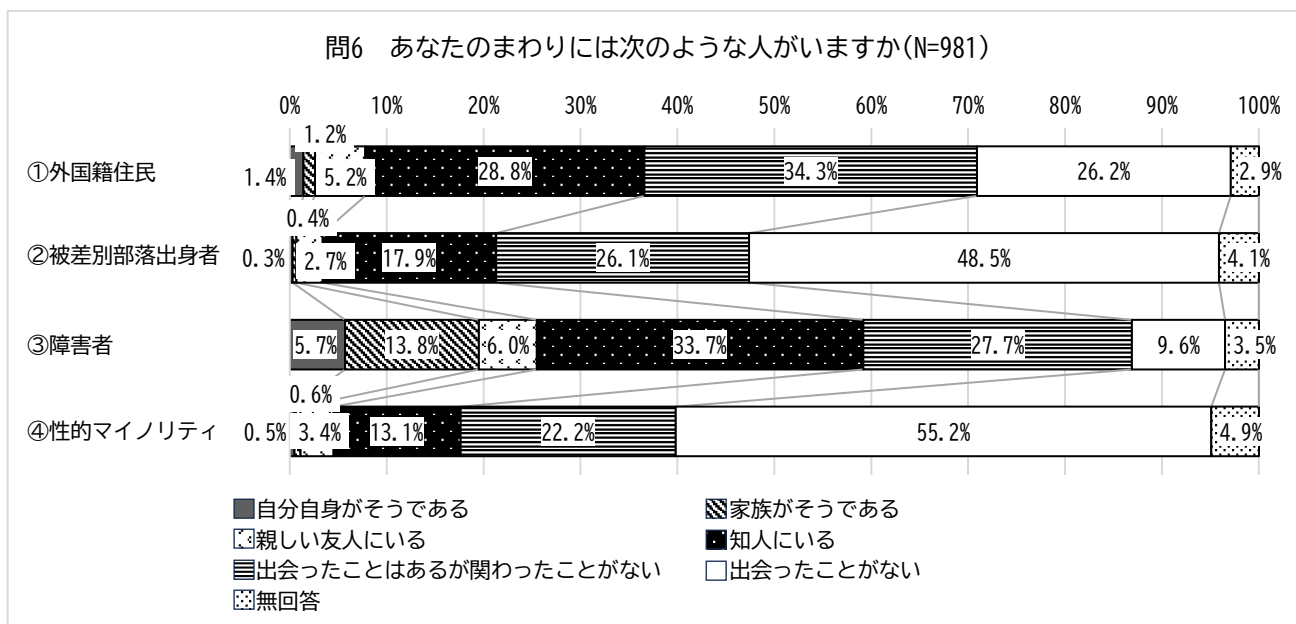
性別には、大きな差は見られません。

### 《年齢別》

「完全正解者」については40歳代が20.8%で最も多く、70歳以上が8.1%で最も少なく、12.7ポイントの差があり、「部分正解者」については70歳以上が73.4%で最も多く、18,19歳は64.3%で最も少なく、9.1ポイントの差があります。

(5) あなたのまわりの少数者について

問6 あなたの周りには次のような人がいますか。(○はそれぞれ1つ)



「①外国籍住民」については、「出会ったことはあるが関わったことがない」が 34.3%で最も多く、次いで「知人にいる」が 28.8%、「出会ったことがない」が 26.2%となっています。

「②被差別部落出身者」については、「出会ったことがない」が 48.5%で最も多く、次いで「出会ったことはあるが関わったことがない」が 26.1%、「知人にいる」が 17.9%となっています。

「③障害者」については「知人にいる」が 33.7%で最も多く、次いで「出会ったことはあるが関わったことがない」が 27.7%、「家族がそうである」が 13.8%となっています。

「④性的マイノリティ」については「出会ったことがない」が 55.2%で最も多く、次いで「出会ったことはあるが関わったことがない」が 22.2%、「知人にいる」が 13.1%となっています。

	母数(N)	①外国籍住民							②被差別部落出身者						
		自分自身がそうである	家族がそうである	親しい友人にいる	知人にいる	出会ったことはあるが関わったことがない	出会ったことがない	無回答	自分自身がそうである	家族がそうである	親しい友人にいる	知人にいる	出会ったことはあるが関わったことがない	出会ったことがない	無回答
全体	981	1.4%	1.2%	5.2%	28.8%	34.3%	26.2%	2.9%	0.3%	0.4%	2.7%	17.9%	26.1%	48.5%	4.1%
R2 調査	1,263	0.2%	0.7%	1.2%	9.0%	25.9%	59.1%	3.8%	0.1%	0.4%	3.0%	14.6%	25.7%	51.9%	4.4%
性別															
女性	545	1.3%	1.1%	3.5%	28.4%	33.6%	28.8%	3.3%	0.4%	0.4%	2.4%	15.2%	24.0%	53.2%	4.4%
男性	416	1.4%	1.4%	7.2%	30.3%	35.1%	23.3%	1.2%	0.2%	0.5%	3.1%	21.4%	29.1%	43.0%	2.6%
年齢別															
18, 19 歳	84	1.2%	0.0%	2.4%	36.9%	25.0%	34.5%	0.0%	1.2%	1.2%	1.2%	6.0%	9.5%	79.8%	1.2%
20 歳代	93	7.5%	0.0%	4.3%	28.0%	39.8%	20.4%	0.0%	0.0%	1.1%	4.3%	7.5%	10.8%	74.2%	2.2%
30 歳代	94	4.3%	1.1%	6.4%	35.1%	29.8%	22.3%	1.1%	1.1%	0.0%	2.1%	13.8%	12.8%	68.1%	2.1%
40 歳代	96	1.0%	0.0%	10.4%	40.6%	28.1%	18.8%	1.0%	0.0%	1.0%	7.3%	14.6%	32.3%	43.8%	1.0%
50 歳代	201	1.0%	1.0%	5.5%	37.8%	35.8%	18.4%	0.5%	0.0%	0.0%	2.0%	22.9%	30.8%	43.3%	1.0%
60 歳代	191	0.0%	1.6%	5.2%	31.4%	38.2%	21.5%	2.1%	0.0%	1.0%	1.6%	25.7%	34.0%	35.1%	2.6%
70 歳以上	297	0.0%	2.0%	3.4%	15.8%	34.3%	38.7%	5.7%	0.3%	0.0%	2.0%	15.2%	24.9%	49.2%	8.4%

	母数 (N)	③障害者							④性的マイノリティ(少数者)							
		自分自身が そうである	家族が そうである	親しい 友人に いる	知人に いる	出会った ことは あるが 関わった ことが ない	出会った ことが ない	無回答	自分自身が そうである	家族が そうである	親しい 友人に いる	知人に いる	出会った ことは あるが 関わった ことが ない	出会った ことが ない	無回答	
全体	981	5.7%	13.8%	6.0%	33.7%	27.7%	9.6%	3.5%	0.5%	0.6%	3.4%	13.1%	22.2%	55.2%	4.9%	
R2 調査	1,263	3.6%	13.5%	6.3%	30.3%	33.5%	9.5%	3.2%	0.4%	0.2%	2.5%	8.8%	18.8%	64.2%	5.1%	
性別	女性	545	4.4%	14.3%	5.0%	30.8%	30.5%	10.8%	4.2%	0.6%	0.6%	4.4%	13.4%	18.5%	57.2%	5.3%
	男性	416	7.5%	13.2%	7.5%	38.0%	24.8%	7.2%	1.9%	0.2%	0.7%	2.2%	13.0%	27.6%	53.1%	3.1%
年齢別	18,19 歳	84	6.0%	16.7%	2.4%	35.7%	27.4%	11.9%	0.0%	1.2%	0.0%	8.3%	25.0%	16.7%	48.8%	0.0%
	20 歳代	93	7.5%	10.8%	2.2%	31.2%	35.5%	10.8%	2.2%	4.3%	0.0%	7.5%	21.5%	24.7%	39.8%	2.2%
	30 歳代	94	6.4%	16.0%	7.4%	30.9%	30.9%	6.4%	2.1%	1.1%	4.3%	17.0%	25.5%	14.9%	35.1%	2.1%
	40 歳代	96	4.2%	16.7%	5.2%	37.5%	29.2%	6.3%	1.0%	0.0%	0.0%	3.1%	19.8%	26.0%	50.0%	1.0%
	50 歳代	201	6.5%	16.9%	6.5%	40.8%	21.9%	7.0%	0.5%	0.0%	1.0%	1.0%	17.9%	29.4%	49.8%	1.0%
	60 歳代	191	4.7%	12.6%	9.9%	39.3%	25.1%	5.8%	2.6%	0.0%	0.0%	2.1%	11.0%	28.8%	55.5%	2.6%
	70 歳以上	297	6.1%	12.1%	4.4%	26.3%	30.0%	14.1%	7.1%	0.0%	0.0%	0.3%	3.0%	15.2%	70.4%	11.1%

### 《経年変化》

「①外国籍住民」については、「知人にいる」は令和 2 年調査の 9.0%から 28.8%へと、19.8 ポイント増加し、「出会ったことはあるが関わったことがない」は令和 2 年調査の 25.9%から 34.3%へと、8.4 ポイント増加し、「出会ったことがない」は令和 2 年調査の 59.1%から 26.2%へと、32.9 ポイント減少しています。

「②被差別部落出身者」については、「知人にいる」は令和 2 年調査の 14.6%から 17.9%へと、3.3 ポイント増加し、「出会ったことがない」は令和 2 年調査の 51.9%から 48.5%へと、3.4 ポイント減少しています。

「③障害者」については、「知人にいる」は令和 2 年調査の 30.3%から 33.7%へと、3.4 ポイント増加し、「出会ったことはあるが関わったことがない」は令和 2 年調査の 33.5%から 27.7%へと、5.8 ポイント減少しています。

「④性的マイノリティ」については、「知人にいる」は令和 2 年調査の 8.8%から 13.1%へと、4.3 ポイント増加し、「出会ったことはあるが関わったことがない」は令和 2 年調査の 18.8%から 22.2%へと、3.4 ポイント増加し、「出会ったことがない」は令和 2 年調査の 64.2%から 55.2%へと、9.0 ポイント減少しています。

### 《性別》

「①外国籍住民」については、「親しい友人にいます」と回答した男性が 7.2%に対し、女性は 3.5%と、男性が女性を 3.7 ポイント上回り、「出会ったことがない」と回答した女性が 28.8%に対し、男性が 23.3%と、女性が男性を 5.5 ポイント上回っています。

「②被差別部落出身者」については、「知人にいる」と回答した男性が 21.4%に対し、女性は 15.2%と、男性が女性を 6.2 ポイント上回り、「出会ったことはあるが関わったことがない」と回答した男性が 29.1%に対し、女性は 24.0%と、男性が女性を 5.1 ポイント上回り、「出会ったことがない」と回答した女性が 43.0%に対し、男性は 53.2%と、女性が男性を 10.2 ポイント上回っています。

「③障害者」については、「知人にいる」と回答した男性が 38.0%に対し、女性は 30.8%と、男性が女性を 7.2 ポイント上回り、「出会ったことはあるが関わったことがない」と回答した女性が 30.5%に対し、男性は 24.8%と、女性が男性を 5.7 ポイント上回り、「出会ったことがない」と回答した女性が 10.8%に対し、男性は 7.2%と、女性が男性を 3.6 ポイント上回っています。

「④性的マイノリティ(少数者)」については、「出会ったことはあるが関わったことがない」と回答した男性が

27.6%に対し、女性は 18.5%と、男性が女性を 9.1 ポイント上回り、「出会ったことがない」と回答した男性が 53.1%に対し、女性は 57.2%と、女性が男性を 4.1 ポイント上回っています。

#### 《年齢別》

「①外国籍住民」については、「自分自身がそうである」「出会ったことはあるが関わったことがない」の割合は、20 歳代が順に 7.5%、39.8%と最も多く、「親しい友人にいる」「知人にいる」の割合は、40 歳代が順に 10.4%、40.6%と、最も多くなっています。また、「出会ったことがない」の割合は、70 歳以上が 38.7%と、最も多くなっています。

「②被差別部落出身者」については、「親しい友人にいる」の割合は 40 歳代が 7.3%と最も多く、「知人にいる」「出会ったことはあるが関わったことがない」の割合は、60 歳代が順に 25.7%、34.0%と最も多くなっています。また、「出会ったことがない」の割合は、18,19 歳が 79.8%と最も多くなっています。

「③障害者」については、「出会ったことはあるが関わったことがない」の割合は、20 歳代が 35.5%と最も多く、「家族がそうである」「知人にいる」の割合は、50 歳代が順に 16.9%、40.8%と最も多くなっています。

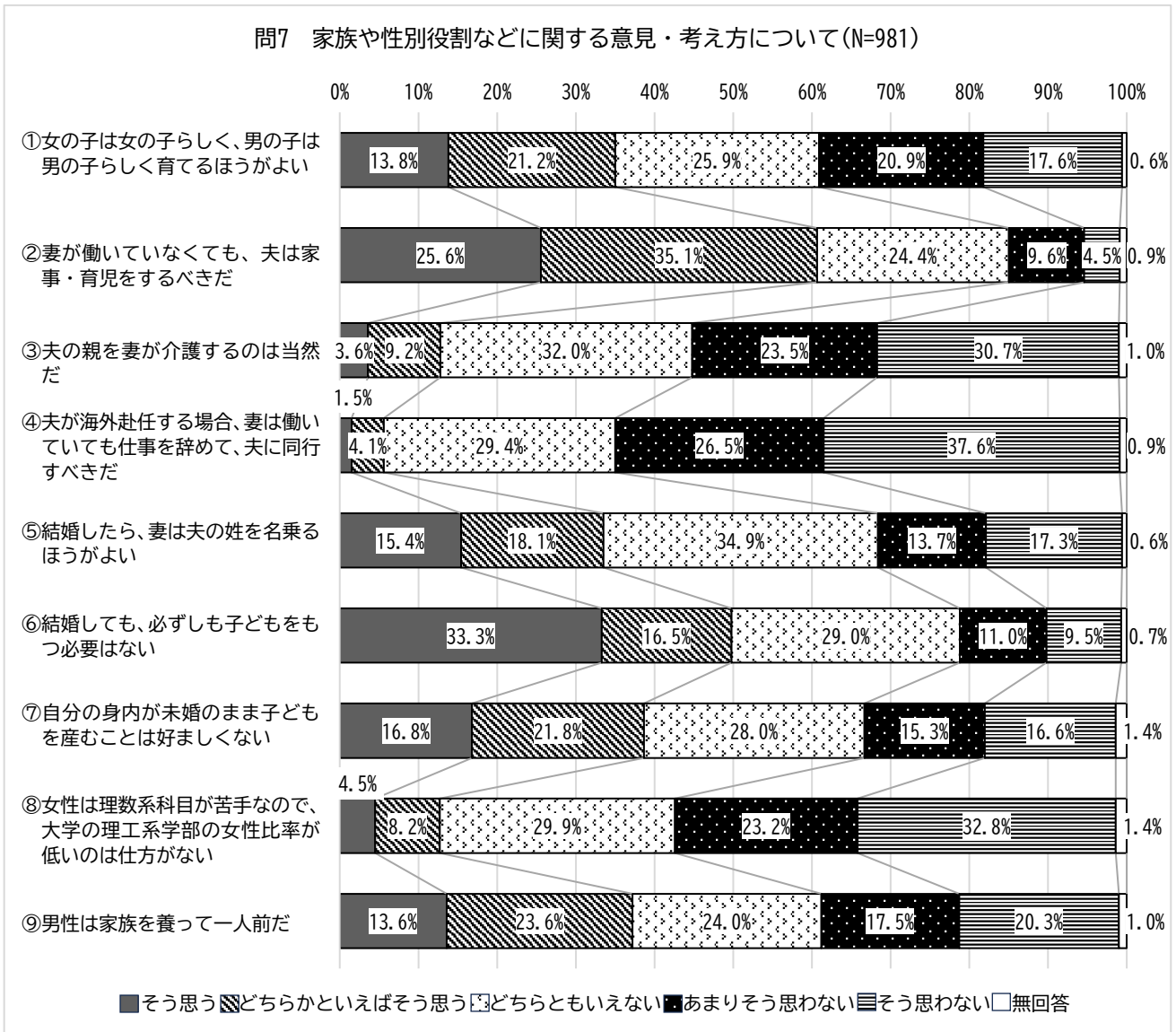
また、「親しい友人にいる」の割合は、60 歳代が 9.9%と最も多く、「出会ったことがない」の割合は、70 歳以上が 14.1%と最も多くなっています。

「④性的マイノリティ(少数者)」については、「自分自身がそうである」の割合は 20 歳代が最も多く、「家族がそうである」「親しい友人にいる」「知人にいる」の割合は、30 歳代が順に 4.3%、17.0%、25.5%と最も多くなっています。また、「出会ったことはあるが関わったことがない」の割合は、50 歳代が 29.4%と最も多く、「出会ったことがない」の割合は、70 歳以上が 70.4%と最も多くなっています。

社会に差別や偏見があるために当事者が名乗りにくいという問題が被差別部落出身者や性的マイノリティ(少数者)にあります。そのため、これらの人たちに「出会ったことがない」という回答割合が 5 割前後と、外国人住民や障害者に比べて非常に多くなっています。可視性の低い人権課題については、当事者が安心して名乗ることができる環境(差別や偏見のない社会)をつくっていくことが大事であり、そのためには正しい知識に触れる機会を増やし、さらなる理解促進を目指す必要があります。

(6) 家族や性別役割などについて

問7 家族や性別役割などに関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合を見ると、「②妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ」が 60.7%で最も多く、次いで「⑥結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」が 49.8%、「⑦自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」が 38.6%となっています。

反対に、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合では、「④夫が海外赴任する場合、妻は働いていても仕事を辞めて、夫に同行すべきだ」が 64.1%で最も多く、次いで「⑧女性は理数系科目が苦手なので、大学の理工系学部の女性比率が少ないのは仕方がない」が 56.0%、「③夫の親を妻が介護するのは当然だ」が 54.2%、「①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい」が 38.5%、「⑨男性は家族を養って一人前だ」が 37.8%となっています。

また、「どちらともいえない」の回答割合は、「⑤結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい」が 34.9%で最も多くなっています。

	母数 (N)	①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい						②妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体	981	13.8%	21.2%	25.9%	20.9%	17.6%	0.6%	25.6%	35.1%	24.4%	9.6%	4.5%	0.9%
性別													
女性	545	7.7%	15.8%	28.3%	26.8%	20.9%	0.6%	28.8%	35.6%	21.8%	8.3%	5.0%	0.6%
男性	416	21.6%	28.6%	23.3%	13.0%	12.7%	0.7%	22.1%	35.8%	27.2%	10.6%	3.6%	0.7%
年齢別													
18,19歳	84	8.3%	13.1%	13.1%	32.1%	33.3%	0.0%	22.6%	31.0%	27.4%	10.7%	8.3%	0.0%
20歳代	93	10.8%	11.8%	25.8%	28.0%	22.6%	1.1%	34.4%	34.4%	18.3%	5.4%	6.5%	1.1%
30歳代	94	7.4%	11.7%	24.5%	19.1%	36.2%	1.1%	37.2%	34.0%	19.1%	5.3%	3.2%	1.1%
40歳代	96	9.4%	19.8%	28.1%	27.1%	14.6%	1.0%	32.3%	26.0%	24.0%	14.6%	2.1%	1.0%
50歳代	201	11.4%	21.4%	30.3%	18.9%	17.4%	0.5%	23.9%	39.3%	24.4%	7.5%	4.5%	0.5%
60歳代	191	11.5%	25.1%	27.7%	23.0%	12.6%	0.0%	21.5%	44.0%	24.1%	6.3%	3.7%	0.5%
70歳以上	297	21.2%	24.6%	22.2%	18.2%	12.8%	1.0%	20.5%	31.3%	28.6%	12.5%	6.1%	1.0%

	母数 (N)	③夫の親を妻が介護するのは当然だ						④夫が海外赴任する場合、妻は働いていても仕事を辞めて、夫に同行すべきだ					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体	981	3.6%	9.2%	32.0%	23.5%	30.7%	1.0%	1.5%	4.1%	29.4%	26.5%	37.6%	0.9%
性別													
女性	545	3.5%	7.3%	27.2%	25.5%	35.6%	0.9%	1.5%	4.0%	25.9%	27.2%	40.7%	0.7%
男性	416	3.8%	12.0%	38.9%	20.2%	24.0%	1.0%	1.4%	4.1%	34.4%	24.8%	34.1%	1.2%
年齢別													
18,19歳	84	2.4%	0.0%	14.3%	26.2%	57.1%	0.0%	0.0%	3.6%	15.5%	29.8%	51.2%	0.0%
20歳代	93	4.3%	6.5%	25.8%	21.5%	40.9%	1.1%	1.1%	2.2%	30.1%	28.0%	37.6%	1.1%
30歳代	94	3.2%	8.5%	30.9%	17.0%	39.4%	1.1%	0.0%	2.1%	24.5%	22.3%	50.0%	1.1%
40歳代	96	0.0%	3.1%	29.2%	25.0%	41.7%	1.0%	1.0%	2.1%	24.0%	21.9%	50.0%	1.0%
50歳代	201	2.5%	6.0%	30.3%	29.4%	30.8%	1.0%	1.0%	2.5%	29.9%	26.9%	39.3%	0.5%
60歳代	191	1.6%	10.5%	34.0%	25.1%	27.7%	1.0%	0.5%	3.7%	29.3%	29.8%	36.6%	0.0%
70歳以上	297	6.7%	14.1%	35.0%	19.9%	23.2%	1.0%	3.4%	6.4%	32.7%	25.9%	29.6%	2.0%

	母数 (N)	⑤結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい						⑥結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない					
		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
全体	981	15.4%	18.1%	34.9%	13.7%	17.3%	0.6%	33.3%	16.5%	29.0%	11.0%	9.5%	0.7%
性別													
女性	545	12.1%	16.7%	34.7%	15.4%	20.6%	0.6%	36.3%	16.1%	31.4%	7.3%	8.1%	0.7%
男性	416	19.7%	20.4%	35.1%	10.8%	13.2%	0.7%	29.6%	17.3%	26.0%	15.4%	11.1%	0.7%
年齢別													
18,19歳	84	7.1%	15.5%	32.1%	16.7%	28.6%	0.0%	70.2%	21.4%	6.0%	1.2%	1.2%	0.0%
20歳代	93	9.7%	14.0%	45.2%	14.0%	16.1%	1.1%	60.2%	21.5%	9.7%	5.4%	3.2%	0.0%
30歳代	94	9.6%	12.8%	31.9%	11.7%	33.0%	1.1%	59.6%	17.0%	18.1%	1.1%	3.2%	1.1%
40歳代	96	14.6%	13.5%	36.5%	19.8%	14.6%	1.0%	49.0%	21.9%	19.8%	7.3%	1.0%	1.0%
50歳代	201	11.4%	17.4%	35.3%	15.4%	19.9%	0.5%	31.8%	17.9%	31.8%	8.5%	9.5%	0.5%
60歳代	191	12.0%	16.2%	42.9%	12.6%	16.2%	0.0%	21.5%	15.7%	40.8%	14.7%	7.3%	0.0%
70歳以上	297	23.9%	23.9%	28.3%	10.1%	12.8%	1.0%	19.5%	14.1%	32.0%	15.8%	17.2%	1.3%

	母数 (N)	⑦自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない						⑧女性は理数系科目が苦手なので、大学の理工系学部の女性比率が少ないのは仕方ない						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	16.8%	21.8%	28.0%	15.3%	16.6%	1.4%	4.5%	8.2%	29.9%	23.2%	32.8%	1.4%	
性別	女性	545	13.9%	21.7%	29.0%	14.1%	20.0%	1.3%	4.0%	7.7%	30.1%	24.0%	32.5%	1.7%
	男性	416	20.0%	22.4%	26.4%	17.3%	12.5%	1.4%	4.8%	8.9%	29.8%	21.9%	33.4%	1.2%
年齢別	18, 19 歳	84	16.7%	21.4%	22.6%	19.0%	20.2%	0.0%	4.8%	17.9%	27.4%	17.9%	32.1%	0.0%
	20 歳代	93	10.8%	24.7%	24.7%	16.1%	22.6%	1.1%	3.2%	9.7%	33.3%	22.6%	30.1%	1.1%
	30 歳代	94	6.4%	17.0%	29.8%	16.0%	29.8%	1.1%	5.3%	2.1%	27.7%	25.5%	38.3%	1.1%
	40 歳代	96	12.5%	26.0%	25.0%	17.7%	17.7%	1.0%	3.1%	6.3%	29.2%	28.1%	32.3%	1.0%
	50 歳代	201	13.4%	18.4%	30.3%	12.9%	24.4%	0.5%	4.5%	6.0%	34.3%	17.4%	37.3%	0.5%
	60 歳代	191	13.6%	16.8%	32.5%	23.0%	13.1%	1.0%	1.6%	8.4%	25.7%	28.8%	35.1%	0.5%
	70 歳以上	297	25.6%	27.3%	24.6%	12.5%	7.4%	2.7%	6.7%	10.8%	29.3%	21.9%	27.9%	3.4%

	母数 (N)	⑨男性は家族を養って一人前だ						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	13.6%	23.6%	24.0%	17.5%	20.3%	1.0%	
性別	女性	545	8.8%	20.9%	24.0%	20.9%	24.4%	0.9%
	男性	416	19.7%	27.9%	23.3%	12.7%	15.1%	1.2%
年齢別	18, 19 歳	84	6.0%	21.4%	23.8%	17.9%	31.0%	0.0%
	20 歳代	93	15.1%	29.0%	21.5%	14.0%	19.4%	1.1%
	30 歳代	94	8.5%	18.1%	19.1%	27.7%	25.5%	1.1%
	40 歳代	96	12.5%	20.8%	13.5%	26.0%	26.0%	1.0%
	50 歳代	201	12.9%	19.9%	31.8%	12.9%	21.9%	0.5%
	60 歳代	191	8.9%	24.6%	26.7%	18.3%	20.9%	0.5%
	70 歳以上	297	17.8%	27.3%	21.9%	14.5%	16.5%	2.0%

## 《性別》

男性が女性より『そう思う』が上回っているのは以下の通りです。

「①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい」については男性が 50.2%に対し、女性は 23.5%と、男性が女性を 26.7 ポイント上回っています。

「③夫の親を妻が介護するのは当然だ」については男性が 15.8%に対し、女性は 10.8%と、男性が女性を 5.0 ポイント上回っています。

「⑤結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい」については男性が 40.1%に対し、女性は 28.8%と、男性が女性を 11.3 ポイント上回っています。

「⑦自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない」については男性が 42.4%に対し、女性は 35.6%と、男性が女性を 6.8 ポイント上回っています。

「⑨男性は家族を養って一人前だ」については男性が 47.6%に対し、女性は 29.7%と、男性が女性を 17.9 ポイント上回っています。

反対に、女性が男性より『そう思う』が上回っているのは以下の通りです。

「②妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ」については女性が 64.4%に対し、男性は 57.9%と、女性が男性を 6.5 ポイント上回っています。

「⑥結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」については女性が 52.4%に対し、男性は 46.9%と、女性が男性を 5.5 ポイント上回っています。

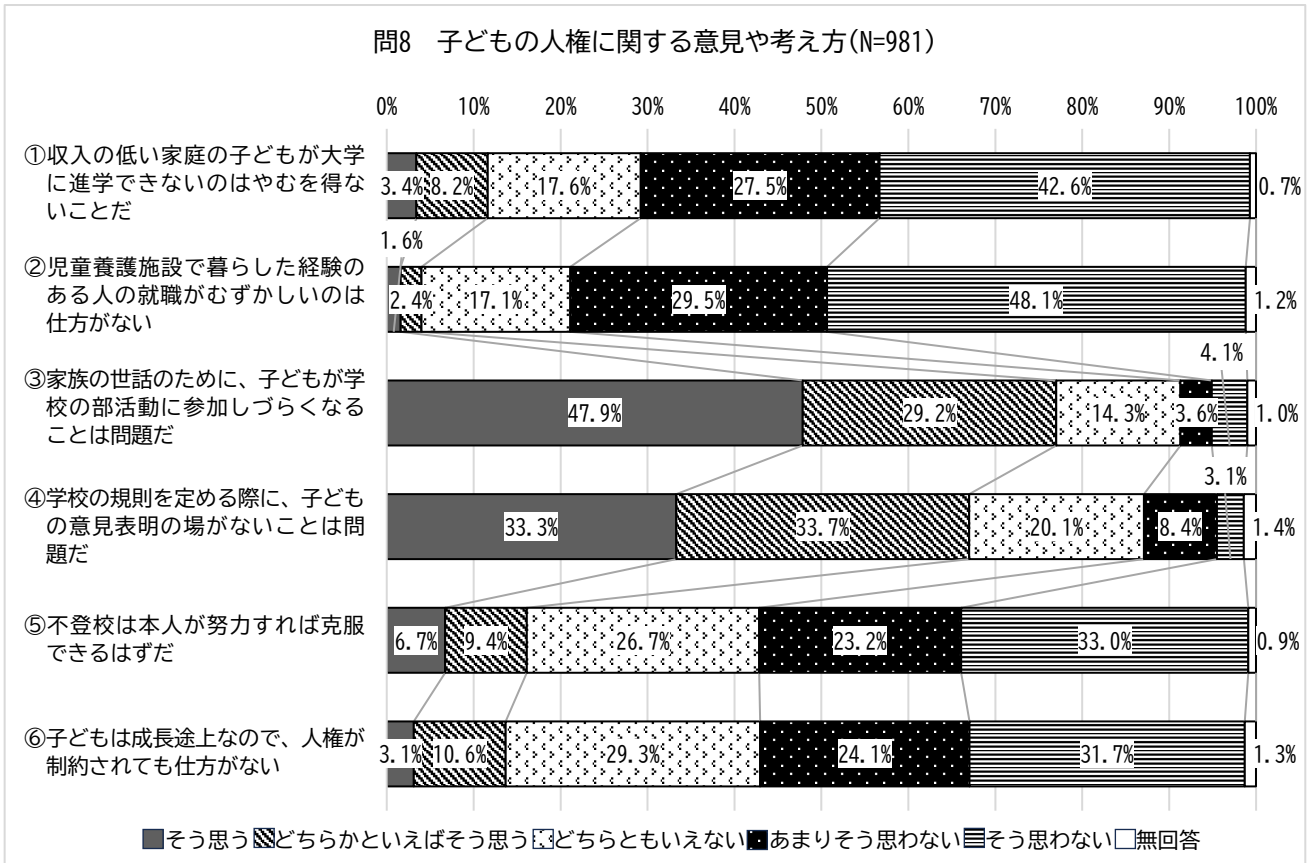
## 《年齢別》

「①女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい」については、『そう思う』の割合は、70歳以上が45.8%と最も多く、『そう思わない』の割合は、18,19歳が65.4%と最も多くなっています。また、「③夫の親を妻が介護するのは当然だ」についても、『そう思う』の割合は、70歳以上が20.8%と最も多く、『そう思わない』の割合は、18,19歳が83.3%と最も多くなっています。

「⑥結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない」については、『そう思う』の割合は、年齢が上がるにつれ減少しており、18,19歳が91.6%と最も多くなっています。反対に、『そう思わない』の割合は、年齢が上がるにつれ増加しており、70歳以上が33.0%と最も多くなっています。

(7) 子どもの人権について

問8 子どもの人権に関する次のような意見や考え方について、あなたはどう思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「③家族の世話のために、子どもが学校の部活動に参加しづらくなることは問題だ」が77.1%で最も多く、次いで「④学校の規則を定める際に、子どもの意見表明の場がないことは問題だ」が67.0%となっています。

反対に、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合では、「②児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」が77.6%で最も多く、次いで「①収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ」が70.1%、「⑤不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」が56.2%、「⑥子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方がない」が55.8%となっています。

	母数 (N)	①収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ						②児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方ない					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	3.4%	8.2%	17.6%	27.5%	42.6%	0.7%	1.6%	2.4%	17.1%	29.5%	48.1%	1.2%
性別													
女性	545	2.9%	8.1%	18.3%	28.4%	41.7%	0.6%	1.3%	2.0%	17.4%	30.1%	48.4%	0.7%
男性	416	3.6%	8.2%	16.8%	25.7%	44.7%	1.0%	2.2%	3.1%	16.6%	28.4%	48.3%	1.4%
年齢別													
18,19歳	84	7.1%	7.1%	13.1%	31.0%	41.7%	0.0%	2.4%	4.8%	16.7%	20.2%	56.0%	0.0%
20歳代	93	2.2%	17.2%	30.1%	22.6%	26.9%	1.1%	0.0%	4.3%	20.4%	28.0%	46.2%	1.1%
30歳代	94	2.1%	7.4%	20.2%	30.9%	39.4%	0.0%	1.1%	1.1%	14.9%	24.5%	58.5%	0.0%
40歳代	96	3.1%	9.4%	15.6%	31.3%	39.6%	1.0%	0.0%	0.0%	16.7%	28.1%	54.2%	1.0%
50歳代	201	4.0%	7.5%	13.9%	30.3%	43.8%	0.5%	1.5%	4.5%	13.4%	30.8%	49.3%	0.5%
60歳代	191	1.6%	6.8%	16.2%	28.8%	46.6%	0.0%	0.5%	2.6%	16.8%	30.9%	49.2%	0.0%
70歳以上	297	4.4%	7.1%	17.8%	22.6%	46.5%	1.7%	3.4%	1.7%	19.9%	30.6%	41.8%	2.7%

	母数 (N)	③家族の世話のために、子どもが学校の部活動に参加しづらくなることは問題だ						④学校の規則を定める際に、子どもの意見表明の場がないことは問題だ					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	47.9%	29.2%	14.3%	3.6%	4.1%	1.0%	33.3%	33.7%	20.1%	8.4%	3.1%	1.4%
性別													
女性	545	53.9%	25.7%	12.7%	2.6%	4.4%	0.7%	34.5%	33.8%	21.5%	7.0%	1.8%	1.5%
男性	416	41.3%	33.7%	16.1%	4.6%	3.1%	1.2%	32.5%	34.1%	17.8%	9.6%	4.6%	1.4%
年齢別													
18,19歳	84	50.0%	31.0%	13.1%	2.4%	3.6%	0.0%	46.4%	33.3%	16.7%	3.6%	0.0%	0.0%
20歳代	93	41.9%	32.3%	15.1%	6.5%	3.2%	1.1%	34.4%	33.3%	18.3%	12.9%	1.1%	0.0%
30歳代	94	58.5%	25.5%	10.6%	3.2%	2.1%	0.0%	37.2%	30.9%	21.3%	8.5%	2.1%	0.0%
40歳代	96	60.4%	20.8%	7.3%	5.2%	5.2%	1.0%	38.5%	28.1%	17.7%	8.3%	6.3%	1.0%
50歳代	201	58.2%	22.9%	12.4%	2.0%	4.0%	0.5%	35.3%	31.3%	20.9%	8.5%	3.0%	1.0%
60歳代	191	45.0%	34.0%	14.7%	3.1%	3.1%	0.0%	30.4%	34.0%	19.4%	11.0%	3.7%	1.6%
70歳以上	297	37.7%	31.6%	18.5%	4.7%	5.1%	2.4%	32.0%	38.4%	19.9%	4.7%	2.4%	2.7%

	母数 (N)	⑤不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ						⑥子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方ない					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	6.7%	9.4%	26.7%	23.2%	33.0%	0.9%	3.1%	10.6%	29.3%	24.1%	31.7%	1.3%
性別													
女性	545	5.7%	7.7%	26.4%	22.8%	36.5%	0.9%	2.2%	9.0%	31.4%	25.0%	31.2%	1.3%
男性	416	7.9%	11.8%	26.2%	23.8%	29.3%	1.0%	4.1%	12.7%	26.4%	22.6%	33.2%	1.0%
年齢別													
18,19歳	84	4.8%	13.1%	22.6%	25.0%	34.5%	0.0%	3.6%	17.9%	23.8%	29.8%	25.0%	0.0%
20歳代	93	7.5%	15.1%	23.7%	29.0%	24.7%	0.0%	6.5%	9.7%	34.4%	26.9%	22.6%	0.0%
30歳代	94	1.1%	5.3%	24.5%	27.7%	41.5%	0.0%	1.1%	11.7%	24.5%	31.9%	29.8%	1.1%
40歳代	96	0.0%	11.5%	17.7%	28.1%	41.7%	1.0%	2.1%	10.4%	25.0%	33.3%	28.1%	1.0%
50歳代	201	7.0%	7.5%	24.9%	23.4%	36.8%	0.5%	3.0%	7.0%	26.4%	26.4%	36.8%	0.5%
60歳代	191	2.6%	6.8%	30.9%	22.5%	36.1%	1.0%	2.1%	8.4%	31.4%	20.9%	36.1%	1.0%
70歳以上	297	12.5%	9.8%	29.6%	19.9%	26.6%	1.7%	3.4%	13.1%	31.0%	19.5%	31.0%	2.0%

## 《性別》

「③家族の世話のために、子どもが学校の部活動に参加しづらくなることは問題だ」については、『そう思う』と回答した女性が79.6%に対し、男性は75.0%と、女性が男性を4.6ポイント上回っています。

「④学校の規則を定める際に、子どもの意見表明の場がないことは問題だ」については、『そう思わない』と回答した男性が14.2%に対し、女性は8.8%と、男性が女性を5.4ポイント上回っています。

「⑤不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」については、『そう思う』と回答した男性が19.7%に対し、女性は13.4%と、男性が女性を6.3ポイント上回り、『そう思わない』と回答した女性が59.3%に対し、男性は53.1%と、女性が男性を6.2ポイント上回っています。

「⑥子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方がない」については、『そう思う』と回答した男性が16.8%に対し、女性は11.2%と、男性が女性を5.6ポイント上回っています。

#### 《年齢別》

「①収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ」については、『そう思う』の割合は、20歳代が19.4%と最も多く、『そう思わない』の割合は、60歳代が75.4%と最も多くなっています。

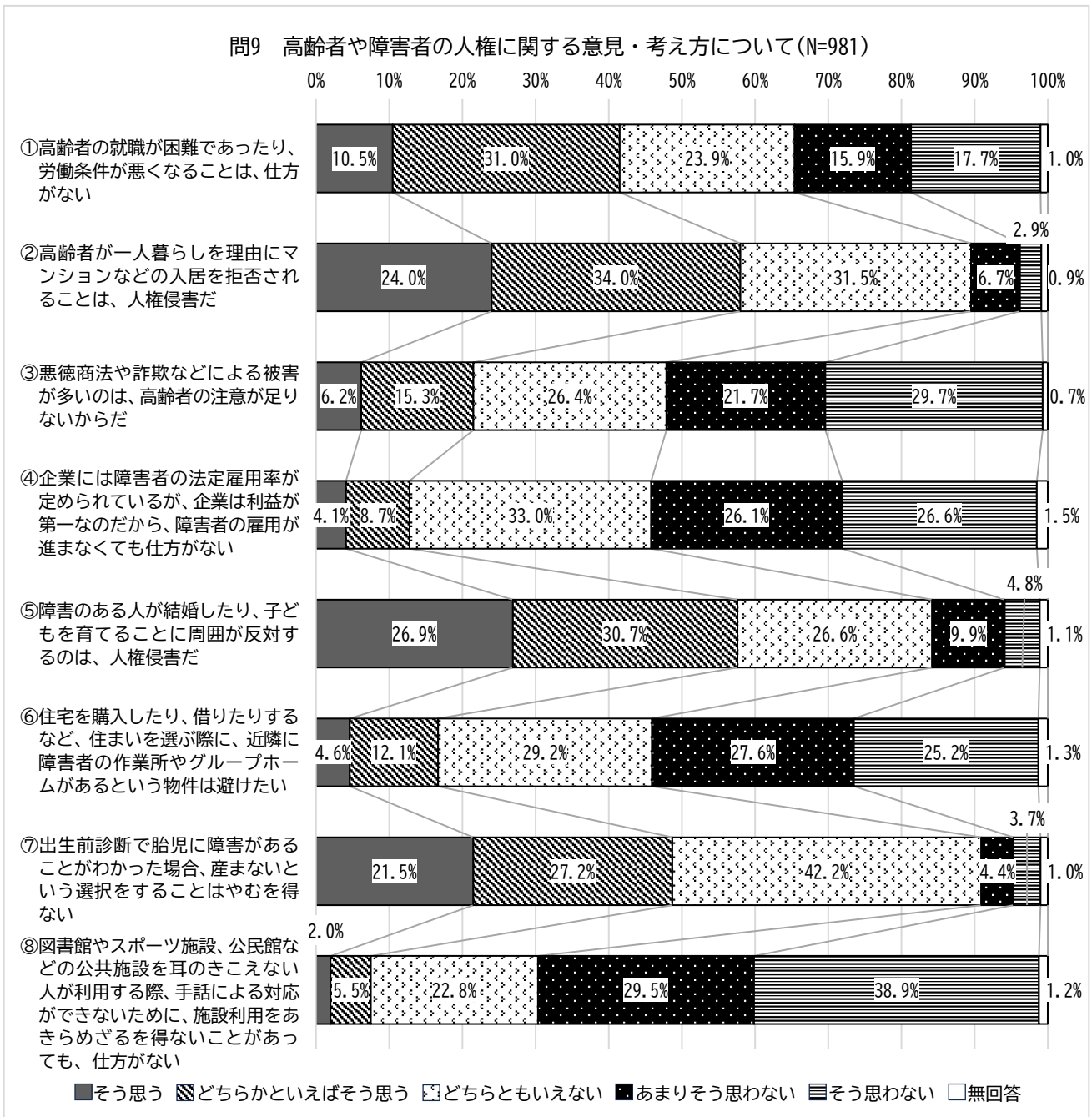
「⑤不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ」については、『そう思う』の割合は、20歳代が22.6%と最も多く、『そう思わない』の割合は、40歳代が69.8%と最も多くなっています。

「⑥子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方がない」については、『そう思う』の割合は、18,19歳が21.5%と最も多く、『そう思わない』の割合は、50歳代が63.2%と最も多くなっています。

「収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ」や「児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」など、人権の視点から問題があるという意見に対しては、『そう思う』の回答割合が『そう思わない』の回答割合を大きく下回っています。家庭の事情などによってさまざまな機会が制限されることを「仕方がない」とせず、社会全体で支え、選択肢を確保する姿勢が求められます。また、子ども自身の努力だけでは解決できない問題については、背景を理解し適切な支援につなげることが重要です。子どもの権利を尊重し、すべての子どもが安心して学び、成長し、自分の可能性を伸ばせる環境を整えることが必要です。

## (8) 高齢者・障害者の人権について

問9 高齢者や障害者の人権に関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合を見ると、「②高齢者が一人暮らしを理由にマンションなどの入居を拒否されることは、人権侵害だ」が 58.0%で最も多く、次いで「⑤障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ」が 57.6%、「⑦出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」が 48.7%、「①高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない」が 41.5%となっています。

反対に、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合では、「⑧図書館やスポーツ施設、公民館などの公共施設を耳のきこえない人が利用する際、手話による対応ができないために、施設利用をあきらめざるを得ないことがあっても、仕方がない」が 68.4%で最も多く、次いで「⑥住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい」が 52.8%、「④企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」が 52.7%、「③悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ」が 51.4%となっています。

	母数 (N)	①高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない						②高齢者が一人暮らしを理由にマンションなどの入居を拒否されることは、人権侵害だ					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	10.5%	31.0%	23.9%	15.9%	17.7%	1.0%	24.0%	34.0%	31.5%	6.7%	2.9%	0.9%
性別													
女性	545	8.3%	31.9%	24.8%	16.7%	17.8%	0.6%	20.9%	34.3%	33.9%	7.3%	2.6%	0.9%
男性	416	13.2%	30.5%	22.4%	14.9%	18.0%	1.0%	28.4%	32.9%	28.4%	6.3%	3.4%	0.7%
年齢別													
18,19歳	84	13.1%	31.0%	21.4%	21.4%	13.1%	0.0%	23.8%	33.3%	32.1%	7.1%	3.6%	0.0%
20歳代	93	20.4%	33.3%	21.5%	16.1%	8.6%	0.0%	16.1%	33.3%	38.7%	7.5%	4.3%	0.0%
30歳代	94	10.6%	35.1%	27.7%	9.6%	16.0%	1.1%	14.9%	33.0%	34.0%	12.8%	4.3%	1.1%
40歳代	96	7.3%	34.4%	18.8%	24.0%	14.6%	1.0%	18.8%	38.5%	31.3%	9.4%	1.0%	1.0%
50歳代	201	8.5%	29.4%	24.4%	15.4%	21.9%	0.5%	24.4%	30.3%	33.8%	7.5%	3.0%	1.0%
60歳代	191	3.7%	24.6%	27.7%	21.5%	22.0%	0.5%	21.5%	38.7%	33.5%	5.8%	0.5%	0.0%
70歳以上	297	13.5%	33.7%	22.9%	12.8%	16.2%	1.0%	32.0%	33.3%	25.3%	4.4%	3.7%	1.3%

	母数 (N)	③悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ						④企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	6.2%	15.3%	26.4%	21.7%	29.7%	0.7%	4.1%	8.7%	33.0%	26.1%	26.6%	1.5%
性別													
女性	545	6.1%	15.0%	27.0%	21.3%	29.9%	0.7%	2.8%	7.7%	34.3%	27.9%	25.5%	1.8%
男性	416	6.5%	15.9%	25.5%	22.6%	28.8%	0.7%	6.0%	9.9%	30.5%	24.0%	28.8%	0.7%
年齢別													
18,19歳	84	3.6%	25.0%	22.6%	22.6%	26.2%	0.0%	9.5%	13.1%	35.7%	20.2%	21.4%	0.0%
20歳代	93	6.5%	18.3%	26.9%	20.4%	26.9%	1.1%	4.3%	16.1%	40.9%	20.4%	16.1%	2.2%
30歳代	94	3.2%	9.6%	23.4%	27.7%	35.1%	1.1%	5.3%	12.8%	33.0%	27.7%	20.2%	1.1%
40歳代	96	2.1%	8.3%	27.1%	29.2%	32.3%	1.0%	4.2%	16.7%	30.2%	24.0%	24.0%	1.0%
50歳代	201	4.0%	11.9%	25.9%	25.4%	32.3%	0.5%	5.5%	8.5%	34.3%	23.9%	27.4%	0.5%
60歳代	191	2.1%	12.0%	32.5%	23.0%	29.8%	0.5%	1.0%	6.3%	31.4%	27.7%	32.5%	1.0%
70歳以上	297	13.1%	22.6%	23.9%	14.8%	24.6%	1.0%	4.0%	4.0%	32.0%	27.9%	29.6%	2.4%

	母数 (N)	⑤障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ						⑥住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい					
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答
全体	981	26.9%	30.7%	26.6%	9.9%	4.8%	1.1%	4.6%	12.1%	29.2%	27.6%	25.2%	1.3%
性別													
女性	545	23.7%	32.1%	27.5%	11.4%	4.4%	0.9%	4.8%	12.3%	31.0%	27.3%	23.3%	1.3%
男性	416	32.0%	29.3%	25.2%	7.5%	5.0%	1.0%	4.6%	11.5%	26.4%	28.6%	27.9%	1.0%
年齢別													
18,19歳	84	28.6%	16.7%	28.6%	17.9%	8.3%	0.0%	4.8%	15.5%	27.4%	32.1%	20.2%	0.0%
20歳代	93	21.5%	32.3%	24.7%	14.0%	6.5%	1.1%	9.7%	12.9%	32.3%	24.7%	20.4%	0.0%
30歳代	94	19.1%	23.4%	29.8%	19.1%	7.4%	1.1%	8.5%	16.0%	25.5%	21.3%	27.7%	1.1%
40歳代	96	31.3%	22.9%	26.0%	15.6%	3.1%	1.0%	5.2%	18.8%	32.3%	22.9%	19.8%	1.0%
50歳代	201	25.4%	32.8%	28.9%	7.0%	5.5%	0.5%	5.0%	13.9%	33.3%	23.4%	23.9%	0.5%
60歳代	191	22.5%	37.7%	29.8%	6.3%	3.7%	0.0%	1.6%	7.9%	30.4%	31.9%	27.7%	0.5%
70歳以上	297	33.3%	30.0%	22.9%	7.7%	4.0%	2.0%	3.4%	8.8%	25.6%	32.7%	26.9%	2.7%

	母数 (N)	⑦出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない						⑧図書館やスポーツ施設、公民館などの公共施設を耳の聞こえない人が利用する際、手話による対応ができないために、施設利用をあきらめざるを得ないことがあっても、仕方がない						
		そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	そう 思う	どちら かとい えばそ う思う	どちら ともい えない	あまり そう思 わない	そう思 わない	無回答	
全体	981	21.5%	27.2%	42.2%	4.4%	3.7%	1.0%	2.0%	5.5%	22.8%	29.5%	38.9%	1.2%	
性別	女性	545	20.4%	30.3%	41.8%	4.4%	2.0%	1.1%	1.7%	4.8%	22.8%	29.9%	39.4%	1.5%
	男性	416	22.1%	24.0%	42.5%	4.6%	5.8%	1.0%	2.6%	6.5%	22.4%	29.1%	38.7%	0.7%
年齢別	18,19歳	84	19.0%	26.2%	34.5%	9.5%	10.7%	0.0%	3.6%	9.5%	22.6%	27.4%	36.9%	0.0%
	20歳代	93	29.0%	28.0%	29.0%	7.5%	6.5%	0.0%	2.2%	8.6%	20.4%	34.4%	33.3%	1.1%
	30歳代	94	30.9%	28.7%	30.9%	4.3%	4.3%	1.1%	3.2%	4.3%	23.4%	29.8%	38.3%	1.1%
	40歳代	96	22.9%	29.2%	43.8%	2.1%	1.0%	1.0%	1.0%	6.3%	17.7%	38.5%	35.4%	1.0%
	50歳代	201	17.9%	29.4%	45.8%	4.0%	2.0%	1.0%	2.5%	5.0%	19.9%	32.8%	39.3%	0.5%
	60歳代	191	13.1%	26.7%	52.4%	4.2%	3.1%	0.5%	0.0%	2.6%	22.0%	33.0%	41.9%	0.5%
70歳以上	297	22.2%	26.3%	40.7%	4.4%	4.7%	1.7%	3.0%	6.1%	26.3%	22.2%	40.4%	2.0%	

### 《性別》

『そう思う』については、「①高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない」(43.7%)、「②高齢者が一人暮らしを理由にマンションなどの入居を拒否されることは、人権侵害だ」(61.3%)、「④企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」(15.9%)、「⑤障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ」(61.3%)の割合は、男性が多くなっています。

一方で、「⑦出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」(50.7%)の割合は、女性が多くなっています。

### 《年齢別》

「①高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない」については、『そう思う』の割合は、20歳代が53.7%と最も多く、『そう思わない』の割合は、60歳代が43.5%と最も多くなっています。

「②高齢者が一人暮らしを理由にマンションなどの入居を拒否されることは、人権侵害だ」については、『そう思う』の割合は、70歳以上が65.3%と最も多く、『そう思わない』の割合は、30歳代が17.1%と最も多くなっています。

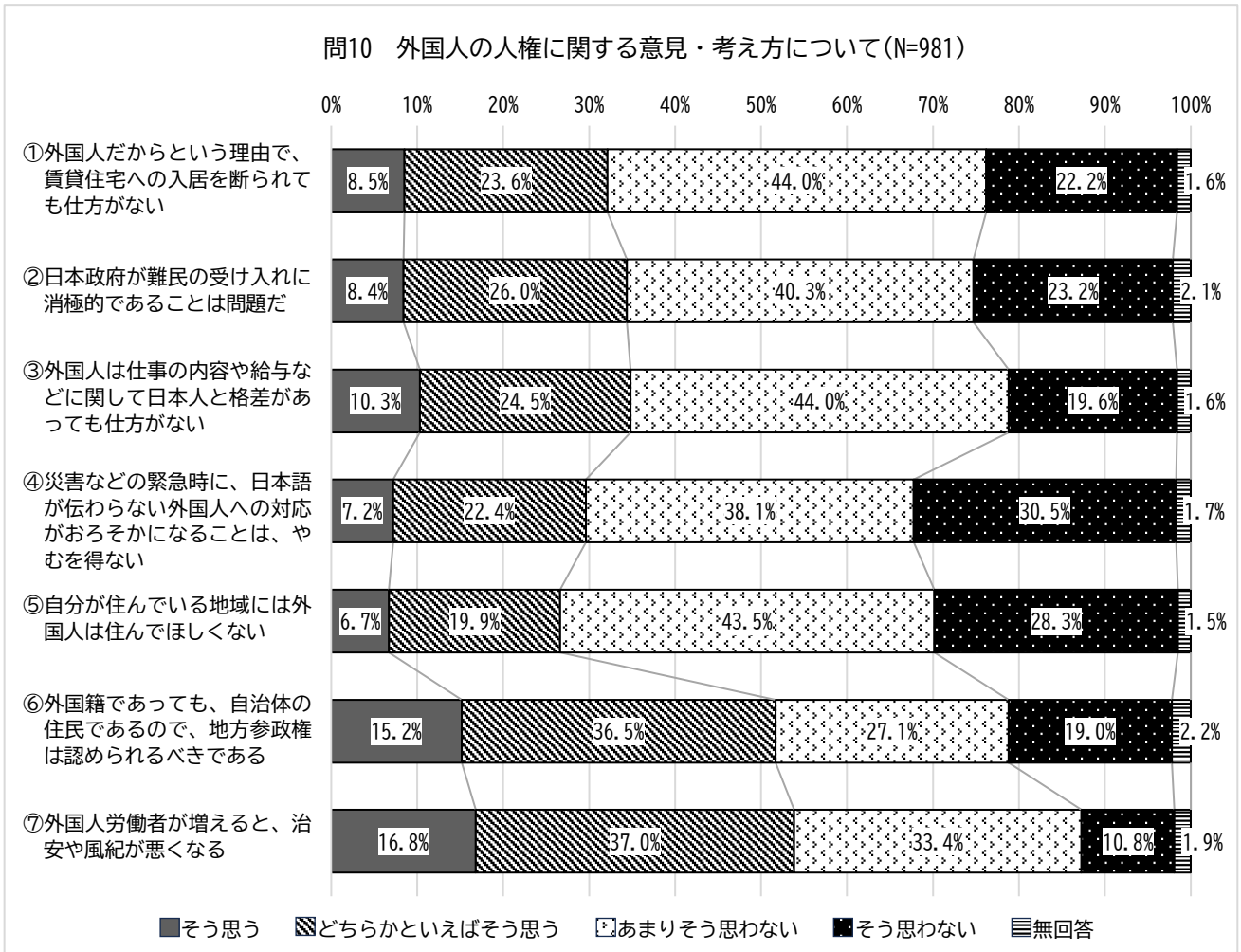
「④企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」については、『そう思う』の割合は、18,19歳が22.6%と最も多く、『そう思わない』の割合は、60歳代が60.2%と最も多くなっています。

「⑦出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」については、『そう思う』の割合は、30歳代が59.6%と最も多く、『そう思わない』の割合は、18,19歳が20.2%と最も多くなっています。

「高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない」という意見に対して『そう思う』という回答割合が『そう思わない』の回答割合を8ポイントほど上回っています。また、「障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対することは、人権侵害だ」という意見に対して『そう思う』という回答割合が5割を超えているものの、『そう思わない』の回答割合が14.7%となっています。「高齢者」や「障害者」といった属性を理由に機会や条件が不当に制限されないようにするには、先入観で決めつけないことや合理的配慮、支援の仕組みを整えるといったことが社会全体で必要です。

(9) 外国人の人権について

問10 外国人の人権に関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「⑦外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」が 53.8%で最も多く、次いで「⑥外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである」が 51.7%となっています。

反対に、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合では、「⑤自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」が 71.8%で最も多く、次いで「④災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない」が 68.6%、「①外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない」が 66.2%、「③外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない」が 63.6%、「②日本政府が難民の受け入れに消極的であることは問題だ」が 63.5%となっています。

	母数 (N)	①外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない					②日本政府が難民の受け入れに消極的であることは問題だ				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	8.5%	23.6%	44.0%	22.2%	1.6%	8.4%	26.0%	40.3%	23.2%	2.1%
R2 調査	1,263	4.7%	14.6%	41.0%	36.5%	3.2%	-	-	-	-	-
性別											
女性	545	7.5%	25.3%	45.0%	20.4%	1.8%	7.2%	26.1%	44.2%	20.0%	1.0%
男性	416	9.6%	21.4%	43.3%	24.8%	1.0%	10.3%	26.0%	35.3%	27.4%	0.9%
年齢別											
18, 19 歳	84	14.3%	26.2%	40.5%	25.0%	0.0%	10.7%	22.6%	31.0%	35.7%	0.0%
20 歳代	93	12.9%	21.5%	50.5%	15.1%	0.0%	5.4%	23.7%	36.6%	33.3%	1.1%
30 歳代	94	11.7%	28.7%	37.2%	20.2%	1.1%	4.3%	11.7%	41.5%	41.5%	1.1%
40 歳代	96	18.8%	20.8%	43.8%	22.9%	1.0%	4.2%	26.0%	39.6%	29.2%	1.0%
50 歳代	201	5.0%	26.4%	41.8%	21.9%	1.0%	10.9%	20.4%	40.3%	26.9%	1.5%
60 歳代	191	11.0%	28.3%	42.4%	23.0%	1.0%	5.8%	29.8%	45.5%	16.8%	2.1%
70 歳以上	297	0.0%	17.8%	47.8%	24.6%	2.7%	12.1%	32.7%	38.4%	13.8%	3.0%

	母数 (N)	③外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない					④災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	10.3%	24.5%	44.0%	19.6%	1.6%	7.2%	22.4%	38.1%	30.5%	1.7%
R2 調査	1,263	8.4%	26.4%	44.8%	18.5%	1.8%	5.3%	21.3%	40.9%	30.5%	2.0%
性別											
女性	545	12.3%	22.6%	43.0%	21.2%	1.0%	9.1%	23.6%	34.6%	31.7%	1.0%
男性	416	11.9%	23.8%	42.9%	21.4%	0.0%	11.9%	28.6%	38.1%	21.4%	0.0%
年齢別											
18, 19 歳	84	15.1%	25.8%	40.9%	17.2%	1.1%	12.9%	26.9%	36.6%	22.6%	1.1%
20 歳代	93	19.1%	31.9%	26.6%	21.3%	1.1%	9.6%	27.7%	34.0%	27.7%	1.1%
30 歳代	94	11.5%	30.2%	42.7%	14.6%	1.0%	5.2%	21.9%	41.7%	30.2%	1.0%
40 歳代	96	11.9%	21.9%	45.8%	19.4%	1.0%	7.5%	19.9%	44.8%	27.4%	0.5%
50 歳代	201	5.8%	22.5%	51.8%	18.8%	1.0%	5.8%	17.8%	45.5%	29.3%	1.6%
60 歳代	191	8.1%	24.2%	44.1%	20.9%	2.7%	6.4%	23.2%	29.3%	38.0%	3.0%
70 歳以上	297										

	母数 (N)	⑤自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない					⑥外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	6.7%	19.9%	43.5%	28.3%	1.5%	15.2%	36.5%	27.1%	19.0%	2.2%
R2 調査	-	-	-	-	-	-	23.9%	38.2%	19.6%	14.5%	3.8%
性別											
女性	545	6.1%	20.2%	44.0%	28.6%	1.1%	15.0%	39.3%	27.7%	15.4%	2.6%
男性	416	7.0%	20.0%	43.0%	28.6%	1.4%	15.1%	33.7%	26.2%	23.8%	1.2%
年齢別											
18, 19 歳	84	8.3%	19.0%	41.7%	31.0%	0.0%	16.7%	38.1%	25.0%	20.2%	0.0%
20 歳代	93	7.5%	20.4%	37.6%	34.4%	0.0%	11.8%	40.9%	29.0%	17.2%	1.1%
30 歳代	94	6.4%	29.8%	31.9%	30.9%	1.1%	14.9%	35.1%	27.7%	20.2%	2.1%
40 歳代	96	6.3%	25.0%	46.9%	20.8%	1.0%	10.4%	44.8%	27.1%	16.7%	1.0%
50 歳代	201	8.5%	19.9%	44.8%	25.4%	1.5%	11.9%	42.8%	25.4%	18.4%	1.5%
60 歳代	191	5.2%	18.8%	48.2%	27.2%	0.5%	15.2%	38.7%	27.2%	17.8%	1.0%
70 歳以上	297	6.7%	15.5%	44.8%	31.0%	2.0%	18.5%	29.3%	27.6%	20.9%	3.7%

	母数 (N)	⑦外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまりそ う思わな い	そう思わ ない	無回答
全体	981	16.8%	37.0%	33.4%	10.8%	1.9%
R2 調査	1,263	11.0%	32.3%	40.5%	12.7%	3.6%
性別						
女性	545	14.7%	37.1%	36.1%	9.7%	2.4%
男性	416	19.5%	38.0%	30.0%	11.3%	1.2%
年齢別						
18,19 歳	84	8.3%	42.9%	33.3%	15.5%	0.0%
20 歳代	93	19.4%	28.0%	41.9%	10.8%	0.0%
30 歳代	94	19.1%	27.7%	34.0%	17.0%	2.1%
40 歳代	96	17.7%	37.5%	37.5%	6.3%	1.0%
50 歳代	201	19.4%	42.8%	25.4%	10.0%	2.5%
60 歳代	191	16.2%	36.1%	38.2%	8.4%	1.0%
70 歳以上	297	14.1%	39.7%	32.7%	10.8%	2.7%

### 《経年変化》

「①外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない」については、『そう思う』は令和 2 年調査の 19.3%から 32.1%へと、12.8 ポイント増加し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 77.5%から 66.2%へと、11.3 ポイント減少しています。

「⑥外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである」については、『そう思う』は令和 2 年調査の 62.1%から 51.7%へと、10.4 ポイント減少し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 34.1%から 46.1%へと、12.0 ポイント増加しています。

「⑦外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」については、『そう思う』は令和 2 年調査の 43.3%から 53.8%へと、10.5 ポイント増加し、『そう思わない』は令和 2 年調査の 53.2%から 44.2%へと、9.0 ポイント減少しています。

### 《性別》

男女の意識差が大きいのは以下の通りです。

「④災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない」については、『そう思う』と回答した男性が 32.7%に対し、女性は 26.6%と、男性が女性を 6.1 ポイント上回り、『そう思わない』と回答した女性が 71.4%に対し、男性は 66.3%と、女性が男性を 5.1 ポイント上回っています。

「⑥外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである」については、『そう思う』と回答した女性が 54.3%に対し、男性は 48.8%と、女性が男性を 5.5 ポイント上回り、『そう思わない』と回答した男性が 50.0%に対し、女性は 43.1%と、男性が女性を 6.9 ポイント上回っています。

「⑦外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」については、『そう思う』と回答した男性が 57.5%に対し、女性は 51.8%と、男性が女性を 5.7 ポイント上回り、『そう思わない』と回答した女性が 45.8%に対し、男性は 41.3%と、女性が男性を 4.5 ポイント上回っています。

### 《年齢別》

「①外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない」については、『そう思う』の割合は、18,19 歳が 40.5%と最も多く、『そう思わない』の割合は、70 歳以上が 72.4%と最も多くなっています。

「③外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない」については、『そう思う』の割合は、30 歳代が 51.0%と最も多く、『そう思わない』の割合は、60 歳代が 70.6%と最も多くなっています。

ます。

「⑤自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」については、『そう思う』の割合は、30 歳代が 36.2%と最も多く、『そう思わない』の割合は、70 歳以上が 75.8%と最も多くなっています。

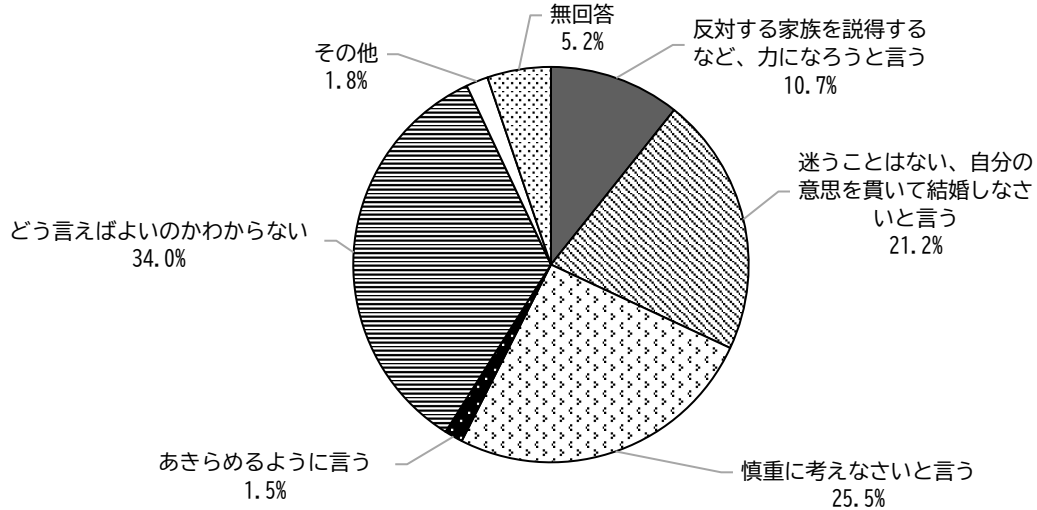
「⑦外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」については、『そう思う』の割合は、50 歳代が 62.2%と最も多く、『そう思わない』の割合は、20 歳代が 52.7%と最も多くなっています。

地方参政権については半数以上(51.7%)が肯定的ですが、外国人労働者の増加による治安悪化を懸念する声も半数超(53.8%)に達しています。また、賃貸住宅の入居拒否や労働条件の格差を「仕方がない」と容認する層が一定数存在します(それぞれ 32.1%、34.8%)。全体として、基本的人権への理解は示しつつも、実生活における摩擦や変化に対しては慎重な姿勢が残っているように見受けられます。「外国人」という属性を一括りにするのではなく、個々の行動や状況に基づいて判断する姿勢が求められます。また、インターネット上では誤情報や偏見が拡散されやすく、特定の国籍や集団を対象としたヘイトスピーチが見られることもあります。事実と異なる情報により社会の分断を深めないよう、正確な情報発信や地域でのコミュニケーションの機会を整えることが重要です。

(10) 部落差別(同和問題)について

問11 結婚相手が被差別部落(同和地区)の人であるということを理由に、家族から結婚を反対されている親戚がいます。あなたがその方から相談を受けた場合、どうしますか。  
最もお考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

問11 被差別部落であるという理由で結婚を反対されている親類からの相談(N=981)



「どう言えばよいかわからない」が34.0%で最も多く、次いで「慎重に考えなさいと言う」が25.5%、「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」が21.2%、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」が10.7%となっています。

また、「慎重に考えなさいと言う」と「あきらめるように言う」と「どう言えばよいかわからない」を合わせた『消極的な対応』が61.0%に対し、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」と「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」を合わせた『積極的な対応』は31.9%と、『消極的な対応』が『積極的な対応』を29.1ポイント上回っています。

	母数(N)	反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う	慎重に考えなさいと言う	あきらめるように言う	どう言えばよいかわからない	その他	無回答
全体	981	10.7%	21.2%	25.5%	1.5%	34.0%	1.8%	5.2%
R2調査	1,263	15.1%	22.2%	24.1%	2.0%	27.5%	2.3%	6.8%
性別								
女性	545	11.6%	16.3%	25.3%	1.5%	36.7%	1.8%	6.8%
男性	416	9.9%	27.9%	26.2%	1.4%	30.5%	1.4%	2.6%
年齢別								
18,19歳	84	26.2%	32.1%	15.5%	1.2%	25.0%	0.0%	0.0%
20歳代	93	10.8%	33.3%	17.2%	2.2%	33.3%	1.1%	2.2%
30歳代	94	17.0%	25.5%	27.7%	1.1%	26.6%	1.1%	1.1%
40歳代	96	8.3%	19.8%	32.3%	2.1%	35.4%	1.0%	1.0%
50歳代	201	12.9%	17.9%	30.3%	1.0%	33.8%	2.5%	1.5%
60歳代	191	9.4%	19.9%	24.1%	0.0%	40.3%	1.6%	4.7%
70歳以上	297	8.1%	19.9%	23.6%	2.4%	33.3%	1.7%	11.1%

## 《経年変化》

「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」については、令和 2 年調査の 15.1%から 10.7%へと、4.4 ポイント減少し、「どう言えばよいかわからない」については、令和 2 年調査の 27.5%から 34.0%へと、6.5 ポイント増加しています。前回調査と比較して、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」が減少し、「どう言えばよいかわからない」が増えていることは、今後の教育・啓発の大きな課題であるといえます。

## 《性別》

「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」と回答した男性が 27.9%に対し、女性は 16.3%と、男性が女性を 11.6 ポイント上回り、「どう言えばよいかわからない」と回答した女性が 36.7%に対し、男性は 30.5%と、女性が男性を 6.2 ポイント上回っています。

また、『積極的な対応』の回答割合は、男性が 37.8%に対し、女性は 27.9%と、男性が女性を 9.9 ポイント上回っています。

## 《年齢別》

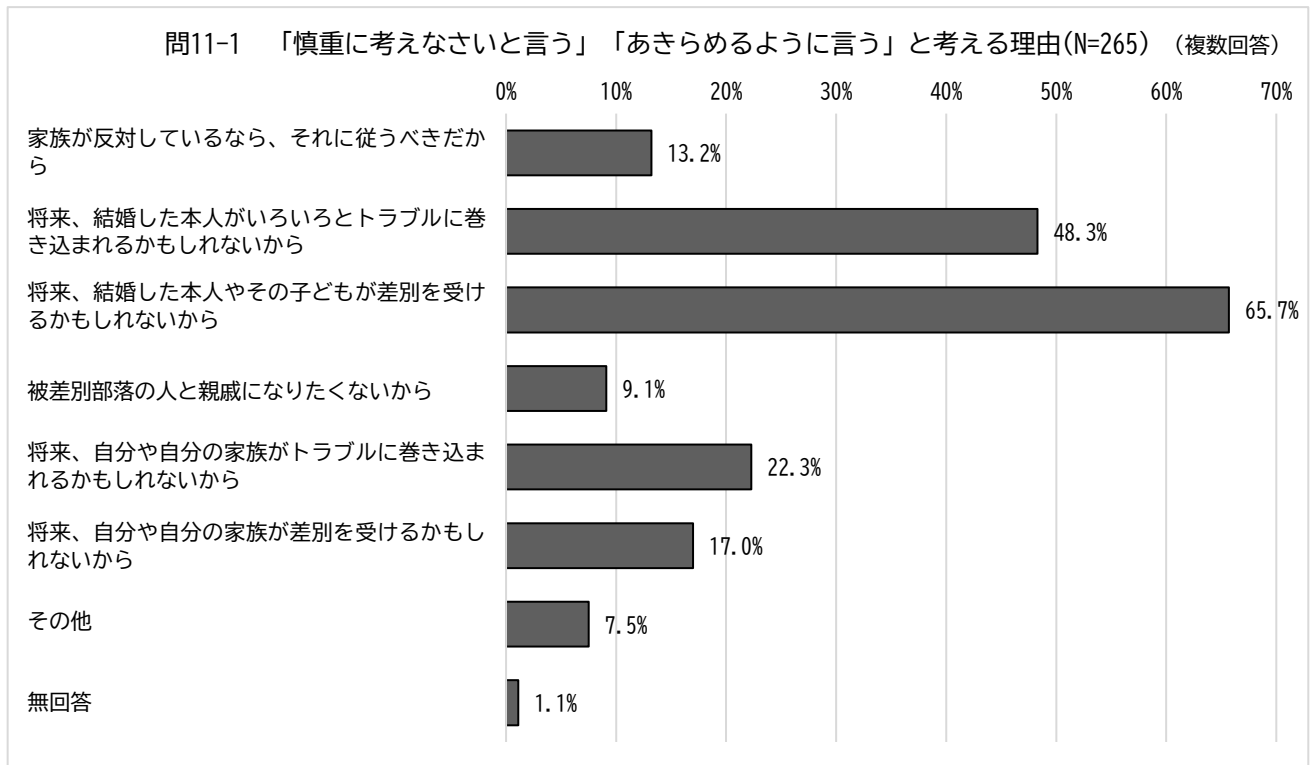
「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」と回答した 18,19 歳が 26.2%で最も多く、70 歳以上は 8.1%で最も少なく、18.1 ポイントの差があり、「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」と回答した 20 歳代が 33.3%で最も多く、50 歳代は 17.9%で最も少なく、15.4 ポイントの差があり、「慎重に考えなさいと言う」と回答した 40 歳代が 32.3%で最も多く、18,19 歳は 15.5%で最も少なく、16.8 ポイントの差があり、「どう言えばよいかわからない」と回答した 60 歳代が 40.3%で最も多く、18,19 歳は 25.0%で最も少なく、15.3 ポイントの差があります。

また、『積極的な対応』の回答割合は、18,19 歳が 58.3%で最も多く、70 歳以上は 28.0%で最も少なく、30.3 ポイントの差があり、『消極的な対応』の回答割合は、40 歳代が 69.8%で最も多く、18,19 歳は 41.7% で最も少なく、28.1 ポイントの差があります。

問11-1 は、問11で「3」または「4」と答えた方にお聞きします。

問11-1 「慎重に考えなさいと言う」「あきらめるように言う」と考えるのは、どうしてですか。

最もお考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)



「慎重に考えなさい」と「あきらめるように言う」を選択した人にその理由を問うと、「将来、結婚した本人やその子どもが差別を受けるかもしれないから」が65.7%で最も多く、次いで「将来、結婚した本人がいろいろとトラブルに巻き込まれるかもしれないから」が48.3%、「将来、自分や自分の家族がトラブルに巻き込まれるかもしれないから」が22.3%となっています。

	母数 (N)	家族が反対しているなら、それに従うべきだから	将来、結婚した本人がいろいろとトラブルに巻き込まれるかもしれないから	将来、結婚した本人やその子どもが差別を受けるかもしれないから	被差別部落の人と親戚になりたくないから	将来、自分や自分の家族がトラブルに巻き込まれるかもしれないから	将来、自分や自分の家族が差別を受けるかもしれないから	その他	無回答
全体	265	13.2%	48.3%	65.7%	9.1%	22.3%	17.0%	7.5%	1.1%
性別									
女性	146	10.3%	43.8%	58.9%	7.5%	19.9%	16.4%	9.6%	2.1%
男性	115	16.5%	53.0%	73.0%	9.6%	24.3%	16.5%	4.3%	0.0%
年齢別									
18, 19 歳	14	35.7%	50.0%	71.4%	14.3%	21.4%	14.3%	0.0%	0.0%
20 歳代	18	11.1%	55.6%	72.2%	11.1%	38.9%	27.8%	5.6%	0.0%
30 歳代	27	11.1%	66.7%	66.7%	7.4%	22.2%	14.8%	11.1%	0.0%
40 歳代	33	15.2%	57.6%	57.6%	3.0%	24.2%	18.2%	3.0%	0.0%
50 歳代	63	7.9%	41.3%	76.2%	7.9%	17.5%	15.9%	6.3%	0.0%
60 歳代	46	10.9%	54.3%	60.9%	6.5%	26.1%	19.6%	8.7%	2.2%
70 歳以上	77	18.2%	36.4%	59.7%	13.0%	19.5%	14.3%	9.1%	2.6%

## 《性別》

「家族が反対しているなら、それに従うべきだから」と回答した男性が 16.5%に対し、女性は 10.3%と、男性が女性を 6.2 ポイント上回っています。

「将来、結婚した本人がいろいろとトラブルに巻き込まれるかもしれないから」と回答した男性が 53.0%に対し、女性は 43.8%と、男性が女性を 9.2 ポイント上回っています。

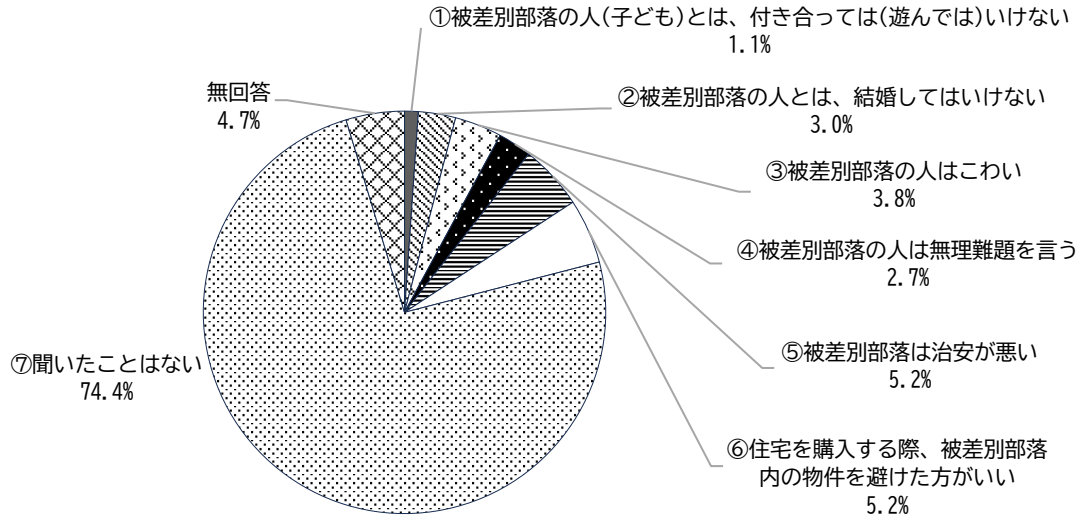
「将来、結婚した本人やその子どもが差別を受けるかもしれないから」と回答した男性が 73.0%に対し、女性は 58.9%と、男性が女性を 14.1 ポイント上回っています。

## 《年齢別》

回答者数(母数)が 40 を超える 50 歳以上の年齢層についてみると、いずれも「将来、結婚した本人やその子どもが差別を受けるかもしれないから」が最も多く、ついで「将来、結婚した本人がいろいろとトラブルに巻き込まれるかもしれないから」が多くなっています。

問 12 あなたは、ここ5年くらいの間に部落差別(同和問題)に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。(○は1つ)

問12 この5年間に同和問題に関する差別的な内容の発言を直接聞いた経験(N=981)



問に示した6つの発言を聞いたという割合では、「被差別部落は治安が悪い」と「住宅を購入する際、被差別部落内の物件を避けた方がいい」が共に5.2%で最も多く、次いで「被差別部落の人は怖い」が3.8%の順になっています。

「聞いたことはない」については、74.4%でした。また、この5年間に6つの発言のいずれかを聞いたことがあるのは21.0%でした。

	母数(N)	①被差別部落の人(子ども)とは、付き合っては(遊んでは)いけない	②被差別部落の人とは、結婚してはいけない	③被差別部落の人は怖い	④被差別部落の人は無理難題を言う	⑤被差別部落は治安が悪い	⑥住宅を購入する際、被差別部落内の物件を避けた方がいい	⑦聞いたことはない	無回答
全体	981	1.1%	3.0%	3.8%	2.7%	5.2%	5.2%	74.4%	4.7%
R2調査	1,263	1.0%	4.3%	4.7%	5.2%	7.1%	7.9%	61.2%	8.6%
性別									
女性	545	0.9%	3.5%	3.9%	2.4%	4.2%	5.1%	74.1%	5.9%
男性	416	1.2%	2.4%	3.6%	3.1%	6.7%	5.5%	74.8%	2.6%
年齢別									
18,19歳	84	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%	2.4%	91.7%	1.2%
20歳代	93	2.2%	4.3%	6.5%	1.1%	7.5%	6.5%	71.0%	1.1%
30歳代	94	1.1%	1.1%	2.1%	2.1%	10.6%	9.6%	71.3%	2.1%
40歳代	96	0.0%	2.1%	4.2%	3.1%	9.4%	7.3%	74.0%	0.0%
50歳代	201	0.5%	0.5%	5.0%	4.0%	7.0%	3.5%	74.6%	5.0%
60歳代	191	1.6%	3.7%	4.7%	2.6%	5.2%	7.3%	70.7%	4.2%
70歳以上	297	1.3%	5.1%	2.4%	3.0%	1.3%	3.4%	75.8%	7.7%

### 《経年変化》

「聞いたことはない」については令和2年調査の61.2%から74.4%へと、13.2ポイント増加しています。

### 《性別》

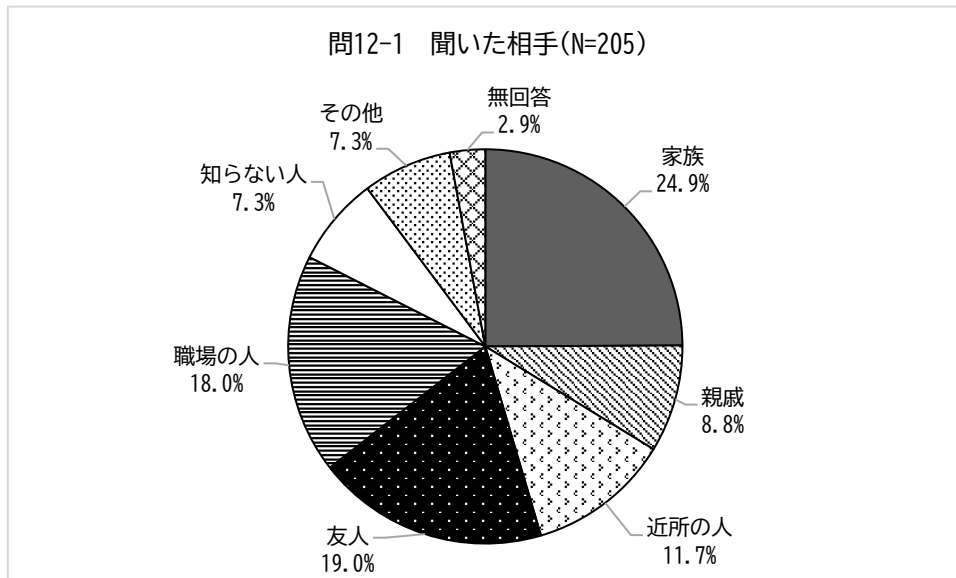
性別に大きな差は見られません。

### 《年齢別》

「被差別部落は治安が悪い」と回答した30歳代が10.6%で最も多く、70歳以上は1.3%で最も少なく、9.3ポイントの差があり、「住宅を購入する際、被差別部落内の物件を避けた方がいい」と回答した30歳代が9.6%で最も多く、18,19歳は2.4%で最も少なく、7.2ポイントの差があり、「被差別部落の人はこわい」と回答した20歳代が6.5%で最も多く、18,19歳は0.0%で最も少なく、6.5ポイントの差があります。

「聞いたことはない」と回答した18,19歳が91.7%で最も多く、60歳代は70.7%で最も少なく、21.0ポイントの差があります。

問12-1～問12-2は、問12で「①」～「⑥」と答えた方にお聞きします。  
 問12-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。(○は1つ)



「家族」が24.9%で最も多く、次いで「友人」が19.0%、「職場の人」が18.0%の順になっています。

	母数(N)	家族	親戚	近所の人	友人	職場の人	知らない人	その他	無回答
全体	205	24.9%	8.8%	11.7%	19.0%	18.0%	7.3%	7.3%	2.9%
R2調査	381	24.7%	11.0%	6.6%	20.7%	18.4%	10.2%	5.8%	2.6%
性別									
女性	109	32.1%	11.0%	11.0%	17.4%	15.6%	6.4%	2.8%	3.7%
男性	94	17.0%	6.4%	10.6%	21.3%	21.3%	8.5%	12.8%	2.1%
年齢別									
18,19歳	6	83.3%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	26	42.3%	7.7%	3.8%	23.1%	3.8%	11.5%	3.8%	3.8%
30歳代	25	20.0%	4.0%	4.0%	28.0%	28.0%	8.0%	8.0%	0.0%
40歳代	25	24.0%	20.0%	0.0%	12.0%	28.0%	16.0%	0.0%	0.0%
50歳代	41	24.4%	2.4%	17.1%	19.5%	22.0%	4.9%	4.9%	4.9%
60歳代	48	29.2%	10.4%	16.7%	18.8%	8.3%	4.2%	12.5%	0.0%
70歳以上	49	20.4%	12.2%	16.3%	12.2%	18.4%	6.1%	8.2%	6.1%

#### 《経年変化》

大きな変化は見られませんが、「近所の人」については、令和2年調査の6.6%から11.7%へと、5.1ポイント増加しています。

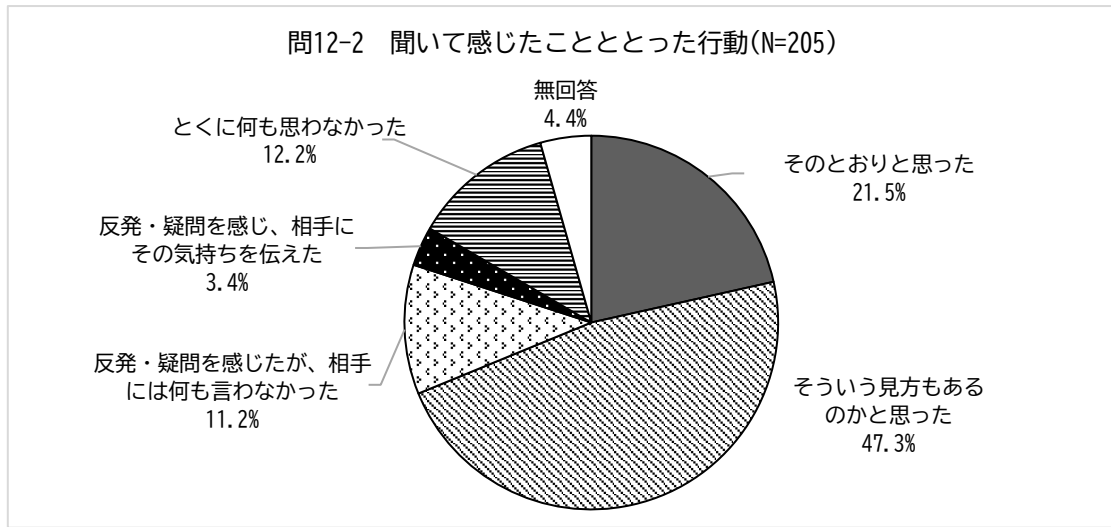
#### 《性別》

「家族」と回答した女性が32.1%に対し、男性は17.0%と、女性が男性を15.1ポイント上回り、「職場の人」と回答した男性が21.3%に対し、女性は15.6%と、男性が女性を5.7ポイント上回っています。

#### 《年齢別》

回答者数(母数)が40を超える50歳以上の年齢層についてみると、いずれも「家族」が最も多くなっています。

問12-2 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。(○は1つ)



「そういう見方もあるのかと思った」が47.3%で最も多く、次いで「そのとおりに思った」が21.5%、「とくに何も思わなかった」が12.2%となっています。

	母数(N)	そのとおりに思った	そういう見方もあるのかと思った	反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった	反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた	とくに何も思わなかった	無回答
全体	205	21.5%	47.3%	11.2%	3.4%	12.2%	4.4%
R2調査	381	17.1%	50.7%	14.4%	3.9%	11.5%	2.4%
性別							
女性	109	23.9%	45.9%	11.0%	2.8%	11.9%	4.6%
男性	94	18.1%	48.9%	11.7%	4.3%	12.8%	4.3%
年齢別							
18,19歳	6	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	33.3%	0.0%
20歳代	26	23.1%	42.3%	3.8%	7.7%	23.1%	0.0%
30歳代	25	8.0%	52.0%	12.0%	8.0%	20.0%	0.0%
40歳代	25	20.0%	68.0%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	41	31.7%	36.6%	7.3%	2.4%	17.1%	4.9%
60歳代	48	20.8%	47.9%	16.7%	2.1%	12.5%	0.0%
70歳以上	49	20.4%	44.9%	10.2%	4.1%	6.1%	14.3%

《経年変化》

「そのとおりに思った」については、令和2年調査の17.1%から21.5%へと、4.4ポイント増加し、「そういう見方もあるのかと思った」については、令和2年調査の50.7%から47.3%へと、3.4ポイント減少し、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」については、令和2年調査の14.4%から11.2%へと、3.2ポイント減少しています。

《性別》

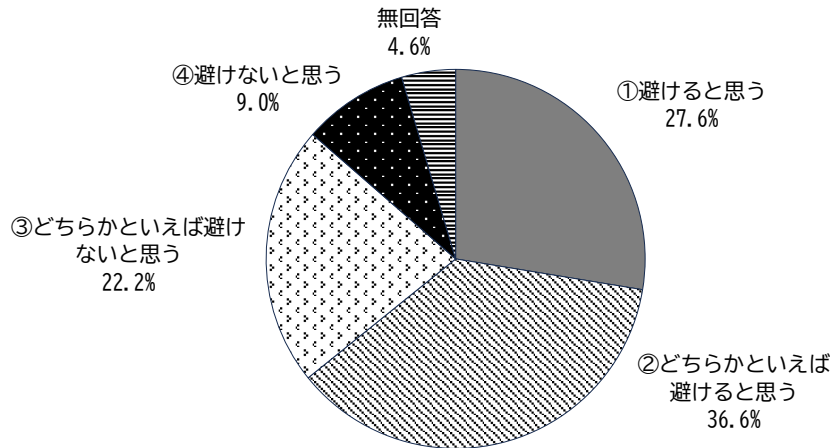
「そのとおりに思った」と回答した女性が23.9%に対し、男性は18.1%と、女性が男性を5.8ポイント上回っています。

## 《年齢別》

回答者数(母数)が40を超える50歳以上の年齢層についてみると、いずれも「そういう見方もあるのかと思った」が最も多いが、50歳代では「そのとおりに思った」が31.7%と、他の年齢層に比べて多くなっています。

問13 あなたが住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っている物件が被差別部落(同和地区)内にあったとしたら、あなたはどうしますか。(〇は1つ)

問13 物件が被差別部落内にあった時の住まいを選ぶ条件(N=981)



「避けると思う」と「どちらかといえば避けると思う」を合わせた『避けると思う』が 64.2%に対し、「どちらかといえば避けないと思う」と「避けないと思う」を合わせた『避けないと思う』は 31.2%と、『避けると思う』が『避けないと思う』を 33.0 ポイント上回っています。

	母数(N)	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	避けないと思う	無回答
全体	981	27.6%	36.6%	22.2%	9.0%	4.6%
R2 調査	1,263	17.7%	30.3%	26.9%	19.7%	5.3%
性別						
女性	545	28.4%	37.8%	21.3%	7.5%	5.0%
男性	416	26.4%	36.1%	23.6%	11.1%	2.9%
年齢別						
18,19 歳	84	15.5%	23.8%	36.9%	23.8%	0.0%
20 歳代	93	14.0%	39.8%	28.0%	17.2%	1.1%
30 歳代	94	28.7%	33.0%	24.5%	11.7%	2.1%
40 歳代	96	30.2%	41.7%	25.0%	3.1%	0.0%
50 歳代	201	36.3%	31.8%	18.4%	9.5%	4.0%
60 歳代	191	23.6%	46.1%	22.5%	4.2%	3.7%
70 歳以上	297	26.9%	35.4%	21.9%	8.8%	7.1%

#### 《経年変化》

『避けると思う』については、令和 2 年調査の 48.0%から 64.2%へと、16.2 ポイント増加し、『避けないと思う』については、令和 2 年調査の 46.6%から 31.2%へと、15.4 ポイント減少しています。

#### 《性別》

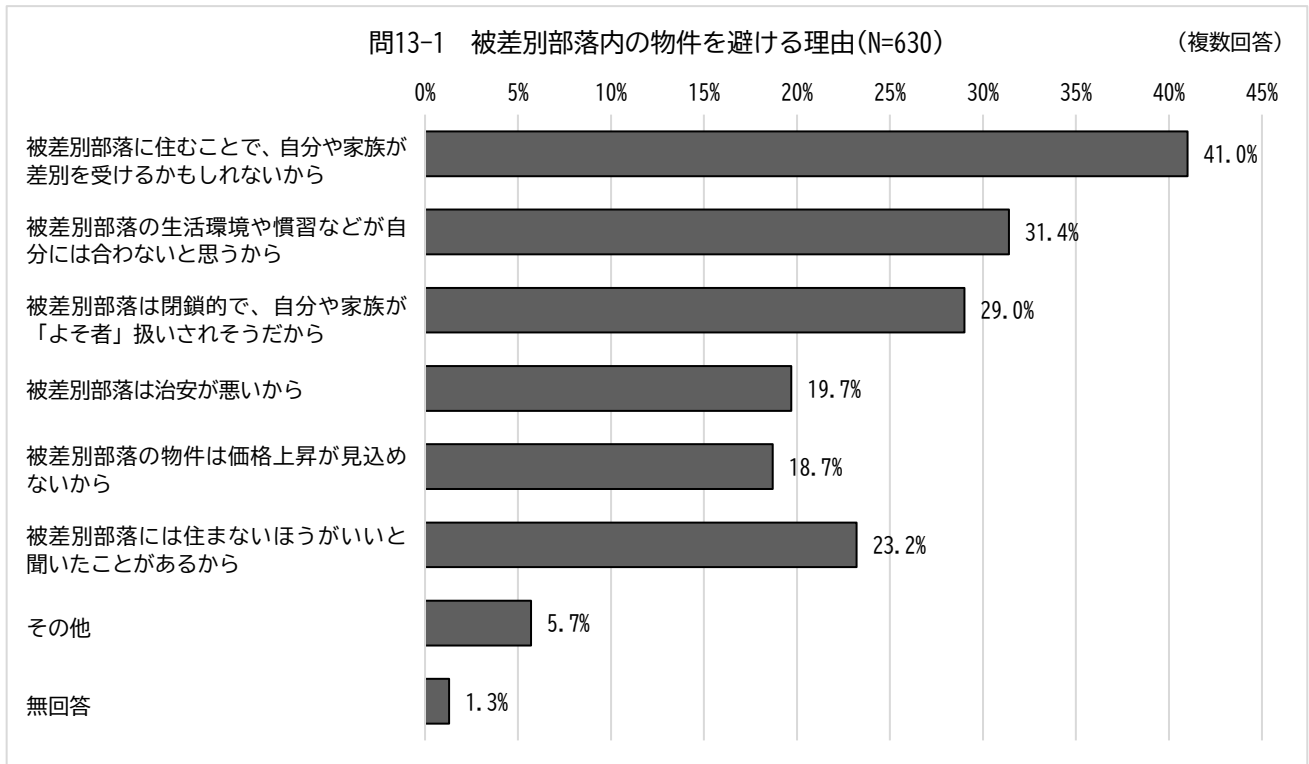
『避けると思う』と回答した女性が 66.2%に対し、男性は 62.5%と、女性が男性を 3.7 ポイント上回り、『避けないと思う』と回答した男性が 34.7%に対し、女性は 28.8%と、男性が女性を 5.9 ポイント上回っています。

#### 《年齢別》

『避けると思う』と回答した 40 歳代が 71.9%で最も多く、18,19 歳は 39.3%で最も少なく、32.6 ポイントの差があり、『避けないと思う』と回答した 18,19 歳が 60.7%で最も多く、60 歳代が 26.7%で最も少なく、34.0 ポイントの差があります。

問13-1は、問13で「①」または「②」と答えた方にお聞きします。

問13-1 あなたはなぜ被差別部落(同和地区)内の物件を避けるのですか。(〇はいくつでも)



『避けると思う』と回答した人にその理由を問うと、「被差別部落に住むことで、自分や家族が差別を受けるかもしれないから」が41.0%で最も多く、次いで「被差別部落の生活環境や慣習などが自分には合わないと思うから」が31.4%、「被差別部落は閉鎖的で、自分や家族が『よそ者』扱いされそうだから」が29.0%の順になっています。

		母数(N)	被差別部落に住むことで、自分や家族が差別を受けるかもしれないから	被差別部落の生活環境や慣習などが自分には合わないと思うから	被差別部落は閉鎖的で、自分や家族が「よそ者」扱いされそうだから	被差別部落は治安が悪いから	被差別部落の物件は価格上昇が見込めないから	被差別部落には住まないほうが良いと聞いたことがあるから	その他	無回答
全体		630	41.0%	31.4%	29.0%	19.7%	18.7%	23.2%	5.7%	1.3%
性別	女性	361	40.2%	31.0%	25.8%	18.0%	20.8%	24.7%	5.8%	1.7%
	男性	260	41.9%	31.5%	33.1%	21.9%	15.8%	20.8%	5.4%	0.4%
年齢別	18,19歳	33	57.6%	27.3%	27.3%	21.2%	12.1%	18.2%	0.0%	0.0%
	20歳代	50	48.0%	32.0%	28.0%	30.0%	8.0%	18.0%	2.0%	0.0%
	30歳代	58	37.9%	24.1%	29.3%	34.5%	17.2%	27.6%	8.6%	0.0%
	40歳代	69	44.9%	34.8%	36.2%	29.0%	11.6%	33.3%	4.3%	0.0%
	50歳代	137	46.7%	30.7%	32.1%	23.4%	24.8%	13.9%	5.8%	0.0%
	60歳代	133	34.6%	30.8%	32.3%	14.3%	16.5%	21.1%	6.0%	0.8%
	70歳以上	185	38.9%	34.6%	22.2%	10.3%	22.2%	27.0%	5.4%	3.2%

## 《性別》

「被差別部落は閉鎖的で、自分や家族が『よそ者』扱いされそうだから」と回答した男性が 33.1%に対し、女性は 25.8%と、男性が女性を 7.3 ポイント上回っています。

「被差別部落の物件は価格上昇が見込めないから」と回答した女性が 20.8%に対し、男性は 15.8%と、女性が男性を 5.0 ポイント上回っています。

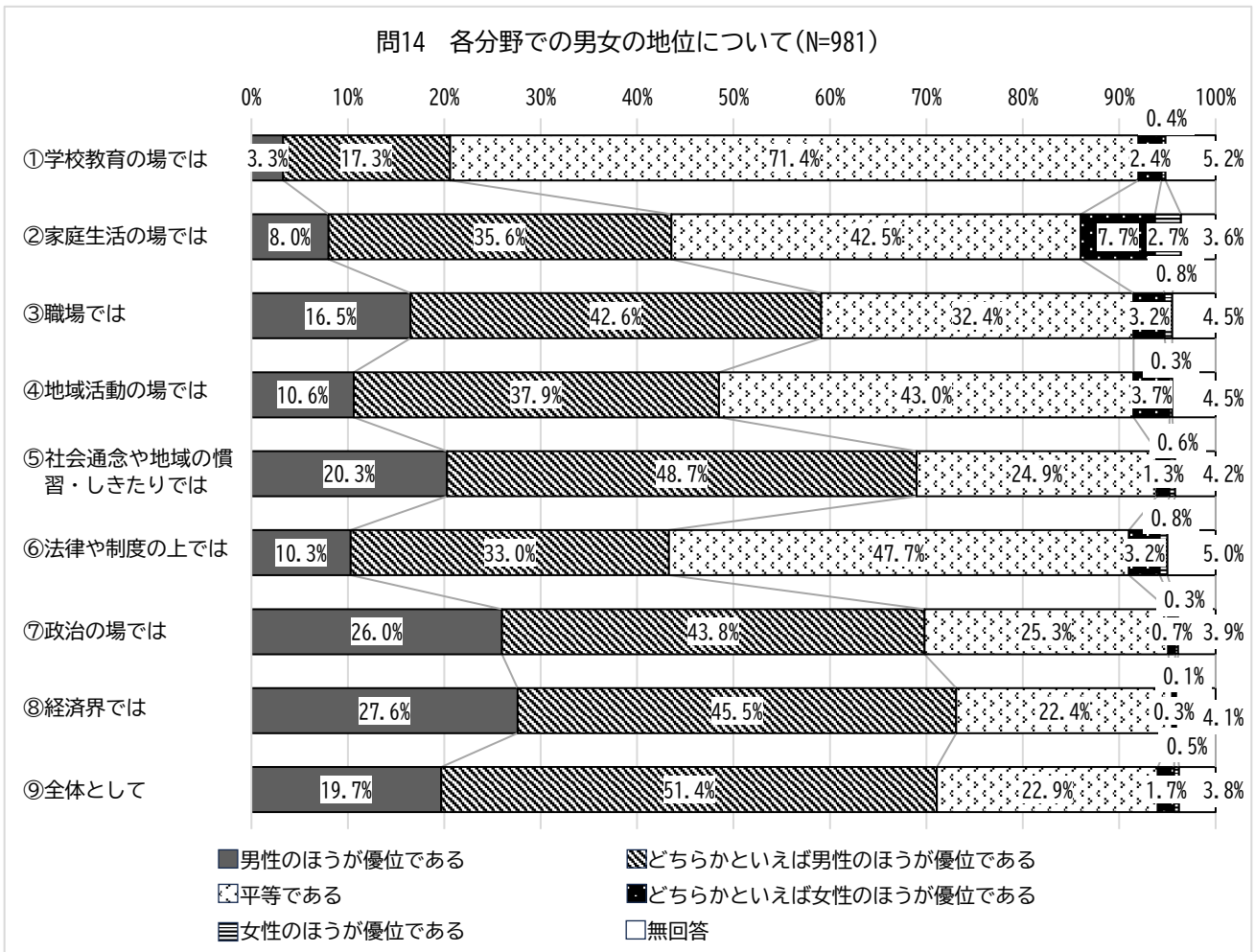
## 《年齢別》

回答者数(母数)が 40 を超える 20 歳以上の年齢層についてみると、「被差別部落は治安が悪いから」の割合は、30 歳代が 34.5%と最も多く、「被差別部落の生活環境や慣習などが自分には合わないと思うから」(34.8%)、「被差別部落は閉鎖的で、自分や家族が『よそ者』扱いされそうだから」(36.2%)、「被差別部落には住まないほうがいいと聞いたことがあるから」(33.3%)の割合は、40 歳代が最も多くなっています。また、「被差別部落に住むことで、自分や家族が差別を受けるかもしれないから」(46.7%)、「被差別部落の物件は価格上昇が見込めないから」(24.8%)の割合は、50 歳代が最も多くなっています。

同和問題に関する差別的な発言を直接聞いて、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」と「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」を合わせた『反発・疑問を感じた人は 14.6%でした。差別的な発言に出会ったとき、それに対して反発・疑問を感じられるようにするには、なぜその言葉が不当なのかを自分ごととして考える力を育てることが重要です。

(11) さまざまな分野での男女の地位について

問 14 あなたは、次の各分野で男女の地位がどの程度、平等になっていると思いますか。  
それぞれの分野について選んでください。(○はそれぞれ1つ)



「平等である」と回答した割合は、「①学校教育の場では」が 71.4%で最も多く、次いで「⑥法律や制度の上では」が 47.7%、「④地域活動の場では」が 43.0%、「②家庭生活の場では」が 42.5%となっています。

「男性のほうが優位である」と「どちらかといえば男性のほうが優位である」を合わせた『男性優位』と回答した割合は、「⑧経済界では」が 73.1%で最も多く、次いで「⑨全体として」が 71.1%、「⑦政治の場では」が 69.8%、「⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは」が 69.0%となっています。

反対に、「女性のほうが優位である」と「どちらかといえば女性のほうが優位である」を合わせた『女性優位』と回答した割合は、「②家庭生活の場では」が 10.4%で最も多くなっています。

	母数 (N)	①学校教育の場では						②家庭生活の場では					
		優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答	優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答
全体	981	3.3%	17.3%	71.4%	2.4%	0.4%	5.2%	8.0%	35.6%	42.5%	7.7%	2.7%	3.6%
性別													
女性	545	3.5%	19.1%	70.5%	1.8%	0.0%	5.1%	10.8%	42.4%	36.7%	5.9%	1.5%	2.8%
男性	416	2.6%	14.9%	74.0%	3.4%	1.0%	4.1%	3.8%	26.9%	51.0%	10.6%	4.3%	3.4%
年齢別													
18,19歳	84	2.4%	11.9%	75.0%	8.3%	1.2%	1.2%	4.8%	36.9%	47.6%	8.3%	1.2%	1.2%
20歳代	93	3.2%	9.7%	77.4%	5.4%	2.2%	2.2%	9.7%	33.3%	43.0%	10.8%	2.2%	1.1%
30歳代	94	1.1%	18.1%	78.7%	1.1%	0.0%	1.1%	8.5%	31.9%	43.6%	7.4%	6.4%	2.1%
40歳代	96	2.1%	20.8%	72.9%	4.2%	0.0%	0.0%	7.3%	32.3%	43.8%	9.4%	7.3%	0.0%
50歳代	201	5.5%	16.4%	71.1%	3.0%	1.0%	3.0%	9.5%	33.3%	44.8%	10.0%	0.5%	2.0%
60歳代	191	2.6%	22.5%	71.2%	1.6%	0.5%	1.6%	7.9%	39.3%	41.9%	8.9%	2.1%	0.0%
70歳以上	297	3.7%	16.2%	66.3%	2.4%	0.0%	11.4%	7.7%	36.7%	40.1%	5.7%	2.0%	7.7%

	母数 (N)	③職場では						④地域活動の場では					
		優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答	優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答
全体	981	16.5%	42.6%	32.4%	3.2%	0.8%	4.5%	10.6%	37.9%	43.0%	3.7%	0.3%	4.5%
性別													
女性	545	19.4%	44.8%	29.5%	1.8%	0.2%	4.2%	14.3%	41.1%	37.8%	2.2%	0.0%	4.6%
男性	416	12.7%	40.1%	37.3%	4.6%	1.7%	3.6%	5.5%	34.4%	50.2%	5.8%	0.7%	3.4%
年齢別													
18,19歳	84	16.7%	41.7%	38.1%	1.2%	0.0%	2.4%	7.1%	35.7%	51.2%	3.6%	0.0%	2.4%
20歳代	93	16.1%	35.5%	43.0%	2.2%	2.2%	1.1%	11.8%	28.0%	50.5%	6.5%	1.1%	2.2%
30歳代	94	11.7%	39.4%	41.5%	5.3%	1.1%	1.1%	7.4%	44.7%	43.6%	2.1%	0.0%	2.1%
40歳代	96	21.9%	43.8%	30.2%	3.1%	1.0%	0.0%	10.4%	50.0%	32.3%	7.3%	0.0%	0.0%
50歳代	201	17.4%	33.8%	39.3%	4.0%	2.5%	3.0%	13.9%	38.3%	39.3%	5.0%	1.0%	2.5%
60歳代	191	15.2%	51.3%	30.4%	2.6%	0.0%	0.5%	8.9%	40.8%	47.6%	1.6%	0.0%	1.0%
70歳以上	297	16.5%	45.8%	25.3%	2.0%	0.3%	10.1%	9.8%	34.7%	42.1%	3.4%	0.3%	9.8%

	母数 (N)	⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは						⑥法律や制度の上では					
		優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答	優位である 男性のほうが	優位である どちらかといえ ば男性のほうが	平等である	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	優位である どちらかといえ ば女性のほうが	無回答
全体	981	20.3%	48.7%	24.9%	1.3%	0.6%	4.2%	10.3%	33.0%	47.7%	3.2%	0.8%	5.0%
性別													
女性	545	24.8%	50.3%	20.7%	0.4%	0.4%	3.5%	13.4%	38.2%	40.0%	2.8%	0.4%	5.3%
男性	416	14.4%	47.8%	30.3%	2.6%	1.0%	3.8%	5.8%	26.4%	59.1%	3.8%	1.4%	3.4%
年齢別													
18,19歳	84	23.8%	41.7%	31.0%	2.4%	0.0%	1.2%	9.5%	22.6%	58.3%	8.3%	0.0%	1.2%
20歳代	93	22.6%	33.3%	39.8%	2.2%	0.0%	2.2%	8.6%	22.6%	62.4%	2.2%	1.1%	3.2%
30歳代	94	24.5%	47.9%	23.4%	3.2%	0.0%	1.1%	10.6%	33.0%	46.8%	6.4%	1.1%	2.1%
40歳代	96	21.9%	57.3%	17.7%	2.1%	0.0%	1.0%	16.7%	44.8%	34.4%	3.1%	1.0%	0.0%
50歳代	201	24.4%	51.2%	18.9%	1.0%	2.0%	2.5%	10.9%	35.8%	44.3%	4.5%	1.0%	3.5%
60歳代	191	19.9%	54.5%	24.6%	1.0%	0.0%	0.0%	8.4%	36.6%	51.8%	2.6%	0.0%	0.5%
70歳以上	297	15.2%	46.1%	27.6%	1.0%	0.7%	9.4%	9.8%	29.3%	47.8%	1.3%	1.0%	10.8%

	母数 (N)	⑦政治の場では						⑧経済界では					
		優 位 で あ る 男 性 の ほ う が	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 男 性 の ほ う が	平 等 で あ る	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 女 性 の ほ う が	優 位 で あ る 女 性 の ほ う が	無 回 答	優 位 で あ る 男 性 の ほ う が	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 男 性 の ほ う が	平 等 で あ る	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 女 性 の ほ う が	優 位 で あ る 女 性 の ほ う が	無 回 答
全体	981	26.0%	43.8%	25.3%	0.7%	0.3%	3.9%	27.6%	45.5%	22.4%	0.3%	0.1%	4.1%
性別													
女性	545	32.3%	46.6%	17.6%	0.2%	0.2%	3.1%	33.6%	46.4%	16.5%	0.0%	0.0%	3.5%
男性	416	17.8%	40.6%	36.1%	1.4%	0.5%	3.6%	20.0%	44.5%	31.0%	0.7%	0.2%	3.6%
年齢別													
18,19歳	84	28.6%	45.2%	25.0%	0.0%	0.0%	1.2%	23.8%	48.8%	25.0%	1.2%	0.0%	1.2%
20歳代	93	29.0%	36.6%	31.2%	0.0%	1.1%	2.2%	28.0%	34.4%	35.5%	0.0%	0.0%	2.2%
30歳代	94	33.0%	38.3%	26.6%	1.1%	0.0%	1.1%	33.0%	39.4%	26.6%	0.0%	0.0%	1.1%
40歳代	96	31.3%	49.0%	19.8%	0.0%	0.0%	0.0%	30.2%	51.0%	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	201	34.8%	42.3%	18.9%	1.5%	0.5%	2.0%	37.3%	41.8%	17.4%	1.0%	0.5%	2.0%
60歳代	191	20.9%	52.9%	25.1%	1.0%	0.0%	0.0%	22.0%	51.8%	25.7%	0.5%	0.0%	0.0%
70歳以上	297	19.5%	41.1%	29.6%	0.3%	0.3%	9.1%	23.9%	45.5%	20.9%	0.0%	0.0%	9.8%

	母数 (N)	⑨社会全体として					
		優 位 で あ る 男 性 の ほ う が	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 男 性 の ほ う が	平 等 で あ る	優 位 で あ る ば ど ち ら か と い え 女 性 の ほ う が	優 位 で あ る 女 性 の ほ う が	無 回 答
全体	981	19.7%	51.4%	22.9%	1.7%	0.5%	3.8%
性別							
女性	545	25.1%	51.2%	19.6%	0.7%	0.2%	3.1%
男性	416	12.3%	52.2%	27.9%	3.1%	1.0%	3.6%
年齢別							
18,19歳	84	15.5%	54.8%	26.2%	2.4%	0.0%	1.2%
20歳代	93	15.1%	41.9%	36.6%	2.2%	1.1%	3.2%
30歳代	94	16.0%	53.2%	25.5%	3.2%	1.1%	1.1%
40歳代	96	22.9%	54.2%	18.8%	3.1%	0.0%	1.0%
50歳代	201	24.4%	52.2%	17.4%	3.0%	1.0%	2.0%
60歳代	191	18.8%	56.0%	24.1%	1.0%	0.0%	0.0%
70歳以上	297	18.9%	49.5%	22.6%	0.3%	0.3%	8.4%

### 《性別》

「平等である」については、「①学校教育の場では」(74.0%)、「②家庭生活の場では」(51.0%)、「③職場では」(37.3%)、「④地域活動の場では」(50.2%)、「⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは」(30.3%)、「⑥法律や制度上では」(59.1%)、「⑦政治の場では」(36.1%)、「⑧経済界では」(31.0%)、「⑨社会全体として」(27.9%)のすべてにおいて、男性の割合が最も多くなっています。

一方で、『男性優位』については、「①学校教育の場では」(22.6%)、「②家庭生活の場では」(53.2%)、「③職場では」(64.2%)、「④地域活動の場では」(55.4%)、「⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは」(75.1%)、「⑥法律や制度上では」(51.6%)、「⑦政治の場では」(78.9%)、「⑧経済界では」(80.0%)、「⑨社会全体として」(76.3%)のすべてにおいて、女性の割合が最も多くなっています。

### 《年齢別》

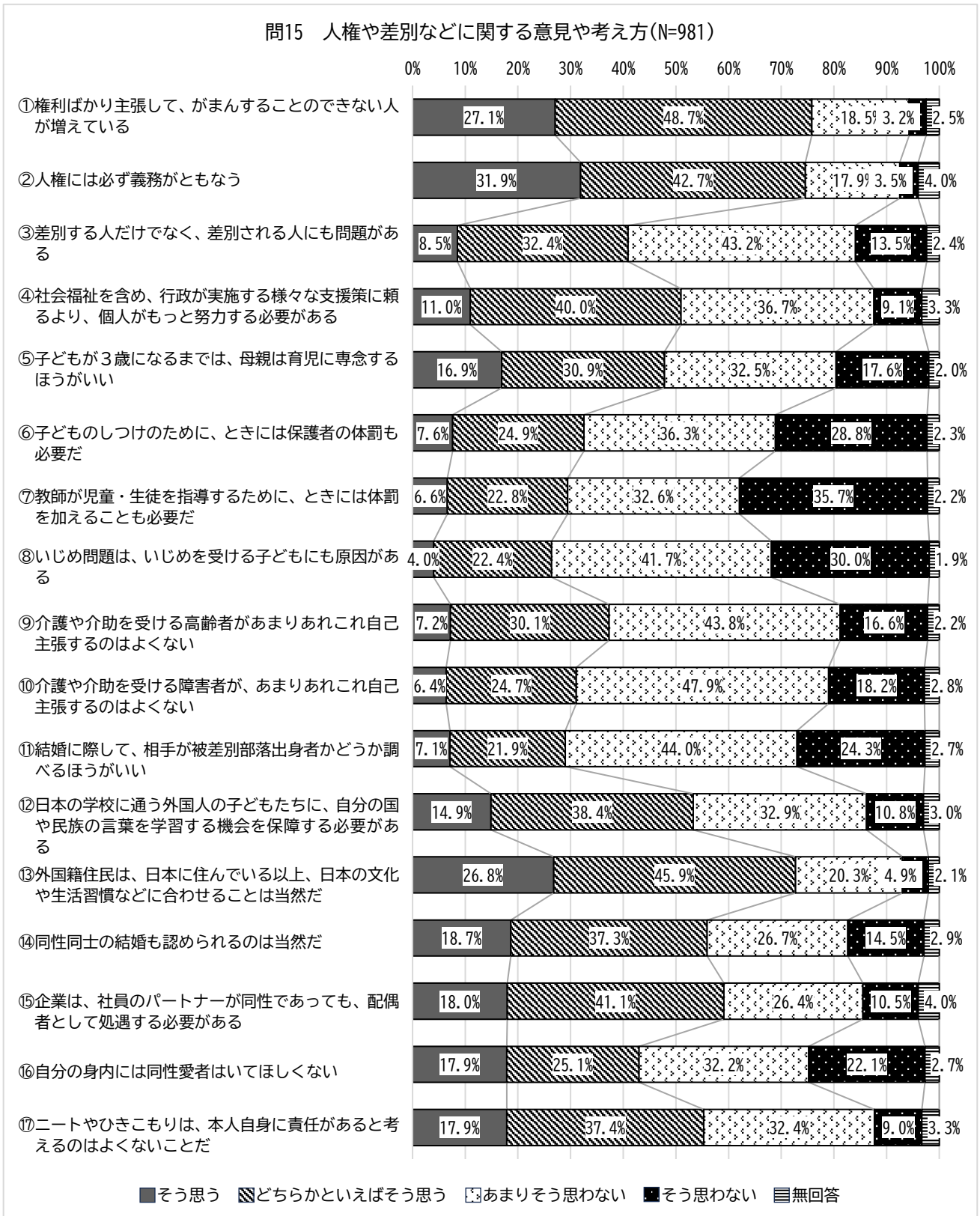
「平等である」については、「②家庭生活の場では」(47.6%)、「④地域活動の場では」(51.2%)の割合は、いずれも18,19歳が最も多くなっています。また、「③職場では」(43.0%)、「⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは」(39.8%)、「⑥法律や制度の上では」(62.4%)、「⑦政治の場では」(31.2%)、「⑧経済界では」(35.5%)、「⑨社会全体として」(36.6%)の割合は、20歳代が最も多くなっています。「①学校教育の場では」の割合は、30歳代が78.7%と最も多くなっています。

一方で、『男性優位』については「④地域活動の場では」(60.4%)、「⑤社会通念や地域の慣習・しきたりでは」(79.2%)、「⑥法律や制度の上では」(61.5%)、「⑦政治の場では」(80.3%)、「⑧経済界では」(81.2%)、「⑨社会全体として」(77.1%)の割合は、40歳代が最も多く、「①学校教育の場では」(25.1%)、「②家庭生活の場では」(47.2%)の割合は、60歳代が最も多くなっています。

さまざまな分野において、女性が男性よりも『男性優位』と感じる割合が高い結果となっています。また、「平等である」という回答割合が若年層で高くなっています。表面的には平等が進んでいるように見えても、昇進機会の差、長時間労働を前提とした働き方、育児・家事負担の偏りなど、日常生活の中で女性が不利益を感じやすい要因が残っていると考えられます。また、無意識のうちに「男性がリーダーに向いている」「女性は家庭を優先すべき」といったバイアスが働くことも、格差の実感につながる一因です。制度面の改善だけでなく、性別に基づく役割期待を見直し、多様な働き方や生き方を選択できる環境づくりが求められます。

(12) 人権や差別に関する考え方について

問15 人権や差別などに関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)



「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「①権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている」が 75.8%で最も多く、次いで「②人権には必ず義務がともなう」が 74.6%、「③外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」が 72.7%、「⑤企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」が 59.1%、「④同性同士の結婚も認められるのは当然だ」が 56.0%となっています。

反対に、「そう思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合は、「⑧いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある」が 71.7%で最も多く、次いで「⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」と「⑩結婚に際して、相手が被差別部落出身者かどうか調べるほうがいい」が共に 68.3%、「⑩介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」が 66.1%、「⑥子どものしつけのために、ときには保護者の体罰も必要だ」が 65.1%となっています。

	母数 (N)	①権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている					②人権には必ず義務がともなう				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体	981	27.1%	48.7%	18.5%	3.2%	2.5%	31.9%	42.7%	17.9%	3.5%	4.0%
R2 調査	1,263	38.7%	42.3%	12.0%	4.7%	2.4%	27.2%	35.9%	21.1%	12.0%	3.9%
性別											
女性	545	23.1%	49.4%	20.7%	3.5%	3.3%	26.6%	46.2%	19.3%	2.6%	5.3%
男性	416	32.7%	49.0%	14.9%	2.4%	1.0%	39.4%	38.2%	16.1%	4.6%	1.7%
年齢別											
18, 19 歳	84	19.0%	50.0%	26.2%	4.8%	0.0%	29.8%	45.2%	21.4%	3.6%	0.0%
20 歳代	93	18.3%	54.8%	20.4%	6.5%	0.0%	26.9%	46.2%	22.6%	3.2%	1.1%
30 歳代	94	17.0%	44.7%	29.8%	6.4%	2.1%	37.2%	35.1%	21.3%	3.2%	3.2%
40 歳代	96	31.3%	50.0%	17.7%	1.0%	0.0%	27.1%	55.2%	13.5%	4.2%	0.0%
50 歳代	201	34.8%	46.3%	16.9%	0.5%	1.5%	30.3%	44.3%	19.9%	3.0%	2.5%
60 歳代	191	28.3%	50.8%	17.3%	1.6%	2.1%	28.8%	47.1%	18.8%	2.6%	2.6%
70 歳以上	297	25.9%	50.2%	15.2%	4.0%	4.7%	36.4%	37.0%	14.8%	3.7%	8.1%

	母数 (N)	③差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある					④社会福祉を含め、行政が実施する様々な支援策に頼るより、個人がもっと努力する必要がある				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体	981	8.5%	32.4%	43.2%	13.5%	2.4%	11.0%	40.0%	36.7%	9.1%	3.3%
R2 調査	1,263	10.4%	33.8%	29.8%	23.2%	2.8%	11.3%	37.2%	33.6%	15.4%	2.5%
性別											
女性	545	6.2%	32.5%	46.2%	11.9%	3.1%	9.2%	37.4%	39.6%	9.5%	4.2%
男性	416	11.3%	32.7%	39.4%	15.4%	1.2%	13.5%	44.0%	33.2%	8.2%	1.2%
年齢別											
18, 19 歳	84	4.8%	23.8%	48.8%	21.4%	1.2%	7.1%	39.3%	36.9%	16.7%	0.0%
20 歳代	93	6.5%	29.0%	44.1%	19.4%	1.1%	11.8%	36.6%	44.1%	6.5%	1.1%
30 歳代	94	4.3%	22.3%	57.4%	13.8%	2.1%	6.4%	36.2%	38.3%	16.0%	3.2%
40 歳代	96	8.3%	33.3%	50.0%	8.3%	0.0%	12.5%	45.8%	36.5%	5.2%	0.0%
50 歳代	201	10.0%	32.3%	41.8%	13.9%	2.0%	11.4%	38.8%	37.8%	10.4%	1.5%
60 歳代	191	6.3%	28.3%	48.2%	15.7%	1.6%	6.8%	36.6%	43.5%	9.4%	3.7%
70 歳以上	297	10.8%	38.4%	34.7%	11.4%	4.7%	14.1%	43.1%	30.3%	7.1%	5.4%

	母数 (N)	⑤子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念する ほうがいい					⑥子どものしつけのために、ときには保護者の体罰も 必要だ					
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	
全体	981	16.9%	30.9%	32.5%	17.6%	2.0%	7.6%	24.9%	36.3%	28.8%	2.3%	
R2 調査	1,263	17.3%	30.1%	32.6%	17.1%	2.9%	13.1%	34.8%	22.8%	26.9%	2.4%	
性別	女性	545	15.6%	27.5%	32.7%	21.8%	2.4%	4.8%	22.8%	36.9%	33.0%	2.6%
	男性	416	19.2%	35.1%	32.7%	12.0%	1.0%	11.3%	28.6%	35.6%	23.3%	1.2%
年齢別	18, 19 歳	84	16.7%	29.8%	29.8%	23.8%	0.0%	7.1%	15.5%	26.2%	51.2%	0.0%
	20 歳代	93	20.4%	35.5%	31.2%	11.8%	1.1%	7.5%	19.4%	33.3%	38.7%	1.1%
	30 歳代	94	10.6%	22.3%	41.5%	23.4%	2.1%	5.3%	24.5%	35.1%	34.0%	1.1%
	40 歳代	96	7.3%	29.2%	33.3%	30.2%	0.0%	4.2%	32.3%	33.3%	30.2%	0.0%
	50 歳代	201	13.9%	25.4%	39.8%	19.9%	1.0%	9.0%	22.4%	41.8%	24.9%	2.0%
	60 歳代	191	14.1%	30.9%	39.8%	15.2%	0.0%	7.3%	30.4%	37.7%	24.1%	0.5%
	70 歳以上	297	25.3%	35.0%	21.5%	13.5%	4.7%	8.8%	22.9%	34.3%	29.3%	4.7%

	母数 (N)	⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰 を加えることも必要だ					⑧いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある					
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	
全体	981	6.6%	22.8%	32.6%	35.7%	2.2%	4.0%	22.4%	41.7%	30.0%	1.9%	
R2 調査	1,263	10.5%	31.7%	24.4%	31.6%	1.1%	5.8%	28.3%	34.5%	27.6%	3.8%	
性別	女性	596	4.2%	17.2%	32.5%	43.5%	2.6%	3.3%	20.2%	40.9%	33.4%	2.2%
	男性	454	9.9%	30.5%	32.7%	26.0%	1.0%	4.8%	25.7%	42.8%	26.0%	0.7%
年齢別	18, 19 歳	84	6.0%	14.3%	25.0%	54.8%	0.0%	6.0%	27.4%	34.5%	32.1%	0.0%
	20 歳代	93	4.3%	20.4%	23.7%	50.5%	1.1%	2.2%	19.4%	49.5%	29.0%	0.0%
	30 歳代	94	3.2%	28.7%	28.7%	38.3%	1.1%	2.1%	26.6%	31.9%	38.3%	1.1%
	40 歳代	96	6.3%	22.9%	34.4%	36.5%	0.0%	2.1%	25.0%	45.8%	27.1%	0.0%
	50 歳代	201	9.5%	23.9%	36.3%	28.9%	1.5%	4.5%	23.9%	41.3%	28.9%	1.5%
	60 歳代	191	5.8%	25.1%	36.6%	31.9%	0.5%	2.6%	17.8%	48.7%	30.4%	0.5%
	70 歳以上	297	6.7%	19.2%	31.3%	38.0%	4.7%	5.7%	20.9%	38.7%	31.0%	3.7%

	母数 (N)	⑨介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己 主張するのはよくない					⑩介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己 主張するのはよくない					
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	
全体	981	7.2%	30.1%	43.8%	16.6%	2.2%	6.4%	24.7%	47.9%	18.2%	2.8%	
性別	女性	545	5.7%	31.2%	42.8%	17.8%	2.6%	5.0%	25.0%	47.9%	19.1%	3.1%
	男性	416	9.1%	29.1%	45.4%	15.4%	1.0%	8.4%	24.5%	48.1%	17.5%	1.4%
年齢別	18, 19 歳	84	7.1%	32.1%	42.9%	17.9%	0.0%	8.3%	25.0%	47.6%	19.0%	0.0%
	20 歳代	93	2.2%	35.5%	50.5%	10.8%	1.1%	5.4%	24.7%	57.0%	11.8%	1.1%
	30 歳代	94	3.2%	25.5%	52.1%	18.1%	1.1%	4.3%	16.0%	59.6%	18.1%	2.1%
	40 歳代	96	4.2%	31.3%	44.8%	19.8%	0.0%	4.2%	27.1%	49.0%	19.8%	0.0%
	50 歳代	201	7.0%	25.9%	46.8%	19.4%	1.0%	6.0%	21.9%	49.8%	21.4%	1.0%
	60 歳代	191	3.1%	31.4%	47.6%	17.3%	0.5%	2.1%	26.2%	52.9%	17.8%	1.0%
	70 歳以上	297	13.1%	32.7%	35.0%	14.1%	5.1%	11.1%	27.3%	38.4%	17.2%	6.1%

	母数 (N)	⑪結婚に際して、相手が被差別部落出身者かどうか調べるほうがいい					⑫日本の学校に通う外国人の子どもたちに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障する必要がある				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体	981	7.1%	21.9%	44.0%	24.3%	2.7%	14.9%	38.4%	32.9%	10.8%	3.0%
R2 調査	1,263	6.2%	17.7%	33.4%	40.3%	2.5%	21.0%	35.4%	31.4%	8.7%	3.6%
性別											
女性	545	5.9%	22.4%	46.2%	22.8%	2.8%	12.1%	40.0%	34.7%	9.7%	3.5%
男性	416	8.7%	21.9%	40.9%	27.2%	1.4%	18.8%	37.3%	30.0%	12.5%	1.4%
年齢別											
18, 19 歳	84	4.8%	20.2%	32.1%	42.9%	0.0%	21.4%	34.5%	26.2%	17.9%	0.0%
20 歳代	93	5.4%	21.5%	37.6%	34.4%	1.1%	16.1%	40.9%	34.4%	7.5%	1.1%
30 歳代	94	8.5%	16.0%	46.8%	26.6%	2.1%	17.0%	33.0%	35.1%	13.8%	1.1%
40 歳代	96	6.3%	31.3%	40.6%	21.9%	0.0%	11.5%	46.9%	29.2%	12.5%	0.0%
50 歳代	201	8.5%	16.4%	49.3%	24.4%	1.5%	10.4%	38.8%	36.8%	10.9%	3.0%
60 歳代	191	4.2%	23.0%	48.2%	23.6%	1.0%	14.1%	37.2%	37.2%	10.5%	1.0%
70 歳以上	297	9.1%	24.6%	39.7%	21.5%	5.1%	18.2%	38.7%	27.9%	9.4%	5.7%

	母数 (N)	⑬外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ					⑭同性同士の結婚も認められるのは当然だ				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体	981	26.8%	45.9%	20.3%	4.9%	2.1%	18.7%	37.3%	26.7%	14.5%	2.9%
R2 調査	1,263	16.8%	47.3%	22.9%	9.8%	3.2%	25.2%	36.3%	20.5%	13.1%	4.9%
性別											
女性	545	22.6%	46.4%	22.8%	5.7%	2.6%	22.9%	39.1%	25.0%	9.7%	3.3%
男性	416	32.7%	45.9%	16.8%	3.8%	0.7%	13.2%	35.3%	29.1%	20.9%	1.4%
年齢別											
18, 19 歳	84	32.1%	38.1%	21.4%	8.3%	0.0%	42.9%	38.1%	8.3%	9.5%	1.2%
20 歳代	93	36.6%	40.9%	19.4%	2.2%	1.1%	30.1%	38.7%	20.4%	9.7%	1.1%
30 歳代	94	44.7%	41.5%	11.7%	1.1%	1.1%	36.2%	39.4%	16.0%	8.5%	0.0%
40 歳代	96	26.0%	49.0%	20.8%	4.2%	0.0%	26.0%	46.9%	18.8%	8.3%	0.0%
50 歳代	201	25.9%	48.3%	20.9%	3.5%	1.5%	19.9%	41.3%	23.9%	12.4%	2.5%
60 歳代	191	24.1%	48.2%	21.5%	5.8%	0.5%	11.5%	46.6%	29.3%	12.0%	0.5%
70 歳以上	297	20.9%	46.8%	21.5%	6.4%	4.4%	11.1%	24.2%	35.4%	22.9%	6.4%

	母数 (N)	⑮企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある					⑯自分の身内には同性愛者はいてほしくない				
		そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答	そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体	981	18.0%	41.1%	26.4%	10.5%	4.0%	17.9%	25.1%	32.2%	22.1%	2.7%
R2 調査	1,263	29.8%	39.2%	17.1%	7.0%	6.8%	19.3%	26.6%	27.1%	22.0%	5.0%
性別											
女性	545	21.1%	43.3%	24.0%	7.3%	4.2%	15.6%	22.4%	32.1%	27.2%	2.8%
男性	416	14.2%	38.9%	29.1%	15.1%	2.6%	20.7%	29.3%	32.7%	15.6%	1.7%
年齢別											
18, 19 歳	84	33.3%	45.2%	13.1%	7.1%	1.2%	2.4%	10.7%	35.7%	51.2%	0.0%
20 歳代	93	24.7%	46.2%	18.3%	9.7%	1.1%	6.5%	12.9%	33.3%	46.2%	1.1%
30 歳代	94	37.2%	33.0%	24.5%	4.3%	1.1%	4.3%	16.0%	28.7%	51.1%	0.0%
40 歳代	96	25.0%	52.1%	15.6%	7.3%	0.0%	10.4%	17.7%	44.8%	27.1%	0.0%
50 歳代	201	17.4%	47.3%	21.9%	11.4%	2.0%	13.9%	26.4%	35.8%	21.4%	2.5%
60 歳代	191	9.9%	48.2%	27.2%	11.0%	3.7%	17.8%	28.8%	42.4%	10.5%	0.5%
70 歳以上	297	13.5%	31.3%	34.7%	12.8%	7.7%	30.6%	31.3%	20.2%	12.1%	5.7%

		母数 (N)	⑰ニートやひきこもりは、本人自身に責任があると考えるのはよくないことだ				
			そう思う	どちらか といえば そう思う	あまり そう思わ ない	そう思わ ない	無回答
全体		981	17.9%	37.4%	32.4%	9.0%	3.3%
R2 調査		1,263	22.0%	36.9%	27.7%	10.3%	3.1%
性別	女性	545	18.5%	38.7%	31.2%	7.5%	4.0%
	男性	416	17.3%	35.8%	34.9%	10.8%	1.2%
年齢別	18, 19 歳	84	13.1%	31.0%	44.0%	11.9%	0.0%
	20 歳代	93	16.1%	25.8%	46.2%	9.7%	2.2%
	30 歳代	94	17.0%	36.2%	31.9%	13.8%	1.1%
	40 歳代	96	9.4%	31.3%	46.9%	12.5%	0.0%
	50 歳代	201	15.9%	36.8%	35.8%	10.0%	1.5%
	60 歳代	191	18.8%	45.0%	29.3%	4.2%	2.6%
	70 歳以上	297	23.2%	38.0%	25.3%	7.4%	6.1%

### 《経年変化》

前回調査と比較して、『そう思う』の割合が大きく減少しているのは「⑥子どものしつけのために、ときには保護者の体罰も必要だ」で、前回調査の 47.9%から 32.5%へと、15.4 ポイント減少しており、次いで「⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」は、前回調査の 42.2%から 29.4%へと、12.8 ポイント、「⑮企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」は、前回調査の 69.0%から 59.1%へと、9.9 ポイント減少しています。

一方で、前回調査と比較して、『そう思う』の割合が大きく増加しているのは、「②人権には必ず義務がともなう」で、前回調査の 63.1%から 74.6%へと、11.5 ポイント増加しており、次いで「⑬外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」は、前回調査の 64.1%から 72.7%へと、8.6 ポイント増加しています。

また、前回調査と比較して、『そう思わない』の割合が大きく減少しているのは、「②人権には必ず義務がともなう」で、前回調査の 33.1%から 21.4%へと、11.7 ポイント減少しています。次いで、「⑬外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」は、前回調査の 32.7%から 25.2%へと、7.5 ポイント減少しています。

一方で、前回調査と比較して、『そう思わない』の割合が大きく増加しているのは、「⑥子どものしつけのために、ときには保護者の体罰も必要だ」で、前回調査の 49.7%から 65.1%へと、15.4 ポイント増加しており、次いで、「⑮企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」は、前回調査の 24.1%から 36.9%へと、12.8 ポイント、「⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」は、前回調査の 56.0%から 68.3%へと、12.3 ポイント増加しています。

### 《性別》

権利と義務、および外国人の日本社会への適応について、男女間で差があります。「①権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている」については、『そう思う』と回答した男性が 81.7%に対し、女性は 72.5%と、男性が女性を 9.2 ポイント上回り、「②人権には必ず義務がともなう」については、『そう思う』と回答した男性が 77.6%に対し、女性は 72.8%と、男性が女性を 4.8 ポイント上回り、「⑬外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」については、『そう思う』と回答した男性が 78.6%に対し、女性は 69.0%と、男性が女性を 9.6 ポイント上回っています。

育児の在り方や保護者・教師の体罰について、男女間で価値観の違いが見られます。「⑤子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するほうがいい」については、『そう思わない』と回答した女性が 54.5%に対し、

男性は 44.7%と、女性が男性を 9.8 ポイント上回り、「⑥子どものしつけのために、ときには保護者の体罰も必要だ」については、『そう思わない』と回答した女性が 69.9%に対し、男性は 58.9%と、女性が男性を 11.0 ポイント上回り、「⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」については、『そう思わない』と回答した女性が76.0%に対し、男性は 58.7%と、女性が男性を17.3ポイント上回っています。

性的指向の多様性や家族の在り方については、女性の方が柔軟で受容的な姿勢を示しています。「⑭同性同士の結婚も認められるのは当然だ」については、『そう思う』と回答した女性が 62.0%に対し、男性は 48.5%と、女性が男性を 13.5 ポイント上回り、「⑮企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」については、『そう思う』と回答した女性が 64.4%に対し、男性は 53.1%と、女性が男性を 11.3 ポイント上回り、「⑯自分の身内には同性愛者はいてほしくない」については、『そう思わない』と回答した女性が59.3%に対し、男性は 48.3%と、女性が男性を 11.0 ポイント上回っています。

困難な状況にある人々に対する考え方にも、性別による違いが見受けられます。「④社会福祉を含め、行政が実施する様々な支援策に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」については、『そう思う』と回答した男性が57.5%に対し、女性は 46.6%と、男性が女性を 10.9 ポイント上回っています。

## 《年齢別》

### 1.若年層(18,19 歳、20 歳代)

「⑭同性同士の結婚も認められるのは当然だ」については、『そう思う』と回答した 18,19 歳が 81.0%で最も多く、「⑯自分の身内には同性愛者はいてほしくない」についても、『そう思わない』と回答した 18,19 歳が 86.9%で最も多くなっています。

### 2.壮年層(30 歳代～50 歳代)

「②人権には必ず義務がともなう」については、『そう思う』と回答した 40 歳代が 82.3%で最も多く、「④社会福祉を含め、行政が実施する様々な支援策に頼るより、個人がもっと努力する必要がある」についても、『そう思う』と回答した 40 歳代が 82.3%で最も多くなっています。また、「⑬外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」についても、『そう思う』と回答した 30 歳代が 86.2%で最も多くなっています。

「③差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」については、『そう思わない』と回答した 30 歳代が 71.2%と最も多く、「⑤子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するほうがいい」については、『そう思わない』と回答した 30 歳代が 64.9%、40 歳代が 63.5%と多くなっています。

子どものしつけにおける体罰について、「⑦教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」については、『そう思う』と回答した30歳代から 50 歳代が多い傾向を示しています。

### 3.高齢層(60 歳代、70 歳以上)

高齢層では、長年の慣習を重んじる保守性と、個人の努力を尊ぶ価値観が強く残っています。

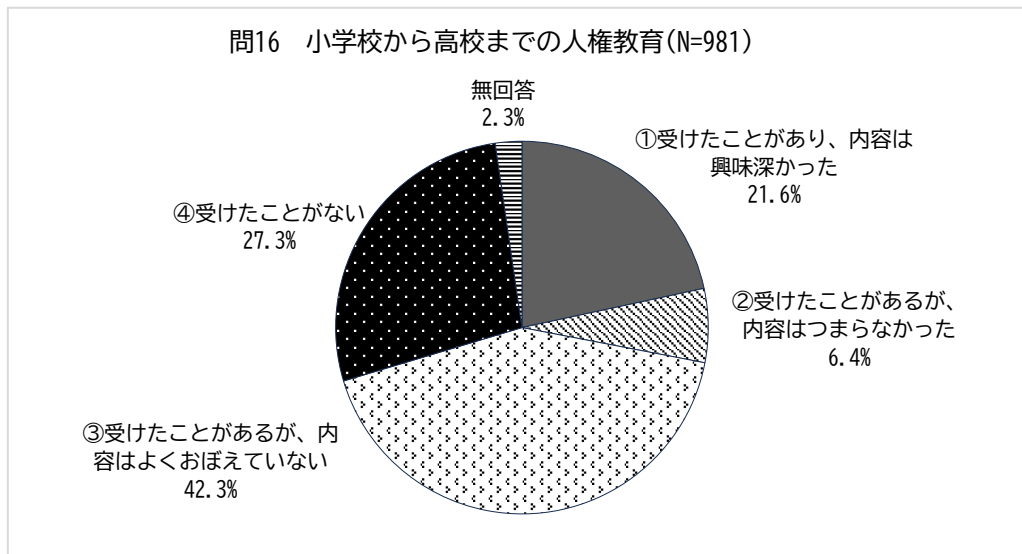
「⑮企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」については、『そう思わない』と回答した 70 歳以上が 47.5%で最も多く、「⑯自分の身内には同性愛者はいてほしくない」については、『そう思う』と回答した 70 歳以上が 61.9%で最も多くなっています。

「⑨介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」については、『そう思う』と回答した 70 歳以上が 45.8%で最も多く、「⑰ニートやひきこもりは、本人自身に責任があると思うのはよく

ないことだ」については、『そう思う』と回答した60歳代が63.8%、70歳以上が61.2%と多くなっています。

(13) 差別や人権に関する教育について

問16 あなたは、小学校から高校の間に、差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。(○は1つ)



「受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」が 42.3%で最も多く、次いで「受けたことがない」が 27.3%、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が 21.6%となっています。

	母数 (N)	① 受けたことがあり、内容は興味深かった	② 受けたことがあるが、内容はつまらなかった	③ 受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない	④ 受けたことがない	無回答
全体	981	21.6%	6.4%	42.3%	27.3%	2.3%
性別						
女性	545	20.7%	3.5%	46.4%	27.2%	2.2%
男性	416	23.1%	10.6%	37.0%	27.2%	2.2%
年齢別						
18, 19 歳	84	42.9%	13.1%	29.8%	13.1%	1.2%
20 歳代	93	32.3%	5.4%	40.9%	19.4%	2.2%
30 歳代	94	25.5%	7.4%	55.3%	11.7%	0.0%
40 歳代	96	29.2%	10.4%	50.0%	9.4%	1.0%
50 歳代	201	29.4%	9.5%	44.8%	15.4%	1.0%
60 歳代	191	22.0%	6.8%	49.2%	20.4%	1.6%
70 歳以上	297	9.8%	3.0%	30.3%	52.9%	4.0%

《性別》

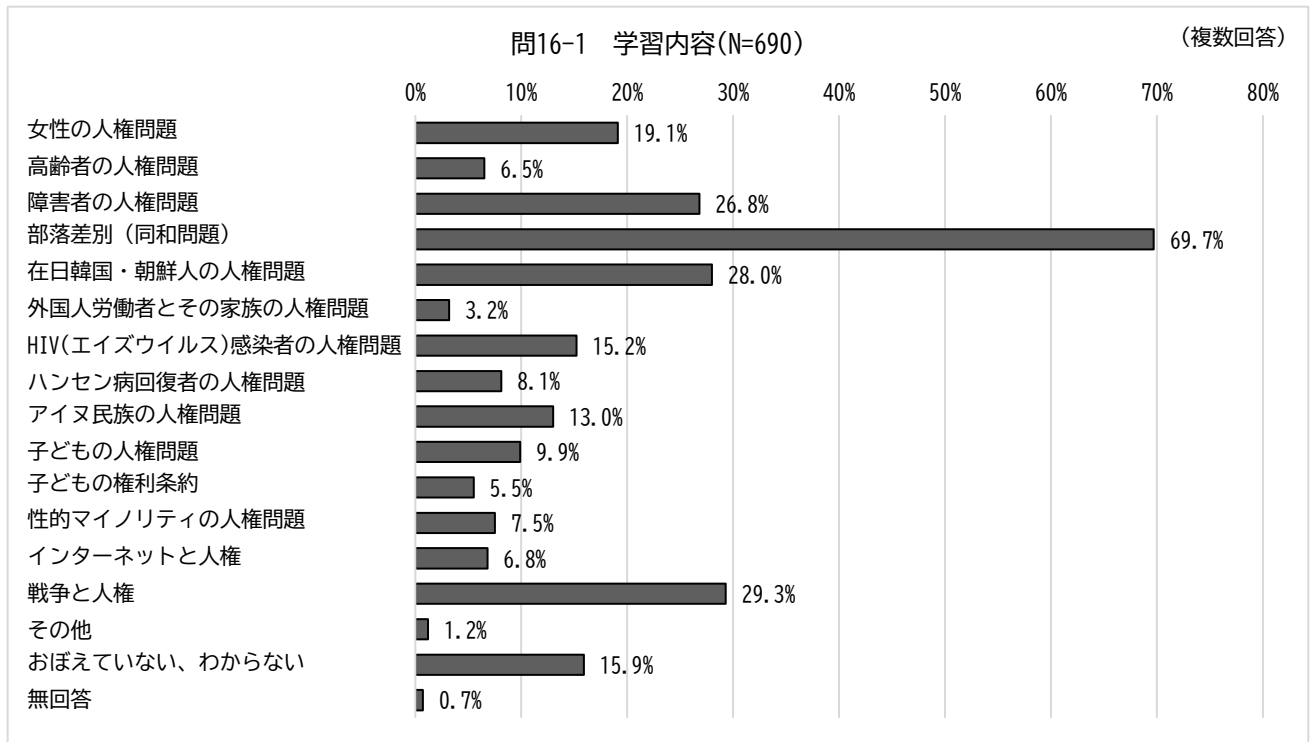
「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」と回答した男性が 10.6%に対し、女性は 3.5%と、男性が女性を 7.1 ポイント上回り、「受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」と回答した女性が 46.4%に対し、男性は 37.0%と、女性が男性を 9.4 ポイント上回っています。

《年齢別》

「受けたことがあり、内容は興味深かった」「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」の割合は、18,19 歳が順に 42.9%、13.1%と最も多くなっています。また、「受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない」の割合は、30 歳代が 55.3%と最も多く、「受けたことがない」の割合は、70 歳以上が 52.9%と最も多くなっています。

問16-1は、問16で「①」「②」「③」と答えた方にお聞きします。

問16-1 どのような内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)



「部落差別(同和問題)」が 69.7%で最も多く、次いで「戦争と人権」が 29.3%、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」が 28.0%、「障害者の人権問題」が 26.8%、「女性の人権問題」が 19.1%となっています。

	母数(N)	女性の人権問題	高齢者の人権問題	障害者の人権問題	部落差別(同和問題)	在日韓国・朝鮮人の人権問題	外国人労働者とその家族の人権問題	HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題	ハンセン病回復者の人権問題	アイヌ民族の人権問題	子どもの人権問題	子どもの権利条約	性的マイノリティの人権問題	インターネットと人権	戦争と人権	その他	おぼえていない、わからない	無回答
全体	690	19.1%	6.5%	26.8%	69.7%	28.0%	3.2%	15.2%	8.1%	13.0%	9.9%	5.5%	7.5%	6.8%	29.3%	1.2%	15.9%	0.7%
性別																		
女性	385	20.3%	5.5%	23.4%	69.6%	25.2%	2.1%	16.1%	8.6%	10.9%	10.1%	5.2%	6.5%	7.8%	29.4%	0.3%	17.7%	1.0%
男性	294	18.0%	7.8%	31.6%	70.7%	31.6%	4.4%	14.6%	7.5%	16.0%	9.2%	5.8%	8.5%	5.4%	29.3%	2.4%	13.3%	0.3%
年齢別																		
18, 19歳	72	45.8%	12.5%	51.4%	62.5%	29.2%	13.9%	25.0%	15.3%	22.2%	26.4%	16.7%	52.8%	50.0%	51.4%	0.0%	11.1%	0.0%
20歳代	73	30.1%	11.0%	45.2%	52.1%	37.0%	9.6%	37.0%	12.3%	21.9%	17.8%	9.6%	30.1%	30.1%	45.2%	0.0%	9.6%	0.0%
30歳代	83	30.1%	8.4%	32.5%	49.4%	22.9%	3.6%	31.3%	4.8%	19.3%	16.9%	12.0%	12.0%	14.5%	42.2%	0.0%	15.7%	1.2%
40歳代	86	30.2%	5.8%	31.4%	75.6%	37.2%	4.7%	29.1%	7.0%	16.3%	14.0%	9.3%	10.5%	4.7%	34.9%	0.0%	14.0%	0.0%
50歳代	168	13.7%	6.0%	22.6%	79.8%	28.6%	4.2%	10.7%	9.5%	14.9%	6.0%	3.6%	3.6%	2.4%	31.0%	1.8%	13.7%	0.0%
60歳代	149	12.1%	2.0%	20.1%	81.9%	23.5%	0.0%	3.4%	7.4%	5.4%	2.7%	1.3%	2.0%	0.7%	19.5%	1.3%	14.1%	1.3%
70歳以上	128	14.1%	7.8%	22.7%	61.7%	28.1%	0.8%	4.7%	8.6%	10.9%	8.6%	2.3%	2.3%	0.8%	16.4%	2.3%	24.2%	1.6%

## 《性別》

「障害者の人権問題」と回答した男性が31.6%に対し、女性は23.4%と、男性が女性を8.2ポイント上回り、「在日韓国・朝鮮人の人権問題」と回答した男性が31.6%に対し、女性は25.2%と、男性が女性を6.4ポイント上回り、「アイヌ民族の人権問題」と回答した男性が16.0%に対し、女性は10.9%と、男性が女性を5.1ポイント上回っています。

## 《年齢別》

「部落差別(同和問題)」と回答した60歳代が81.9%で最も多く、30歳代は49.4%で最も少なく、32.5ポイントの差があります。

「在日韓国・朝鮮人の人権問題」と回答した40歳代が37.2%で最も多く、30歳代は22.9%で最も少なく、14.3ポイントの差があります。

「HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題」と回答した20歳代が37.0%で最も多く、60歳代は3.4%で最も少なく、33.6ポイントの差があります。

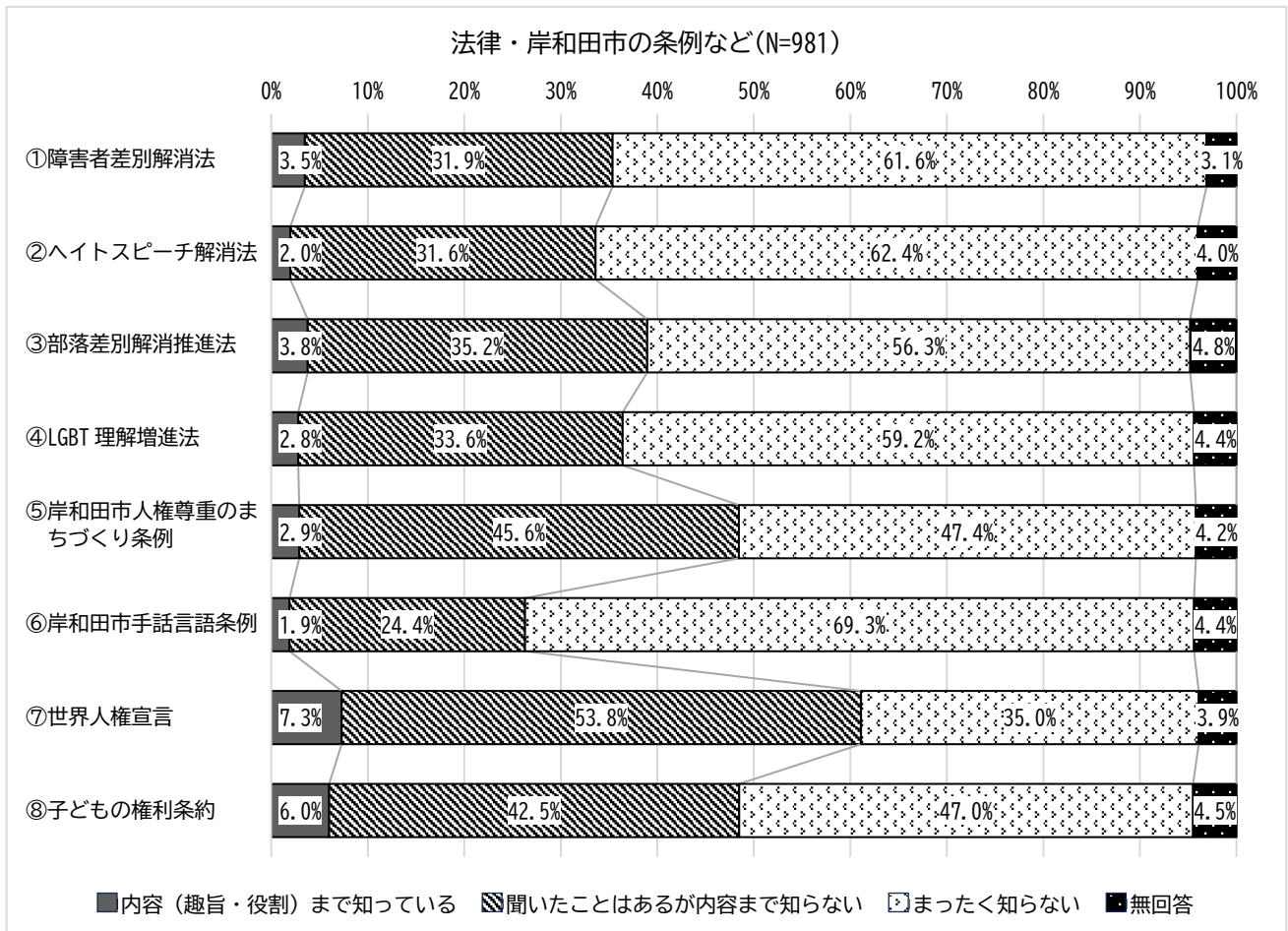
「ハンセン病回復者の人権問題」と回答した18,19歳が15.3%で最も多く、30歳代は4.8%で最も少なく、10.5ポイントの差があります。

「部落差別(同和問題)」「在日韓国・朝鮮人の人権問題」「HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題」「ハンセン病回復者の人権問題」以外の人権問題については、年齢が若くなるほど教わったという割合が増加しています。

(14) 人権に関する法律や取組などについて

問17 あなたは、以下の法律や条例、また、人権問題に関する行政の取組や相談窓口を知っていますか。  
それぞれについて○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

法律・岸和田市の条例などについて



「内容(趣旨・役割)まで知っている」と回答した割合は、「⑦世界人権宣言」が7.3%で最も多く、次いで「⑧子どもの権利条約」が6.0%、「③部落差別解消推進法」が3.8%となっており、ほとんど周知されていません。

「まったく知らない」と回答した割合は、「⑥岸和田市手話言語条例」が69.3%で最も多く、次いで「②ヘイトスピーチ解消法」が62.4%、「①障害者差別解消法」が61.6%となっています。

	母数 (N)	①障害者差別解消法				②ヘイトスピーチ解消法			
		内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答	内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答
全体	981	3.5%	31.9%	61.6%	3.1%	2.0%	31.6%	62.4%	4.0%
性別									
女性	545	3.1%	30.6%	62.9%	3.3%	1.5%	27.2%	67.0%	4.4%
男性	416	3.8%	33.4%	60.6%	2.2%	2.9%	37.5%	57.2%	2.4%
年齢別									
18,19歳	84	8.3%	33.3%	54.8%	3.6%	4.8%	34.5%	56.0%	4.8%
20歳代	93	6.5%	26.9%	63.4%	3.2%	3.2%	23.7%	68.8%	4.3%
30歳代	94	7.4%	29.8%	59.6%	3.2%	3.2%	29.8%	62.8%	4.3%
40歳代	96	5.2%	24.0%	69.8%	1.0%	4.2%	30.2%	64.6%	1.0%
50歳代	201	2.0%	30.8%	65.7%	1.5%	2.5%	32.3%	63.7%	1.5%
60歳代	191	4.7%	35.6%	57.1%	2.6%	1.0%	36.6%	59.2%	3.1%
70歳以上	297	1.3%	34.0%	60.6%	4.0%	1.3%	30.6%	62.6%	5.4%

	母数 (N)	③部落差別解消推進法				④LGBT理解増進法			
		内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答	内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答
全体	981	3.8%	35.2%	56.3%	4.8%	2.8%	33.6%	59.2%	4.4%
性別									
女性	545	3.1%	31.7%	59.6%	5.5%	2.8%	31.2%	60.9%	5.1%
男性	416	4.6%	39.7%	53.1%	2.6%	2.6%	37.7%	57.5%	2.2%
年齢別									
18,19歳	84	9.5%	33.3%	53.6%	3.6%	14.3%	35.7%	46.4%	3.6%
20歳代	93	4.3%	22.6%	66.7%	6.5%	7.5%	32.3%	55.9%	4.3%
30歳代	94	1.1%	29.8%	63.8%	5.3%	5.3%	35.1%	55.3%	4.3%
40歳代	96	4.2%	26.0%	65.6%	4.2%	5.2%	34.4%	59.4%	1.0%
50歳代	201	5.5%	32.8%	60.2%	1.5%	3.5%	34.3%	60.7%	1.5%
60歳代	191	4.2%	44.0%	48.2%	3.7%	1.0%	38.7%	57.1%	3.1%
70歳以上	297	3.4%	38.0%	52.5%	6.1%	0.7%	30.0%	63.0%	6.4%

	母数 (N)	⑤岸和田市人権尊重のまちづくり条例				⑥岸和田市手話言語条例			
		内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答	内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答
全体	981	2.9%	45.6%	47.4%	4.2%	1.9%	24.4%	69.3%	4.4%
性別									
女性	545	2.2%	45.5%	47.5%	4.8%	2.2%	25.3%	67.7%	4.8%
男性	416	3.8%	46.4%	47.6%	2.2%	1.7%	23.6%	72.1%	2.6%
年齢別									
18,19歳	84	6.0%	39.3%	50.0%	4.8%	2.4%	20.2%	73.8%	3.6%
20歳代	93	5.4%	28.0%	63.4%	3.2%	3.2%	18.3%	74.2%	4.3%
30歳代	94	6.4%	30.9%	57.4%	5.3%	4.3%	23.4%	67.0%	5.3%
40歳代	96	2.1%	36.5%	59.4%	2.1%	3.1%	13.5%	81.3%	2.1%
50歳代	201	3.0%	50.7%	44.8%	1.5%	2.0%	24.9%	71.1%	2.0%
60歳代	191	1.6%	54.5%	41.4%	2.6%	0.5%	26.7%	69.6%	3.1%
70歳以上	297	1.7%	50.8%	41.8%	5.7%	1.7%	27.9%	64.6%	5.7%

	母数 (N)	⑦世界人権宣言				⑧子どもの権利条約			
		内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答	内容(趣旨・ 役割)まで 知っている	聞いたことは あるが内容 まで知らない	まったく 知らない	無回答
全体	981	7.3%	53.8%	35.0%	3.9%	6.0%	42.5%	47.0%	4.5%
性別									
女性	545	5.3%	53.2%	36.9%	4.6%	5.5%	44.8%	44.8%	5.0%
男性	416	10.3%	55.3%	32.7%	1.7%	7.0%	40.1%	50.2%	2.6%
年齢別									
18,19歳	84	27.4%	45.2%	23.8%	3.6%	22.6%	48.8%	26.2%	2.4%
20歳代	93	7.5%	41.9%	46.2%	4.3%	9.7%	36.6%	50.5%	3.2%
30歳代	94	13.8%	37.2%	44.7%	4.3%	9.6%	39.4%	44.7%	6.4%
40歳代	96	5.2%	53.1%	40.6%	1.0%	7.3%	42.7%	46.9%	3.1%
50歳代	201	10.0%	58.2%	30.3%	1.5%	6.5%	40.8%	51.7%	1.0%
60歳代	191	5.8%	62.3%	29.8%	2.1%	5.2%	46.6%	45.5%	2.6%
70歳以上	297	5.1%	54.2%	35.4%	5.4%	3.7%	43.8%	46.1%	6.4%

## 《性別》

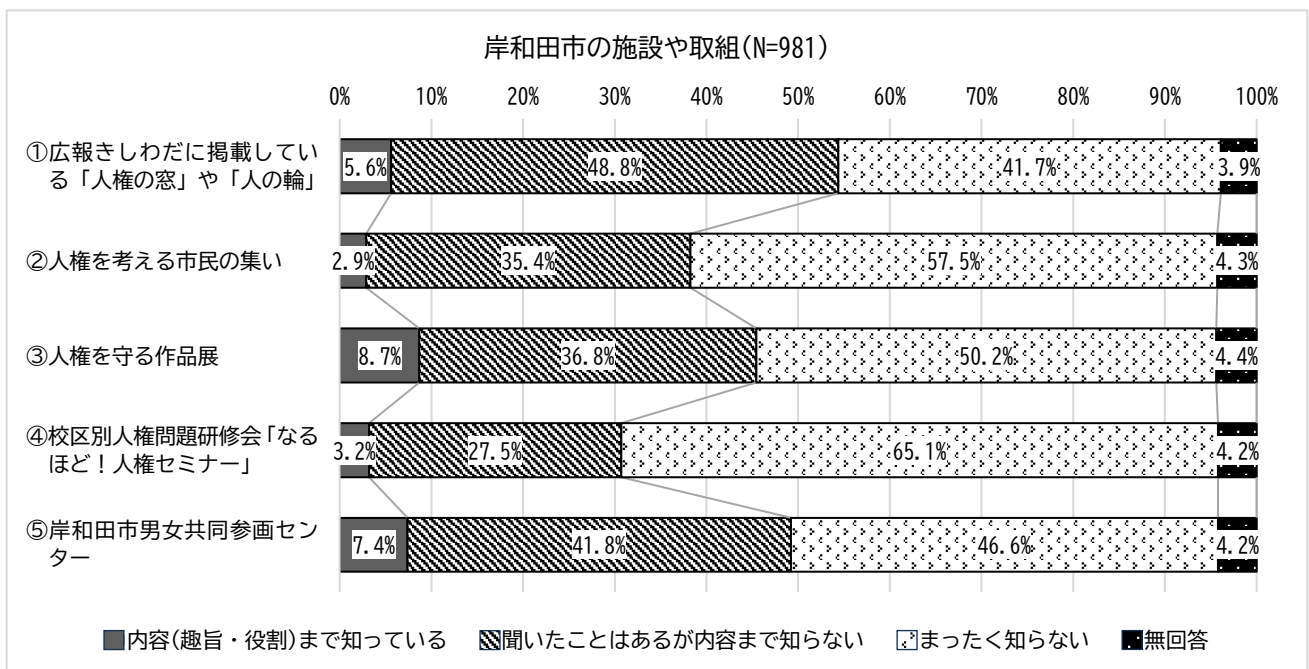
「まったく知らない」と回答した割合を見ると、「②ヘイトスピーチ解消法」については女性が67.0%に対し、男性は57.2%と、女性が男性を9.8ポイント上回り、「③部落差別解消推進法」については女性が59.6%に対し、男性は53.1%と、女性が男性を6.5ポイント上回っています。また、「⑧子どもの権利条約」については男性が50.2%に対し、女性は44.8%と、男性が女性を5.4ポイント上回っています。

## 《年齢別》

年齢別に「まったく知らない」の回答割合を比較すると、年齢による大きな差がありました。

「②ヘイトスピーチ解消法」(68.8%)、「③部落差別解消推進法」(66.7%)、「⑤岸和田市人権尊重のまちづくり条例」(63.4%)、「⑦世界人権宣言」(46.2%)については、20歳代の割合が最も多く、「①障害者差別解消法」(69.8%)、「⑥岸和田市手話言語条例」(81.3%)については、40歳代の割合が最も多く、「⑧子どもの権利条約」については、50歳代が51.7%と最も多く、「④LGBT理解増進法」については、70歳以上が63.0%と最も多くなっています。

## 岸和田市の施設や取組



「内容(趣旨・役割)まで知っている」の割合は、「③人権を守る作品展」が8.7%で最も多く、次いで「⑤岸和田市男女共同参画センター」が7.4%、「①広報きしわだに掲載している『人権の窓』や『人の輪』」が5.6%となっており、ほとんど周知されていません。

「まったく知らない」の割合を見ると、「④校区別人権問題研修会『なるほど！人権セミナー』」が65.1%で最も多く、次いで「②人権を考える市民の集い」が57.5%、「③人権を守る作品展」が50.2%となっています。

	母数 (N)	①広報きしわだに掲載している「人権の窓」や「人の輪」				②人権を考える市民の集い			
		内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答	内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答
全体	981	5.6%	48.8%	41.7%	3.9%	2.9%	35.4%	57.5%	4.3%
性別									
女性	545	6.4%	48.8%	39.8%	5.0%	2.8%	35.6%	56.3%	5.3%
男性	416	4.6%	49.3%	44.7%	1.4%	3.1%	35.1%	60.1%	1.7%
年齢別									
18,19歳	84	2.4%	23.8%	71.4%	2.4%	0.0%	21.4%	76.2%	2.4%
20歳代	93	1.1%	28.0%	68.8%	2.2%	0.0%	21.5%	76.3%	2.2%
30歳代	94	5.3%	31.9%	59.6%	3.2%	0.0%	17.0%	79.8%	3.2%
40歳代	96	6.3%	38.5%	54.2%	1.0%	2.1%	25.0%	71.9%	1.0%
50歳代	201	5.5%	53.7%	39.8%	1.0%	3.5%	40.3%	54.7%	1.5%
60歳代	191	4.2%	56.5%	37.2%	2.1%	2.1%	37.7%	58.1%	2.1%
70歳以上	297	7.7%	55.9%	29.3%	7.1%	5.1%	44.4%	42.8%	7.7%

	母数 (N)	③人権を守る作品展				④校区别人権問題研修会「なるほど！人権セミナー」			
		内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答	内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答
全体	981	8.7%	36.8%	50.2%	4.4%	3.2%	27.5%	65.1%	4.2%
性別									
女性	545	9.2%	38.7%	46.8%	5.3%	2.8%	27.7%	64.4%	5.1%
男性	416	8.4%	34.1%	55.5%	1.9%	3.8%	26.9%	67.5%	1.7%
年齢別									
18,19歳	84	20.2%	39.3%	38.1%	2.4%	2.4%	21.4%	73.8%	2.4%
20歳代	93	10.8%	24.7%	62.4%	2.2%	1.1%	12.9%	83.9%	2.2%
30歳代	94	7.4%	27.7%	61.7%	3.2%	1.1%	18.1%	77.7%	3.2%
40歳代	96	9.4%	31.3%	58.3%	1.0%	2.1%	13.5%	83.3%	1.0%
50歳代	201	10.0%	43.8%	45.3%	1.0%	4.0%	29.4%	65.7%	1.0%
60歳代	191	7.9%	39.8%	50.3%	2.1%	2.6%	31.4%	64.4%	1.6%
70歳以上	297	8.4%	38.4%	44.4%	8.8%	5.1%	35.0%	51.9%	8.1%

	母数 (N)	⑤岸和田市男女共同参画センター			
		内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答
全体	981	7.4%	41.8%	46.6%	4.2%
性別					
女性	545	8.4%	40.7%	45.9%	5.0%
男性	416	6.5%	43.5%	48.3%	1.7%
年齢別					
18,19歳	84	10.7%	42.9%	44.0%	2.4%
20歳代	93	3.2%	37.6%	57.0%	2.2%
30歳代	94	6.4%	42.6%	47.9%	3.2%
40歳代	96	9.4%	37.5%	52.1%	1.0%
50歳代	201	9.0%	45.8%	44.3%	1.0%
60歳代	191	5.8%	45.0%	47.6%	1.6%
70歳以上	297	8.8%	41.1%	42.1%	8.1%

### 《性別》

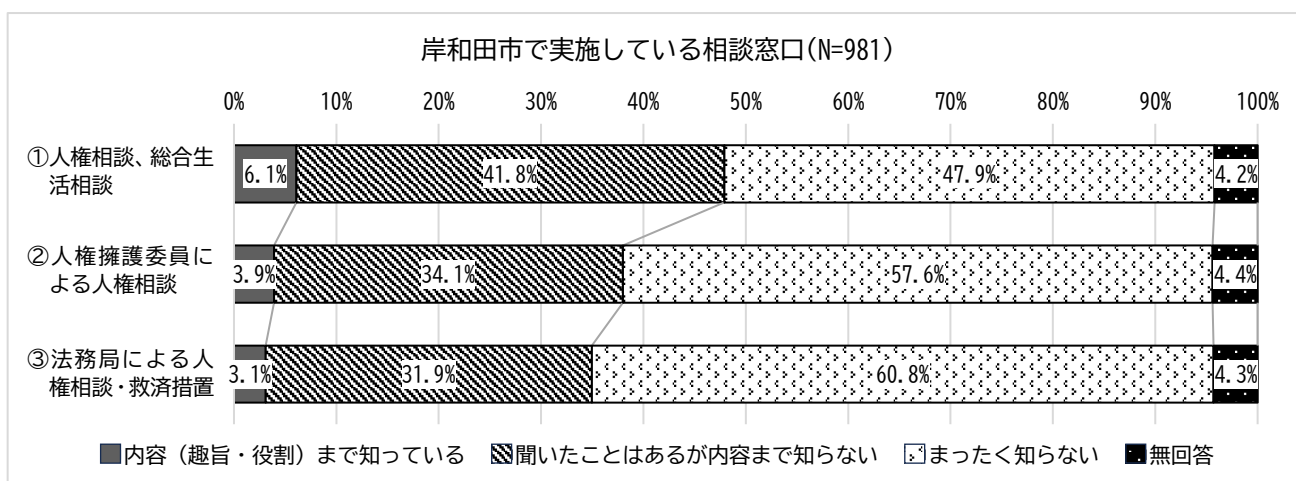
「まったく知らない」と回答した「③人権を守る作品展」については男性が 55.5%に対し、女性は 46.8%と、男性が女性を 8.7 ポイント上回っています。

### 《年齢別》

年齢別に「まったく知らない」の回答割合を比較すると、年齢による大きな差がありました。

「①広報きしわだに掲載している『人権の窓』や『人の輪』」については、18,19 歳が 71.4%と最も多くなっています。また、「③人権を守る作品展」(62.4%)、「④校区别人権問題研修会『なるほど！人権セミナー』」(83.9%)、「⑤岸和田市男女共同参画センター」(57.0%)については、20 歳代が 57.0%と最も多くなっています。「②人権を考える市民の集い」については、30 歳代が 79.8%と最も多くなっています。

## 岸和田市で実施している相談窓口



「内容(趣旨・役割)まで知っている」の割合は、「①人権相談、総合生活相談」が6.1%で最も多く、「②人権擁護委員会による人権相談」が3.9%、「③法務局による人権相談・救済措置」が3.1%となっており、ほとんど周知されていません。

「まったく知らない」の割合では、「③法務局による人権相談・救済措置」が60.8%と最も多く、「②人権擁護委員会による人権相談」が57.6%、「①人権相談、総合生活相談」が47.9%となっています。

	母数(N)	①人権相談、総合生活相談				②人権擁護委員会による人権相談			
		内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答	内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答
全体	981	6.1%	41.8%	47.9%	4.2%	3.9%	34.1%	57.6%	4.4%
性別									
女性	545	6.1%	41.5%	47.5%	5.0%	3.5%	33.4%	57.8%	5.3%
男性	416	6.5%	42.3%	49.3%	1.9%	4.6%	35.3%	58.2%	1.9%
年齢別									
18, 19歳	84	4.8%	28.6%	64.3%	2.4%	0.0%	23.8%	73.8%	2.4%
20歳代	93	2.2%	25.8%	69.9%	2.2%	1.1%	18.3%	78.5%	2.2%
30歳代	94	4.3%	30.9%	61.7%	3.2%	1.1%	18.1%	77.7%	3.2%
40歳代	96	6.3%	27.1%	65.6%	1.0%	3.1%	20.8%	75.0%	1.0%
50歳代	201	7.0%	49.8%	41.8%	1.5%	4.0%	42.3%	52.2%	1.5%
60歳代	191	3.1%	47.1%	46.6%	3.1%	2.1%	36.1%	58.6%	3.1%
70歳以上	297	9.1%	47.1%	36.7%	7.1%	7.1%	41.8%	43.4%	7.7%

	母数(N)	③法務局による人権相談・救済措置			
		内容(趣旨・役割)まで知っている	聞いたことはあるが内容まで知らない	まったく知らない	無回答
全体	981	3.1%	31.9%	60.8%	4.3%
性別					
女性	545	2.8%	29.5%	62.6%	5.1%
男性	416	3.6%	35.3%	59.1%	1.9%
年齢別					
18, 19歳	84	0.0%	21.4%	76.2%	2.4%
20歳代	93	1.1%	18.3%	78.5%	2.2%
30歳代	94	1.1%	20.2%	75.5%	3.2%
40歳代	96	2.1%	24.0%	72.9%	1.0%
50歳代	201	3.0%	38.8%	56.7%	1.5%
60歳代	191	1.6%	33.5%	62.3%	2.6%
70歳以上	297	5.7%	37.7%	48.8%	7.7%

#### 《性別》

性別については、大きな差は見られません。

#### 《年齢別》

年齢別に「まったく知らない」の回答割合を比較すると、年齢による大きな差がありました。

「①人権相談、総合生活相談」(69.9%)、「②人権擁護委員による人権相談」(78.5%)、「③法務局による人権相談・救済措置」(78.5)のすべてにおいて、20歳代の割合が最も多くなっています。

(15) 岸和田市の人権施策・人権教育に関する意見(自由記述)

岸和田市の人権施策・人権教育に関するご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

有効回収数 981 票中 111 件の回答がありました。ご意見、ご要望の多いものを以下に掲載します。

(1票の中に複数の項目にまたがる回答もあるため、各項目の回答件数の合計は111件より多くなっています。)

	項 目	件 数
1	女性の人権	6
2	子どもの人権	12
3	高齢者の人権	3
4	障害のある人の人権	12
5	被差別部落(同和地区)出身者の人権	9
6	地域で暮らす外国籍の人の人権	20
7	HIVや新型コロナウイルス感染症などさまざまなウイルスの感染者の人権	1
8	ハンセン病患者・元患者(回復者)の人権	0
9	刑を終えて出所した人の人権	0
10	犯罪被害者の人権	0
11	インターネットを悪用した人権侵害	0
12	北朝鮮当局による人権侵害問題	0
13	ホームレスの人の人権	0
14	性的マイノリティ(少数者)の人権	4
15	労働者をめぐる人権	0
16	被差別の当事者の家族の人権	2
17	さまざまな人権問題	6
18	その他・感想	55
	合計	130

### 3. 調査結果の考察

#### (1) 調査結果(単純集計)からみえてきたこと

##### ① 権利や憲法に関する理解について

回答者全体の回答結果(単純集計)からみえてくる特徴について述べると、まず第1に権利や憲法に関して多くの市民が十分に理解していないという点をあげることができる。問 15 の②「人権には必ず義務がともなう」については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が 74.6%、問 3 の⑦「日本国憲法は、国民が従うルールである」については『そう思う』の割合が 72.2%と、いずれも 7 割を超えている。このように、この2つの意見を肯定する回答は非常に多くなっているが、この2つの意見はいずれも正しいとはいえない。

人権は、すべての人が生まれながらにもっている権利であり、すべての人が無条件に人権をもっているのである。したがって、何らかの義務を果たした人に人権が与えられたり、義務を果たさなかったという理由で、人権が奪われたりするものではない。権利の行使には責任がともなうが、義務はともなわないのである。責任と義務を混同しているのではないかと思われる。人権に義務がともなうという誤解は、個々人の権利の行使を抑制し、我慢を強いることにもなりかねない。そのことは、問 15 の⑨「介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」という意見に対して『そう思う』と回答した割合が全体で 37.3%だったが、70 歳以上では 45.8%と、高齢者で高くなっていることにも表れているといえるのではないか。介護や介助を受ける高齢者は、自己主張を控えるべきだと考える高齢者が多いのである。また、「権利には義務がともなう」という誤解は、自分の権利を主張することが「自分勝手」や「わがまま」といった間違った見方を生むことにもなる。

「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見についてだが、強大な力をもつ国家が暴走し、国民の権利を侵害することがないように、国民が国家に対して、してはいけないこと、しなければならないことを示したものが憲法であり、憲法は国家権力を縛り、国家の権力行使をコントロールするものである。日本国憲法第 99 条に、憲法を尊重し、擁護する義務は、天皇、摂政、国務大臣、国会議員、裁判官、その他の公務員にあると明記されているように、憲法に従うのは国民ではなく、国家である。今回の調査で「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見を肯定する回答が 7 割に達したことは、憲法を誤解している市民がそれだけ多いということであり、大きな問題である。

また、問 5 は 6 つの選択肢のなかから憲法で国民の権利として決められているものを選ぶという設問であるが、憲法に明記されている国民の権利を選んだのは、「思っていることを世間に発表する」(21 条、37.1%)、「人間らしい暮らしをする」(25 条、79.6%)、「労働組合をつくる」(28 条、27.5%)と、「人間らしい暮らしをする」(生存権)が 8 割になってはいるものの、「思っていることを世間に発表する」(表現の自由)と「労働組合をつくる」(勤労者の団結権)は 3 割前後と、非常に低くなっている。そのため、この 3 つの選択肢だけを選んだのは 13.6%にすぎない。自分がどんな権利をもっているのか知らなければ、自分の権利を行使することはできないし、自分の権利を守ることもできない。さらには、他人の権利を侵害しないという保証もできないのである。

権利や憲法に関する基本的理解は、いわば人権意識の土台であり、権利や憲法の理解を深めることは、人権意識の土台を強くすることであり、その土台の上に高い人権意識を築くことができるといえる。したがって、権利や憲法に関する理解を高める教育・啓発に取り組むことが人権意識の向上にもつながるのではないか。

## ② 差別を解消していく取り組みについて

問 3 の②「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」という意見について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の回答割合が53.3%であり、半数を超えている。「思いやりや優しさ」を持つことは、決して間違っただけではなく、非常に大切なのであるが、それだけで人権問題が解決されるわけではない。差別を生じさせたり、差別を支える制度や文化、慣習などを変革していくことも大事であり、自分のなかに差別を肯定するような考え方や感じ方があることに気づき、それらを変えていくことも重要である。「思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」という意見は、人権問題の解決を心のありようという個人の問題に帰してしまい、制度・文化等や個人の考え方・感じ方の変革という点を軽視することになりかねない。

問 3 の⑤「ささいなことまで差別だ、人権侵害だと声を上げるのは、世の中を窮屈にさせる」という意見については、『そう思う』が60.8%と、『そう思わない』の12.1%を大きく上回っている。この社会にはさまざまな差別問題があるが、それらが社会問題として広く認識されるに至る以前は、圧倒的多数を占める非当事者にとって関心の薄い事柄であり、ささいな問題にすぎなかったのである。しかし、当事者を中心としたさまざまな取り組みが続けられ、当事者があげる声によってその問題性に気づく非当事者が増えていくにつれ、社会問題として認識されるようになるのである。したがって、非当事者からはささいなことに感じられても、当事者にとってみれば非常に深刻な問題であることは数多くあり、当事者の声に耳を傾けることは大事なことである。その意味で、「ささいなことまで差別だ、人権侵害だと声を上げるのは、世の中を窮屈にさせる」という意見を肯定する回答が6割に達していることは、非常に問題であるといえる。

このように、思いやりや優しさだけでは、人権問題は解決しないのであり、ささいなことに感じられても、被差別者や少数者の声に耳を傾けることが大事であることを人権教育・啓発で伝えていく必要がある。そして、まず最初に当事者の異議申し立てがあり、それが波紋となり広がって、やがて社会問題として認識されるという、人権課題それぞれの歴史を学ぶことが被差別者や少数者の声を尊重することの大事さの理解につながるのではないだろうか。

## ③ 問 12「同和問題に関する発言を直接聞いた経験」について

同和問題に関する差別的な内容の発言を6つ示し、過去5年間でいずれかを聞いたことがあるかを問うと(46ページ)、聞いたことがあると答えたのは21.0%であった。数多くあると考えられる、同和問題に関する差別的な発言のうちから6つだけを示し、5年間という時期を限定しても、約2割もの人が差別的な内容の発言を直接聞いているのである。差別的な発言を聞いたと回答した人に発言を聞いてどう感じたかを問うと(49ページ)、「そういう見方もあるのかと思った」が47.3%で、最も多かった。「そういう見方もあるのかと思った」という感じ方は、一見、中立的に見えるが、その発言に対して反発・疑問を感じているわけではないので、差別的な考え方に与することもありえる。それに対して、「反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった」(11.2%)と「反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた」(3.4%)を合わせても、「反発・疑問を感じた」のは14.6%にすぎない。「そのとおりと思った」が21.5%、「とくに何も思わなかった」が12.2%であり、これらに「そういう見方もあるのかと思った」の47.3%を加えると、81.0%になる。これでは差別的な見方や考え方の再生産が進むことになってしまう。同和問題に関する差別的な発言に出会った際、反発・疑問を感じる市民をどう増やしていくのか、教育・啓発の課題は大きいといえる。

問 1 の②「部落差別(同和問題)は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい」という意見に対し、『そう思う』と回答した割合は27.5%であるが、賛否の判断を保留する回答とい

える「どちらともいえない」が 27.8%あるので、『そう思わない』の割合(42.3%)は、5 割に達していない。3 割弱という「寝た子を起こすな」という意見を肯定する回答は、決して「少数派」として軽視してはいけない数字である。この 5 年間に同和問題に関する 6 つの差別的な発言を直接、聞いたという人が約 2 割おり、そのうちの 8 割がその発言に反発・疑問を感じていないという問 12 の結果から、「寝た子を起こすな」という意見の間違いは明らかである。人権教育・啓発でこの間違いを伝えていくことが大事である。

#### ④ 部落差別(同和問題)に関する回答結果について

問 1 の③「被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている」という意見に対して、『そう思う』の回答割合は 35.9%と、『そう思わない』の割合 20.2%を大きく上回っている。そして、問 1 の④「部落差別(同和問題)は他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる」という意見では、肯定回答(『そう思う』)が 56.5%と、半数を超えている。同和对策事業は 2002 年に終了しているにもかかわらず、被差別部落(同和地区)住民に対する特別施策が継続していると誤解している市民が多いのである。これは部落差別(同和問題)に関する情報が少ないためで、この情報の少なさは、市民に部落差別(同和問題)をわかりにくいと感じさせることになっているのではないか。

問 1 の⑤「自分の身内は被差別部落(同和地区)の人と結婚してほしくない」という意見を肯定する回答(『そう思う』)は 34.2%と、否定する回答(『そう思わない』)29.7%を上回っており、結婚に際しての被差別部落(同和地区)出身者に対する忌避意識は、依然として強いといえる。そして、「あなたが住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っている物件が被差別部落(同和地区)内にあったとしたら、あなたはどうしますか」という問いに『避けると思う』と回答したのは 64.2%にのぼる(問 13)。『避けると思う』と回答した人に、その理由を問うと(問 13-1)、「被差別部落に住むことで、自分や家族が差別を受けるかもしれないから」が 41.0%で、最も多く、次いで「被差別部落の生活環境や慣習などが自分には合わないと思うから」(31.4%)、「被差別部落は閉鎖的で、自分や家族が『よそ者』扱いされそうだから」(29.0%)となっている。

同和地区が自分たちとは異なる人たちが固まって住んでいる閉鎖的な地区であるという誤解が同和地区内の物件を避ける理由となっていることがうかがわれる。結婚忌避についても、被差別部落(同和地区)出身者に対する異質視が根拠となっていると考えられるので、部落差別の不当性を伝えていくとともに、被差別部落(同和地区)や被差別部落(同和地区)出身者に対する異質視を解消していく教育・啓発が大事であるといえる。

#### ⑤ 「どちらともいえない」という回答について

前回調査では、人権に関するさまざまな意見や考え方についてどう思うのかを問う場合、選択肢を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の 4 つ(4 件法)としたが、今回は、問 1、問 3、問 7、問 8、問 9 については「どちらともいえない」という選択肢を加えた 5 件法とした。それは「どちらともいえない」という回答がどの程度あがるのかをみることによって、教育・啓発の課題を明らかにできると考えたからである。

「どちらともいえない」は、「そう思う」「そう思わない」の判断を保留する回答であり、回答者が設問に示された意見や考え方について情報をあまり持っていない場合、「どちらともいえない」が多くなるという傾向がある。したがって、「どちらともいえない」という回答が多く出た項目については、その項目に関する情報を十分にもっていない市民が多いとみなすことができるので、情報提供につながる教育・啓発を進めていくことが重要と

なるのである。たとえば、人権の視点から問題のある意見や考え方に対して「どちらともいえない」という回答が多く出た場合、「どちらともいえない」と回答した人たちにその意見や考え方の問題点を伝えていく教育・啓発が否定回答(『そう思わない』)を増やしていくことにつながるといえる。

今回の調査で、「どちらともいえない」という回答が35%を超えたのは、問1の③「被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている」40.5%、問1の⑫「ハンセン病患者が強制隔離されたことについては、仕方がなかった」38.8%、問3の④「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」38.6%、問3の⑧「これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」47.9%、問9の⑦「出生前診断で胎児に障害があるとわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」42.2%、以上の5項目であった。これらについては、「そう思う」「そう思わない」の判断をするには、その情報が十分でないという回答者が多かったわけで、これらに関する情報を提供し、人権の視点からの判断につながる教育・啓発を行っていくことが大事であるといえる。

## (2) 年齢別比較からみえてきたこと

回答割合を年齢別に比較すると、2000年以前は、年齢が若くなるほど人権意識が高いという傾向がみられたのであるが、近年はそうした傾向がみられない項目が増えてきている。たしかに、今回の調査でも、問7の①「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい」という意見に対して『そう思わない』と回答したのは18,19歳が最も多く(『そう思わない』の割合は65.4%、全体38.5%)、問7の③「夫の親を妻が介護するのは当然だ」という意見に対しても『そう思わない』と回答したのは18,19歳が最も多かった(83.3%、全体54.2%)。また、問15の⑭「同性同士の結婚も認められるのは当然だ」という意見を肯定する回答(『そう思う』)は18,19歳で最も高く(81.0%、全体56.0%)、問15の⑯「自分の身内に同性愛者はいてほしくない」という意見を否定する回答(『そう思わない』)は18,19歳で最も高くなっている(86.9%、全体54.3%)。このように、男らしさ、女らしさにこだわらず、性別役割を批判的にみる傾向は、若年層に顕著にみられ、同性婚を容認し、同性愛者に対する忌避意識が弱いのも若年層なのである。

しかし、問1の③「刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない」という意見では、肯定回答(『そう思う』)が18,19歳で最も高くなっており(73.8%、全体47.3%)、問3の⑥「競争社会だから競争に負けた人が不利益を受けるのは仕方がない」という意見に『そう思う』と回答したのが最も多かったのも18,19歳である。そして、問9の④「企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」という意見に『そう思う』と回答したのが最も多かったのが18,19歳であり、問10の①「外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない」、問10の④「災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない」、これらの意見を肯定する回答(『そう思う』)が最も多かったのも18,19歳なのである。さらには、問15の⑧「いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある」という意見に対して『そう思う』と回答したのは、18,19歳が最も多く(33.4%、全体26.4%)、問7の⑧「女性は理数系科目が苦手なので、大学の理工系学部の女性比率が少ないのは仕方がない」という意見を肯定する回答(『そう思う』)が18,19歳で最も高くなっている(22.7%、全体12.7%)。

また、20歳代の『そう思う』の割合が最も高くなっているのは、問8の①「収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのは、やむを得ないことだ」(19.4%、全体11.6%)、問8の⑤「不登校は本人が努力すれば克服できる」(22.6%、全体16.1%)、問9の①「高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなること

は仕方がない」(53.7%、全体 41.5%)であった。

刑余者や競争に負けた人、外国人、低収入の家庭の子ども、働こうとしている障害者や高齢者、これらの人たちが不利益を受けるのは仕方がないと考え、いじめや不登校の原因をその当事者に求めるという回答傾向が若年者にみられるのである。それは自己責任論に依拠した回答傾向ともいえる。自己責任論は、人権侵害によってもたらされた不利益を個人の責任とみなし、社会全体で取り組むべき人権問題を個人の問題に帰してしまう。自己責任論がどういう点で間違っているのかを伝えていく人権教育・啓発が必要であるといえよう。

今回の調査では、若年層に因習や俗伝などを肯定する傾向もみられた。問 4 の①「葬儀の際の「清め塩」は必要だ」という意見に対して、『そう思う』と回答したのは 18, 19 歳が最も高く(76.2%、全体 56.4%)、問 4 の③「運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい」と問 4 の⑥『「あの世」や「来世」があると信じるほうだ」という意見についても、それを肯定する回答(『そう思う』)が最も多かったのは 18, 19 歳であった(順に 50.0%、全体 34.0%、67.9%、全体 50.7%)。因習や俗伝などが差別を肯定したり、差別を支える根拠とされた歴史を考えると、因習や俗伝などに対して若年層が批判的な視点をもつ契機となるような人権教育を行うことが若年層の人権意識の向上に有効であるといえるのではないだろうか。

もう一つ、若年層にみられる特徴として、現在の社会のあり方を肯定する傾向が強いことがあげられる。問 14 では、「学校教育の場」「家庭生活の場」「職場では」など、8 つの分野に「社会全体として」を加えた 9 つの各分野において男女の地位がどの程度、平等になっているかと思うかを問うているが、「平等である」と回答した割合が最も高かったのは、「家庭生活の場」と「地域活動の場」では 18, 19 歳、「職場では」「社会通念や地域の慣習・しきたり」「法律や制度の上では」「政治の場では」「経済界では」「社会全体として」、以上の 6 分野では 20 歳代であった(「学校教育の場では」については、「平等である」の割合は 30 歳代が 78.7%と、最も多かったが、それに次いで多かったのは 20 歳代 77.4%であった)。このように、18, 19 歳と 20 歳代で「男女が平等である」という回答が多くなっているのである。

いうまでもなく、世界経済フォーラムが発表するジェンダーギャップ世界ランキングでは、日本は低迷を続けており、日本社会の男女平等の程度は非常に低いのであるが、それを若年層ほど平等であるとみなしているのである。こうした男女平等観の再構築が人権教育で取り組まれる必要があるのではないだろうか。

### (3) 前回調査との比較について

今回の調査では、すでに述べたように選択肢に「どちらともいえない」を加えた 5 件法とした設問があるため、前回調査と比較できる設問が少なくなったが、比較できる設問について特徴的な点をあげると、以下のようである。

問 15 の⑥「子どもをしつけるために、ときには保護者の体罰も必要だ」という意見については、『そう思う』の割合が 15.4 ポイント低下し、『そう思わない』の割合が 15.4 ポイント上昇している。同様に、問 15 の⑦「教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ」という意見では、『そう思う』の割合が 12.8 ポイント低下している。また、問 15 の⑧「いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある」という意見に対しては、『そう思う』という回答割合が 7.7 ポイント低下している。このように、保護者や教師の体罰を容認する回答が減少し、いじめ問題の原因をいじめを受ける子どもにも求めるという意見を肯定する回答が減少している。市民の人権意識の向上がうかがわれる結果といえるが、前回調査との比較からは、以下にみられるように、これとは逆の結果が多くみられた。

問 15 の⑩「結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい」という意見については、それを肯定する回答(『そう思う』)が 5.1 ポイント上昇し、問 15 の⑭「同性同士の結婚も認められるのは当然だ」という意見については、『そう思う』の割合が 5.5 ポイント低下している。結婚に際しての身元調査を肯定する回答がやや増え、同性婚を認められるべきだという意見を肯定する回答がやや減少している。そして、問 15 の⑮「企業は社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」という意見を肯定する回答が 9.9 ポイント減少している。

このように、前回調査との比較から人権意識の後退がみられるのであるが、それは外国籍住民に関する設問でより顕著である。

問 10 の①「外国人だからという理由で賃貸住宅の入居を断られても仕方がない」という意見では、『そう思う』の割合が 12.8 ポイント増加し、問 10 の⑥「外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである」という意見では、『そう思う』の割合が 10.4 ポイント減少している。そして、問 10 の⑦「外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」という意見では、『そう思う』の割合が 10.5 ポイント上昇し、問 15 の⑫「日本の学校に通う外国人の子どもたちに自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障する必要がある」という意見に対して『そう思う』と回答した割合は 3.1 ポイント減少している(「そう思う」の割合の場合は、6.1 ポイント減)。問 15 の③「外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ」という同化を当然視する意見については、『そう思う』という回答割合が 8.6 ポイント上昇している。

被差別部落の人との結婚を家族から反対されている親戚の相談への対応を問うた問 11 では、最も積極的な対応といえる「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」が前回調査の 15.1%から今回は 10.7%に低下し、「どう言えばよいかわからない」が前回調査の 27.5%から 34.0%に増加している。また、住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っている物件が被差別部落(同和地区)内にあったとしたら、どうするかを問うた問 13 では、「避けると思う」の割合が前回調査の 17.7%から 27.6%に増加し、「避けないと思う」の割合が前回調査の 19.7%から 9.0%に減少している。

以上のように、前回調査との比較からは、人権意識の向上がうかがわれる項目よりも、人権意識の後退がみられる項目のほうが多かった。外国籍住民の人権に関しては、昨年の参議院選挙の際に強調された「日本人ファースト」という主張が影響しているものと考えられるし、性的マイノリティの人権については、2023 年の LGBT 理解増進法の制定の際に盛んに行われた性的マイノリティを批判するネガティブキャンペーンが影響しているのかもしれない。

ともあれ、今回の調査でみられた市民の人権意識の後退については、それに対応する人権教育・啓発のあり方を考えていかなければならないであろう。

#### (4) クロス集計からみえてきたこと

##### ① 権利や憲法に対する理解の程度別にみた回答傾向

表 1 は、問 3 の①「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に対する回答別に問 1、問 3、問 15 の回答結果を示したものである。

この表の見方を説明すると、表の左側の上、「問 1-⑨ 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」とある横長の箱は、「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に対する回答別に「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」という意見についてどう

回答したのかを表している。表の右上に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」とあるのは、「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」という意見に対する回答(選択肢)である。すなわち、「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に対して、『そう思う』と回答した 553 人は、「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」という意見に対して、7.2%が「そう思う」、6.9%が「どちらかといえばそう思う」、13.4%が「どちらともいえない」、24.4%が「あまりそう思わない」、45.9%が「そう思わない」と回答したのである。

表1 問3-①「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に対する回答別問1、問3、問15の回答割合

	「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に対する回答	回答者数	問1、問3、問15の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問1-⑨ 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	『そう思う』	553	7.2	6.9	13.4	24.4	45.9	2.2
	どちらともいえない	299	6.7	9.4	23.4	26.4	31.4	2.7
	『そう思わない』	103	16.5	11.7	23.3	18.4	29.1	1.0
問1-⑮ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	『そう思う』	553	16.5	15.4	25.7	17.5	23.1	1.8
	どちらともいえない	299	9.4	18.1	40.8	17.1	14.0	0.7
	『そう思わない』	103	30.1	22.3	15.5	15.5	15.5	1.0
問3-④ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	『そう思う』	553	7.1	14.5	35.3	19.5	23.1	0.5
	どちらともいえない	299	8.7	20.7	49.5	14.4	6.0	0.7
	『そう思わない』	103	21.4	25.2	30.1	10.7	10.7	1.9
問15-⑧ いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある	『そう思う』	553	5.1	19.0	*	41.6	33.1	1.3
	どちらともいえない	299	1.3	24.7	*	42.5	29.1	2.3
	『そう思わない』	103	6.8	37.9	*	37.9	16.5	1.0
問15-⑨ 介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない	『そう思う』	553	6.9	29.7	*	42.5	19.3	1.6
	どちらともいえない	299	6.0	29.8	*	47.5	14.7	2.0
	『そう思わない』	103	12.6	35.0	*	41.7	8.7	1.9
問15-⑩ 介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない	『そう思う』	553	6.0	24.2	*	46.7	20.8	2.4
	どちらともいえない	299	3.7	25.8	*	51.5	16.7	2.3
	『そう思わない』	103	16.5	25.2	*	46.6	9.7	1.9
問15-⑭ 同性同士の結婚も認められるのは当然だ	『そう思う』	553	21.7	38.0	*	23.5	14.3	2.5
	どちらともいえない	299	15.4	41.8	*	30.1	10.0	2.7
	『そう思わない』	103	12.6	24.3	*	33.0	29.1	1.0
問15-⑯ 自分の身内には同性愛者はいてほしくない	『そう思う』	553	16.1	26.4	*	30.7	25.0	1.8
	どちらともいえない	299	15.7	24.4	*	37.8	19.4	2.7
	『そう思わない』	103	33.0	21.4	*	26.2	16.5	2.9

表1をみると、「政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモを行うことは、憲法で保障された権利である」という意見に『そう思う』と回答した人(以下、デモは憲法で保障された権利であると理解している人)と『そう思わない』と回答した人(以下、デモは憲法で保障された権利であるとは考えていない人)を比較すると、デモは憲法で保障された権利であると理解している人は、「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」という意見に対して45.9%が「そう思わない」と回答しており、その割合はデモは憲法で保障された権利である

とは考えていない人に比べて16.8ポイント高くなっている。同様に、デモは憲法で保障された権利であると理解している人は、「自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない」「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」「いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある」「介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」「介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」「自分の身内には同性愛者はいてほしくない」などの人権の視点から問題がある意見に対して「そう思わない」と回答した割合が、デモは憲法で保障された権利であるとは考えていない人の「そう思わない」の割合に比べて、いずれも高くなっている。そして、「同性同士の結婚も認められるのは当然だ」という意見については、デモは憲法で保障された権利であるとは考えていない人の『そう思う』の割合が36.9%であったのに対し、デモは憲法で保障された権利であると理解している人では、『そう思う』の割合が59.7%となっている。

このように、デモは憲法で保障された権利であると理解している人のほうが、デモは憲法で保障された権利であるとは考えていない人よりも人権意識が高いといえる。

表2は、問3の⑦「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見に対する回答別に、問3、問8、問9の回答結果を示したものである。この表の見方は、表1と同じである。

表2 問3-⑦「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見に対する回答別問3、問8、問9の回答割合

	「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見に対する回答	回答者数	問3、問8、問9の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらともいえない どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問3-⑥ 競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない	『そう思う』	709	5.2	18.2	28.8	24.7	22.3	0.8
	どちらともいえない	194	2.1	4.6	40.2	32.0	20.6	0.5
	『そう思わない』	63	0.0	11.1	23.8	31.7	33.3	0.0
問3-⑧ これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある	『そう思う』	709	11.6	21.2	44.6	13.3	7.8	1.7
	どちらともいえない	194	3.6	13.4	67.5	8.8	4.1	2.6
	『そう思わない』	63	4.8	14.3	33.3	23.8	22.2	1.6
問8-② 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	『そう思う』	709	1.1	2.4	16.9	29.6	49.4	0.6
	どちらともいえない	194	3.6	2.6	19.6	30.4	41.8	2.1
	『そう思わない』	63	1.6	3.2	9.5	27.0	57.1	1.6
問9-④ 企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない	『そう思う』	709	4.7	9.7	31.0	27.6	26.1	0.8
	どちらともいえない	194	2.6	5.7	42.3	24.2	23.2	2.1
	『そう思わない』	63	3.2	7.9	28.6	17.5	41.3	1.6
問9-⑥ 住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい	『そう思う』	709	4.1	12.7	27.5	29.8	25.2	0.7
	どちらともいえない	194	6.7	9.3	38.1	23.2	21.1	1.5
	『そう思わない』	63	4.8	17.5	20.6	19.0	38.1	0.0

これによると、「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見に対して『そう思わない』と回答した人は、「競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」という意見を否定する回答（『そう思わない』）の割合が65.0%であり、「日本国憲法は、国民が従うべきルールである」という意見に対し

て『そう思う』と回答した人の『そう思わない』の割合(47.0%)よりも 18 ポイントも高くなっている。憲法は国民が従うべきルールではないと考える人のほうが「競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」という意見を否定する回答が多くなっているのである。

同様に、憲法は国民が従うべきルールではないと考える人のほうが、問 3 の⑧「これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある」、問 8 の②「児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」、問 9 の④「企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」、問 9 の⑥「住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい」などの人権の視点から問題があるといえる意見や考え方に対して否定回答(「そう思わない」または『そう思わない』)を多くしている。したがって、憲法は国家権力が従うべきものであるという憲法の性格を理解している人の人権意識は高いといえる。

表 3 は、問 15 の②「人権には必ず義務がともなう」という意見に対する回答別に、問 1、問 3、問 8、問 10、問 15 の回答結果を示したものである。

表 3 問15-②「人権には必ず義務がともなう」という意見に対する回答別問 1、問 3、問 8、問 10、問 15 の回答割合

	「人権には必ず義務がともなう」という意見に対する回答	回答者数	問 1、問 3、問 8、問 10、問 15 の回答割合 (%)					
			『そう思う』	どちらかといえば『そう思う』	どちらともいえない	あまり『そう思わない』	『そう思わない』	無回答
問 1-⑤ 自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない	『そう思う』	732	16.5	20.6	32.9	13.4	14.5	2.0
	『そう思わない』	210	8.1	16.7	36.7	18.1	19.0	1.4
問 1-⑯ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	『そう思う』	732	17.9	18.2	28.7	16.9	17.3	1.0
	『そう思わない』	210	8.1	13.8	31.4	17.1	27.1	2.4
問 3-⑥ 競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない	『そう思う』	732	17.9	18.2	28.7	16.9	17.3	1.0
	『そう思わない』	210	8.1	13.8	31.4	17.1	27.1	2.4
問 8-② 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	『そう思う』	732	1.9	2.7	17.8	31.6	45.2	0.8
	『そう思わない』	210	1.0	1.4	15.7	23.3	58.1	0.5
問 10-⑤ 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	『そう思う』	732	7.8	21.6	*	44.4	25.3	1.0
	『そう思わない』	210	2.9	14.8	*	42.4	38.6	1.4
問 10-⑦ 外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる	『そう思う』	732	19.0	41.0	*	30.3	9.0	0.7
	『そう思わない』	210	8.6	28.6	*	47.1	15.2	0.5
問 15-③ 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	『そう思う』	732	9.6	35.9	*	42.9	10.9	0.7
	『そう思わない』	210	5.2	22.9	*	49.5	22.4	0.0

この表にあがった問 1 の⑤「自分の身内は被差別部落(同和地区)の人と結婚してほしくない」、問 1 の⑯「自分の身内は在日韓国・朝鮮人と結婚してほしくない」、問 3 の⑥「競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」、問 8 の②「児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない」、問 10 の⑤「自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」、問 10 の⑦「外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」、問 15 の③「差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある」は、いずれも人権の視点から問題がある意見や考え方である。これらの意見や考え方を否定する回答(『そう

思わない』の割合は、「人権には必ず義務がともなう」という意見を否定する人のほうがいずれも多くなっている。すなわち、人権には義務はともなわないと理解している人のほうが、人権には必ず義務がともなうと誤解している人よりも人権意識は高いのである。

表 4 は、憲法の権利の理解度別に、問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合をみたものである。完全正解者とは、問 5 の選択肢(1~6)のなかから憲法によって国民の権利として決められている「思っていることを世間に発表する」(21 条)、「人間らしい暮らしをする」(25 条)、「労働組合をつくる」(28 条)の 3 つだけを選んだ人で、部分正解者は、これらの 3 つを選んだうえで、他の選択肢も選んだり、正答である 3 つのうち、1つか2つしか選ばなかったり、そのうえで他の選択肢も選んだ人、不正解者は、正答である 3 つ以外の選択肢を選んだ人である。

表 4 憲法の権利の理解度別問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合

	憲法の権利の理解度	回答者数	問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問 1-⑨ 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	完全正解者	133	3.0	6.0	6.8	24.1	60.2	0.0
	部分正解者	699	8.4	9.0	17.7	25.0	37.6	2.1
	不正解者	137	13.1	5.8	27.0	19.7	26.3	8.0
問 1-⑫ ハンセン病患者が強制隔離されたことについては、仕方がなかった	完全正解者	133	9.0	16.5	34.6	14.3	25.6	0.0
	部分正解者	699	10.6	18.7	38.2	13.6	15.9	3.0
	不正解者	137	15.3	18.2	48.2	5.1	5.8	7.3
問 3-③ 人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない	完全正解者	133	1.5	2.3	12.0	36.1	48.1	0.0
	部分正解者	699	3.1	4.7	25.6	30.0	35.6	0.9
	不正解者	137	8.0	8.8	32.8	20.4	27.0	2.9
問 3-④ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	完全正解者	133	3.0	11.3	28.6	27.8	29.3	0.0
	部分正解者	699	9.0	18.5	38.5	16.6	16.0	1.4
	不正解者	137	13.9	19.0	49.6	7.3	6.6	3.6
問 8-① 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ	完全正解者	133	3.8	7.5	12.0	30.8	45.9	0.0
	部分正解者	699	3.0	8.0	17.0	27.2	44.1	0.7
	不正解者	137	4.4	10.2	26.3	24.8	33.6	0.7
問 8-② 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	完全正解者	133	0.8	1.5	11.3	25.6	60.9	0.0
	部分正解者	699	1.6	2.9	16.2	31.2	46.9	1.3
	不正解者	137	2.2	1.5	27.7	24.8	42.3	1.5
問 8-⑤ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ	完全正解者	133	3.0	5.3	22.6	24.8	44.4	0.0
	部分正解者	699	6.7	9.9	26.3	24.2	32.0	0.9
	不正解者	137	10.2	10.9	32.8	18.2	27.0	0.7
問 8-⑥ 子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方がない	完全正解者	133	3.0	9.0	20.3	26.3	41.4	0.0
	部分正解者	699	2.7	10.9	28.8	24.7	31.9	1.0
	不正解者	137	5.1	10.9	40.9	19.7	20.4	2.9
問 15-⑧ いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある	完全正解者	133	2.3	11.3	*	45.9	39.1	1.5
	部分正解者	699	3.9	25.0	*	40.1	29.5	1.6
	不正解者	137	6.6	19.0	*	48.2	22.6	3.6
問 15-⑪ 結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい	完全正解者	133	6.0	15.8	*	42.1	34.6	1.5
	部分正解者	699	6.2	23.7	*	44.6	23.3	2.1
	不正解者	137	12.4	19.7	*	44.5	19.0	4.4

この表にあがった問 1 の⑨「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」をはじめとする 10 の意見や考え方は、人権の視点からいずれも問題のある意見や考え方であるが、これらに対して『そう思わない』と回答した割合は、完全正解者が最も高くなっている。なかでも、問 3 の④「差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる」という意見については、『そう思わない』の割合が完全正解者で 57.1%と、部分正解者の 32.6%を 24.5 ポイントも上回っている。このように、憲法の権利についての理解が高い人ほど、人権意識が高くなっているのである。

表 5 は、憲法の権利の理解別に、被差別部落出身者との結婚を家族から反対されている親戚に相談を受けた場合、どのように対応するかをみたものである。

表 5 憲法の権利の理解度別被差別部落出身者との結婚を家族から反対されている親戚の相談への対応

	回答者数	問 11 の回答割合 (%)						
		反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う	慎重に考えなさいと言う	あきらめるように言う	どう言えばよいかわからない	その他	無回答
完全正解者	133	14.3	28.6	21.8	3.0	26.3	3.0	3.0
部分正解者	699	11.0	20.5	26.6	0.9	34.2	1.7	5.2
不正解者	137	5.8	19.0	21.9	3.6	41.6	1.5	6.6

これによると、完全正解者は「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」と「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」の割合が高く、「どう言えばよいかわからない」の割合が低くなっている。つまり、結婚の相談に対して積極的な対応をとるとの回答が完全正解者で多くなっているのである。表 5 から、憲法の権利についての理解が高い人ほど、人権意識が高いといえる。

以上のように、表 1 から表 5 に示したクロス集計によると、権利や憲法について理解が高いほど、人権意識が高いという傾向がみられるのである。権利や憲法に関する理解を高める教育や啓発を進めていくことが大事だといえよう。

② マイノリティとの接触程度別にみた回答傾向

表 6 は、外国籍住民との接触程度別に問 1、問 10、問 15 の回答結果をみたものである。この表では、「自分自身がそうである」と「家族がそうである」は、割合を算出するには実数が非常に少ないので、表示していない。また、「出会ったことはある」は「出会ったことはあるが、関わったことがない」である。

表 6 外国籍住民との接触程度別問 1、問 10、問 15 の回答割合

	外国籍住民との接触程度	回答者数	問 1、問 10、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばいない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問 1-⑤ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	親しい友人にいる	51	13.7	7.8	21.6	27.5	29.4	0.0
	知人にいる	283	12.0	17.3	25.4	20.8	24.0	0.4
	出会ったことはある	336	16.7	17.6	32.4	15.8	16.1	1.5
	出会ったことがない	257	20.2	19.8	31.1	12.8	14.4	1.6
問 10-① 外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない	親しい友人にいる	51	17.6	15.7	*	41.2	25.5	0.0
	知人にいる	283	9.9	25.4	*	39.9	24.4	0.4
	出会ったことはある	336	6.8	25.9	*	44.9	21.1	1.2
	出会ったことがない	257	6.6	23.0	*	49.8	19.5	1.2
問 10-③ 外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない	親しい友人にいる	51	21.6	13.7	*	43.1	21.6	0.0
	知人にいる	283	11.7	23.7	*	44.5	19.8	0.4
	出会ったことはある	336	9.2	26.5	*	44.9	18.2	1.2
	出会ったことがない	257	7.8	27.6	*	45.5	17.9	1.2
問 10-④ 災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない	親しい友人にいる	51	11.8	21.6	*	27.5	39.2	0.0
	知人にいる	283	7.8	18.7	*	42.0	31.1	0.4
	出会ったことはある	336	6.0	24.1	*	40.2	28.6	1.2
	出会ったことがない	257	7.4	25.3	*	35.0	30.7	1.6
問 10-⑤ 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	親しい友人にいる	51	11.8	7.8	*	41.2	39.2	0.0
	知人にいる	283	6.7	18.7	*	44.9	29.0	0.7
	出会ったことはある	336	6.0	24.4	*	43.2	25.6	0.9
	出会ったことがない	257	6.6	20.2	*	44.7	27.6	0.8
問 10-⑦ 外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる	親しい友人にいる	51	23.5	29.4	*	25.5	21.6	0.0
	知人にいる	283	20.1	32.5	*	32.9	13.4	1.1
	出会ったことはある	336	16.1	41.7	*	35.7	5.4	1.2
	出会ったことがない	257	13.6	39.3	*	33.5	11.3	2.3
問 15-⑫ 日本の学校に通う外国人の子どもたちに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障する必要がある	親しい友人にいる	51	21.6	41.2	*	27.5	9.8	0.0
	知人にいる	283	14.8	35.7	*	32.9	14.1	2.5
	出会ったことはある	336	13.1	39.3	*	35.1	11.0	1.5
	出会ったことがない	257	14.8	43.2	*	32.7	6.2	3.1
問 15-⑬ 外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ	親しい友人にいる	51	41.2	37.3	*	17.6	3.9	0.0
	知人にいる	283	24.4	46.3	*	21.6	6.4	1.4
	出会ったことはある	336	28.9	47.3	*	18.2	4.5	1.2
	出会ったことがない	257	24.5	46.3	*	23.3	3.5	2.3

この表によると、問 1 の⑤「自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない」、問 10 の①「外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない」、問 10 の③「外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない」、問 10 の④「災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない」、問 10 の⑤「自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない」、問 10 の⑦「外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる」、以上の 6 項目の内容は、人権の視点からいずれも問題があるものであるが、これらに対して「そう思わない」と回答した割合は、「親しい友人にいます」と回答した人が 6 項目とも最も高くなっている。

しかし、「そう思う」の割合をみると、問 1 の⑤を除く 5 項目で、「親しい友人にいます」と回答した人が最も高くなっている。つまり、外国籍住民が「親しい友人にいます」と回答した人は、人権の視点から問題がある意見や考え方に対して「そう思わない」という回答が多い一方で、「そう思う」という回答も多くなっているのである。

問 15 の②「日本の学校に通う外国人の子どもたちに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障する必要がある」という意見については、「そう思う」、『そう思う』の割合がいずれも「親しい友人にいます」で最も高くなっている。しかし、問 15 の③「外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣に合わせることは当然だ」という、外国籍住民に同化を求めるような意見については、「そう思う」、『そう思う』の割合がいずれも「親しい友人にいます」で最も高くなっている。

外国籍住民が「親しい友人にいます」と回答した人では、外国籍住民に関して人権の視点から問題がある意見や考え方を「そう思わない」と否定する回答が多くみられる一方で、それを肯定する回答（「そう思う」）も多くみられたりするのである。そして、「親しい友人にいます」と回答した人は、日本の学校に通う外国籍の子どもたちに自分の国や民族の言葉を学ぶ機会を保障する必要があると考えているのであるが、外国籍住民が日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だとも考えているのである。

このように、外国籍住民が「親しい友人にいます」という人の回答からは、外国籍住民との接触程度が高いほど、外国籍住民の人権に関心を持ち、それを尊重しているという傾向が顕著にはみられなかった。

表 7 は、被差別部落出身者との接触程度別に問 1 と問 15 の回答結果をみたものである。ただし、「親しい友人にいる」という回答が 26 件しかなく、割合を算出するには数が少なすぎるため、「知人にいる」という回答 176 件と合わせて「知人などにいる」と表示した。また、「自分自身がそうである」は 3 件、「家族がそうである」は 4 件だったので、表示していない。

表 7 被差別部落出身者との接触程度別問 1、問 15 の回答割合

	被差別部落出身者との接触程度	回答者数	問 1、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問 1-② 部落差別(同和問題)は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい	知人などにいる	202	11.9	13.9	26.7	15.8	30.2	1.5
	出会ったことはある	256	7.8	16.4	31.3	19.5	24.6	0.4
	出会ったことがない	476	14.3	13.4	27.5	17.6	24.6	2.5
問 1-③ 被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている	知人などにいる	202	17.8	25.7	30.7	16.8	5.9	3.0
	出会ったことはある	256	12.5	31.6	37.9	10.9	6.6	0.4
	出会ったことがない	476	11.1	17.9	46.8	12.8	8.0	3.4
問 1-④ 部落差別(同和問題)は、他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる	知人などにいる	202	15.3	32.7	22.3	16.3	11.4	2.0
	出会ったことはある	256	16.0	34.4	25.0	16.4	7.0	1.2
	出会ったことがない	476	29.2	35.5	22.5	6.9	4.2	1.7
問 1-⑤ 自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない	知人などにいる	202	13.4	16.8	25.2	18.8	23.8	2.0
	出会ったことはある	256	18.0	21.1	34.8	13.7	11.3	1.2
	出会ったことがない	476	13.2	20.2	37.4	13.0	13.9	2.3
問 15-⑪ 結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい	知人などにいる	202	6.9	21.8	*	33.2	37.6	0.5
	出会ったことはある	256	8.6	21.9	*	47.3	19.9	2.3
	出会ったことがない	476	6.5	22.3	*	48.7	21.4	1.1

これによると、問 1 の②「部落差別(同和問題)は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい」、問 1 の③「被差別部落(同和地区)住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている」、問 1 の④「部落差別(同和問題)は、他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる」、問 1 の⑤「自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない」、問 15 の⑪「結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい」、以上の意見や考え方に対して、『そう思わない』と回答したのは、いずれも「知人などにいる」が最も多くなっている。ただ問 1 の④と⑤については、「知人などにいる」と「出会ったことがない」の間の『そう思わない』の割合の差が 15 ポイント以上となっているが、他の 3 項目では、その差は数ポイントほどにすぎない。

「親しい友人にいる」との回答が少ないという理由で「知人にいる」と合わせて割合を算出したために、明確な差が出なかったかもしれないが、表 7 からは被差別部落出身者が親しい友人にいたり、知人にいる人のほうが部落差別(同和問題)への理解がやや高いといえる。

表 8 は、被差別部落出身者との接触程度別に被差別部落出身者との結婚を家族から反対されている親戚の相談への対応をみたものである。

表 8 被差別部落出身者との接触程度別被差別部落出身者との結婚を家族から反対されている親戚の相談への対応

	回答者数	問 11 の回答割合 (%)						
		反対する家族を説得するなど、力になろうと言う	迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う	慎重に考えなさいと言う	あきらめるように言う	どう言えばよいかわからない	その他	無回答
知人などにいる	202	17.8	28.7	26.2	1.0	20.3	3.0	3.0
出会ったことはある	256	9.8	19.5	30.9	2.0	32.0	1.2	4.7
出会ったことがない	476	8.4	19.7	22.9	1.5	41.8	1.5	4.2

これによると、「知人などにいる」と回答した人は、「反対する家族を説得するなど、力になろうと言う」と「迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う」の割合が高く、「どう言えばよいかわからない」の割合が低くなっている。「慎重に考えなさいと言う」の割合については、「知人などにいる」が「出会ったことがない」よりも少し高くなっているものの、被差別部落出身者が「知人などにいる」という人のほうが結婚に関する親戚からの相談に積極的な対応をすると答えている。

表 9 は、被差別部落出身者との接触程度別に住まいを選ぶ際に被差別部落内の物件を避けるかどうか、その回答結果を示している。

表 9 被差別部落出身者との接触程度別住まいを選ぶ際の被差別部落内の物件に対する態度

	回答者数	問 13 の回答 (%)				
		避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	避けないと思う	無回答
知人などにいる	202	26.7	32.2	27.7	11.9	1.5
出会ったことはある	256	32.0	41.0	20.7	3.9	2.3
出会ったことがない	476	25.6	37.4	21.2	11.1	4.6

これによると、『避けると思う』の割合は「知人などにいる」が最も低くなっているが、その差は「出会ったことはある」との間で 14.1 ポイント、「出会ったことがない」との間で 4.1 ポイントである。そして、「知人などにいる」の『避けると思う』の割合が低いといっても、それは 58.9%で、5 割を超えているのである。

このように、表 8 と表 9 から、被差別部落出身者との接触程度が高い人のほうが被差別部落や被差別部落出身者に対する忌避意識が弱いといえるが、その程度はとくに大きいものではない。

表 10 は、障害者との接触程度別に問 1 と問 15 の回答結果を示したものである。

これによると、問 9 の④「企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない」、問 9 の⑥「住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい」、問 9 の⑧「図書館やスポーツ施設、公民館などの公共施設を耳のきこえない人が利用する際、手話による対応ができないために、施設利用をあきらめざるを得ないことがあっても、仕方がない」、問 15 の⑩「介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない」という意見や考え方について、『そう思わない』と回答した割合は、いずれも「親しい友人がいる」で最も高くなっている。そして、問 9 の⑤「障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ」という意見について、『そう思う』と回答した割合は、「親しい友人にいます」で最も高くなっている。

このように、障害者が「親しい友人にいます」と回答した人は、障害者について人権の視点から問題があるといえる意見を否定し、人権の視点から正しいといえる意見を肯定する回答を最も多くしているのである。

また、問 9 の⑦「出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない」という意見に対して「そう思う」という回答割合が最も低かったのは「親しい友人にいます」であった。

表 10 障害者との接触程度別問 9、問 15 の回答割合

	被障害者との接触程度	回答者数	問 9、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば いいえ	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問 9-④ 企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない	自分自身がそうである	56	3.6	5.4	21.4	26.8	42.9	0.0
	家族がそうである	135	3.0	6.7	28.9	28.9	31.1	1.5
	親しい友人にいる	59	3.4	3.4	20.3	25.4	45.8	1.7
	知人にいる	331	4.8	8.8	34.7	25.4	25.7	0.6
	出会ったことはある	272	3.3	11.4	34.2	27.6	22.8	0.7
	出会ったことがない	94	7.4	11.7	44.7	24.5	11.7	0.0
問 9-⑤ 障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ	自分自身がそうである	56	41.1	23.2	17.9	3.6	12.5	1.8
	家族がそうである	135	26.7	28.9	28.1	9.6	5.9	0.7
	親しい友人にいる	59	32.2	37.3	15.3	10.2	5.1	0.0
	知人にいる	331	24.8	34.4	26.6	9.7	3.9	0.6
	出会ったことはある	272	25.7	29.0	29.4	12.1	3.7	0.0
	出会ったことがない	94	24.5	33.0	30.9	7.4	4.3	0.0
問 9-⑥ 住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい	自分自身がそうである	56	5.4	7.1	30.4	32.1	25.0	0.0
	家族がそうである	135	3.7	11.1	27.4	27.4	28.9	1.5
	親しい友人にいる	59	1.7	6.8	27.1	25.4	37.3	1.7
	知人にいる	331	3.9	11.8	27.8	28.7	26.9	0.9
	出会ったことはある	272	5.9	15.8	27.6	29.4	21.0	0.4
	出会ったことがない	94	6.4	13.8	41.5	22.3	16.0	0.0
問 9-⑦ 出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない	自分自身がそうである	56	23.2	21.4	39.3	7.1	8.9	0.0
	家族がそうである	135	18.5	25.2	45.2	4.4	5.9	0.7
	親しい友人にいる	59	16.9	32.2	44.1	3.4	3.4	0.0
	知人にいる	331	21.1	29.3	43.5	3.0	2.4	0.6
	出会ったことはある	272	24.6	29.0	37.9	5.5	2.2	0.7
	出会ったことがない	94	22.3	21.3	45.7	5.3	4.3	1.1
問 9-⑧ 図書館やスポーツ施設、公民館などの公共施設を耳の聞こえない人が利用する際、手話による対応ができないために、施設利用をあきらめざるを得ないことがあっても、仕方がない	自分自身がそうである	56	3.6	7.1	17.9	26.8	44.6	0.0
	家族がそうである	135	0.7	5.2	14.8	31.9	46.7	0.7
	親しい友人にいる	59	1.7	3.4	10.2	35.6	49.2	0.0
	知人にいる	331	1.8	5.7	23.0	29.6	38.7	1.2
	出会ったことはある	272	1.1	5.9	24.6	31.6	36.0	0.7
	出会ったことがない	94	5.3	6.4	36.2	20.2	31.9	0.0
問 15-⑩ 介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない	自分自身がそうである	56	8.9	19.6	*	48.2	19.6	3.6
	家族がそうである	135	2.2	25.2	*	45.2	23.0	4.4
	親しい友人にいる	59	6.8	11.9	*	47.5	33.9	0.0
	知人にいる	331	5.7	27.5	*	48.3	17.2	1.2
	出会ったことはある	272	9.2	22.4	*	52.6	14.0	1.8
	出会ったことがない	94	4.3	33.0	*	43.6	18.1	1.1

表 11 は、性的マイノリティとの接触程度別に問 1 と問 15 の回答結果を示したものである。

表 11 性的マイノリティとの接触程度別問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合

	性的マイノリティとの接触程度	回答者数	問 1、問 15 の回答割合 (%)					無回答
			そう思う	そう思うけど心配はない	どちらかといえば心配はない	あまりそう思わない	そう思わない	
問 1-⑨ 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	親しい友人にいる	33	3.0	0.0	6.1	12.1	78.8	0.0
	知人にいる	129	1.6	1.6	7.8	21.7	67.4	0.0
	出会ったことはある	218	5.0	8.7	16.5	23.9	45.4	0.5
	出会ったことがない	542	10.3	9.6	21.6	27.1	28.8	2.6
問 1-⑩ 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない	親しい友人にいる	33	0.0	0.0	9.1	42.4	48.5	0.0
	知人にいる	129	0.8	4.7	8.5	37.2	48.8	0.0
	出会ったことはある	218	5.5	16.5	26.6	27.1	23.9	0.5
	出会ったことがない	542	13.5	18.5	25.3	26.8	13.1	3.0
問 15-⑭ 同性同士の結婚も認められるのは当然だ	親しい友人にいる	33	45.5	39.4	*	9.1	6.1	0.0
	知人にいる	129	27.9	49.6	*	14.0	8.5	0.0
	出会ったことはある	218	17.9	36.7	*	30.7	13.3	1.4
	出会ったことがない	542	14.8	36.2	*	29.5	17.0	2.6
問 15-⑮ 企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある	親しい友人にいる	33	39.4	48.5	*	9.1	3.0	0.0
	知人にいる	129	30.2	48.1	*	14.7	7.0	0.0
	出会ったことはある	218	17.0	43.6	*	25.7	11.9	1.8
	出会ったことがない	542	14.0	40.0	*	30.6	11.6	3.7
問 15-⑯ 自分の身内には同性愛者はいてほしくない	親しい友人にいる	33	6.1	9.1	*	24.2	60.6	0.0
	知人にいる	129	7.8	14.0	*	41.9	36.4	0.0
	出会ったことはある	218	11.9	28.0	*	40.4	18.3	1.4
	出会ったことがない	542	23.1	28.6	*	29.2	17.0	2.2

これによると、問 15 の⑭「同性同士の結婚も認められるのは当然だ」と問 15 の⑮「企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある」という意見について、『そう思う』と回答したのは、「親しい友人にいる」が最も多く、問 1 の⑨「同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない」、問 1 の⑩「知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、そう接するべきかわからない」、問 15 の⑯「自分の身内には同性愛者はいてほしくない」という意見について、『そう思わない』と回答したのは、「親しい友人にいる」が最も多かった。

このように、性的マイノリティが「親しい友人にいる」という人ほど、性的マイノリティに対する忌避意識が弱く、同性婚やパートナーシップ制度を容認する傾向にあるといえる。

外国籍住民、被差別部落出身者、障害者、性的マイノリティのそれぞれについて、その接触程度別にその人権に関する回答結果をみてきたが、程度の差はあるものの、接触程度が高い人ほど、そのマイノリティの人権についての理解が高いという傾向が認められた。したがって、人権教育や啓発において、マイノリティの人たちとの接触の機会を設けていくことがマイノリティへの理解を高め、共生関係をつくっていくことにつながるといえよう。

③ 人権教育を受けた経験について

表 12 は、小学校から高校の間に差別や人権に関する教育を受けた経験別に問 1、問 3、問 8、問 15 の回答結果をみたものである。

表 12 人権教育の学習経験別問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合

		回答者数	問 1、問 3、問 8、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	そう思う どころかといえ ば	どちらともい えない	あまりそう思 わない	そう思わ ない	無回 答
問 1-⑤ 自分の身内は被差別部落(同和地区)の人とは結婚してほしくない	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	13.2	13.7	26.9	19.8	24.1	2.4
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	25.4	11.1	33.3	7.9	22.2	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	11.8	24.8	34.2	15.4	12.0	1.7
	受けたことがない	268	16.8	18.3	39.2	10.8	10.8	4.1
問 1-⑥ ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	11.3	25.9	40.6	14.2	7.5	0.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	31.7	31.7	15.9	12.7	7.9	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	18.3	30.8	33.3	11.6	5.1	1.0
	受けたことがない	268	25.0	28.0	32.8	6.0	4.5	3.7
問 1-⑧ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	18.4	32.1	31.1	11.8	6.6	0.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	36.5	33.3	17.5	4.8	7.9	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	15.4	32.5	32.3	12.8	6.0	1.0
	受けたことがない	268	13.4	25.0	34.7	15.3	7.8	3.7
問 1-⑮ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	11.3	11.8	31.1	16.5	28.8	0.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	27.0	15.9	25.4	11.1	20.6	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	12.5	21.0	29.2	19.0	17.1	1.2
	受けたことがない	268	22.0	15.3	29.5	15.3	14.2	3.7
問 3-③ 人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	1.9	3.3	13.7	28.3	52.8	0.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	3.2	7.9	25.4	22.2	41.3	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	1.2	5.1	26.5	33.0	33.5	0.7
	受けたことがない	268	8.2	5.6	29.9	27.2	26.5	2.6
問 3-⑥ 競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	2.4	19.3	25.0	24.5	28.8	0.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	14.3	19.0	23.8	20.6	22.2	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	2.2	14.7	33.5	30.4	18.8	0.5
	受けたことがない	268	6.7	10.4	29.9	24.6	24.3	4.1
問 8-① 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	1.4	5.7	11.8	31.1	50.0	0.0
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	7.9	14.3	12.7	23.8	39.7	1.6
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	2.2	7.5	20.5	29.2	40.5	0.2
	受けたことがない	268	5.2	9.7	20.1	24.3	39.9	0.7
問 15-⑪ 結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい	受けたことがあり、内容は興味深かった	212	7.1	17.9	*	38.7	35.8	0.5
	受けたことがあるが、内容はつまらなかった	63	12.7	22.2	*	36.5	28.6	0.0
	受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない	415	5.1	22.7	*	48.9	21.4	1.9
	受けたことがない	268	8.6	25.4	*	43.7	19.0	3.4

これによると、問3の③「人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない」という意見について、『そう思わない』と回答した割合は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」という人で81.1%となっており、「受けたことがない」という人の53.7%を27.4ポイントも上回っている。そして、問8の①「収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ」という意見についても、『そう思わない』と回答した割合は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」という人で81.1%、「受けたことがない」という人で64.2%と、「受けたことがあり、内容は興味深かった」のほうが16.9ポイント上回っている。このように、人権の視点から問題がある意見に対しては、学校で人権教育を受け、内容を興味深く感じた人のほうが否定回答を多くしているのであり、人権教育の成果が表れているといえる。

しかし、問1の⑥「ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい」という意見については、『そう思わない』という回答は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」で21.7%、「受けたことがあるが、内容はつまらなかった」で20.6%と、ほとんど差がみられない。そして、問1の⑧「刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない」という意見に対して、『そう思わない』と回答したのは、「受けたことがあり、内容は興味深かった」が18.4%で、「受けたことがない」の23.1%よりも低く、「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」の18.8%と、ほとんど変わらないのである。また、問3の⑥「競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない」という意見についても、『そう思わない』という回答は、「受けたことがあり、内容は興味深かった」53.3%、「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」49.2%、「受けたことがない」48.9%というように、それほど差はみられず、「受けたことがあり、内容は興味深かった」という人の『そう思う』の割合は21.7%と、「受けたことがあるが、内容をよくおぼえていない」(16.9%)と「受けたことがない」(17.1%)よりも高くなっているのである。

すなわち、人権教育の成果が表れている項目もあれば、それがはっきりとは表れていないという項目もみられるのである。

表12の結果をもって、人権教育の成果があまりあがっていないとってよいのであろうか。小学校から高校にかけて学校で人権教育を学んだ人は、高校卒業後、人権に関する情報にまったく接しないというわけではなく、大学に進学した人は大学で人権に関する科目を履修したり、就職して勤務先で人権研修を受けることも多くある。それだけではなく、テレビや新聞、インターネット等で人権に関わるさまざまな情報に接したり、本や雑誌で人権について学ぶこともあるだろう。高校卒業後に人権に関する多くの情報や知識を獲得している人が多いので、高校までの人権教育の学習経験別による違いが明確には出にくくなっているのである。

④ その他のクロス集計について

表 13 は、問 1 の⑭「新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見に対する回答別に問 1、問 10、問 15 の回答結果をみたものである。

表 13 問 1-⑭「新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見に対する回答別問 1、問 10、問 15 の回答割合

	「新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見に対する回答	回答者数	問 1、問 10、問 15 の回答割合 (%)					
			そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
問 1-⑧ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない	『そう思う』	132	38.6	32.6	19.7	6.1	3.0	0.0
	どちらともいえない	306	14.1	34.6	36.9	11.1	3.3	0.0
	『そう思わない』	527	13.5	27.9	32.3	15.6	9.7	1.1
問 1-⑪ 住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいるという物件は避けたい	『そう思う』	132	35.6	26.5	18.2	15.9	3.8	0.0
	どちらともいえない	306	14.1	28.4	34.3	15.4	7.2	0.7
	『そう思わない』	527	12.7	27.7	29.2	16.3	13.9	0.2
問 1-⑮ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	『そう思う』	132	31.8	17.4	24.2	17.4	8.3	0.8
	どちらともいえない	306	12.4	19.0	34.6	18.3	15.7	0.0
	『そう思わない』	527	13.5	16.3	27.7	16.7	24.5	1.3
問 10-① 外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない	『そう思う』	132	25.8	25.0	*	37.1	11.4	0.8
	どちらともいえない	306	6.2	26.5	*	47.4	18.3	1.6
	『そう思わない』	527	5.3	22.0	*	44.4	27.1	1.1
問 10-④ 災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない	『そう思う』	132	24.2	26.5	*	28.8	19.7	0.8
	どちらともいえない	306	4.2	27.8	*	41.2	25.2	1.6
	『そう思わない』	527	4.9	18.4	*	39.3	36.4	0.9
問 10-⑤ 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	『そう思う』	132	18.2	36.4	*	29.5	15.2	0.8
	どちらともいえない	306	3.9	23.9	*	50.3	20.3	1.6
	『そう思わない』	527	5.1	14.0	*	43.5	36.2	1.1
問 10-⑦ 外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる	『そう思う』	132	43.2	31.1	*	15.2	9.8	0.8
	どちらともいえない	306	12.7	37.3	*	38.6	9.5	2.0
	『そう思わない』	527	12.5	39.1	*	35.1	11.6	1.7
問 15-⑬ 外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ	『そう思う』	132	15.9	37.1	*	33.3	12.9	0.8
	どちらともいえない	306	5.9	33.3	*	47.1	11.8	2.0
	『そう思わない』	527	7.8	30.7	*	44.4	15.0	2.1

これによると、「新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりも SNS で得られる情報のほうが信頼できる」という意見に『そう思う』と回答した人(以下、SNS 情報のほうが信頼できると考える人)と『そう思わない』と回答した人(以下、SNS 情報のほうが信頼できないと考える人)を比較すると、問 1 の⑧「刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない」という意見に対して、SNS 情報のほうが信頼できると考える人は 38.6%が「そう思う」と回答し、SNS 情報のほうが信頼できないと考える人の「そう思う」の割合(13.5%)を 25.1 ポイントも上回っている。そして、問 1 の⑪「住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる物件は避けたい」という意見についても、SNS 情報のほうが信頼できないと考える人は 12.7%が「そう思う」と回答しているのに対し、SNS 情報のほうが信

頼できると考える人は 35.6%が「そう思う」と回答している。以下の6つの項目、いずれも人権の視点から問題があるといえる意見や考え方であるが、SNS 情報のほうが信頼できると考える人のほうが SNS 情報のほうが信頼できないと考える人よりも肯定回答が多くなっている。

このように、SNS 情報のほうが信頼できると考える人は、自己責任論にもとづく回答傾向がみられるとともに、低所得者や外国人に対する忌避意識が強く、日本に住む外国人に対して厳しい見方をするという傾向があるといえる。メディアリテラシーを高める教育・啓発を進めていくことが必要である。

## 4. 資料(調査票)

### 岸和田市 人権問題に関する市民意識調査 アンケートのお願い

市民の皆さまには、日頃より市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。  
岸和田市では、一人ひとりの人権が守られる「人権尊重のまちづくり」をすすめるため、「岸和田市人権施策推進プラン」を策定し、施策を推進しています。

「岸和田市人権問題に関する市民意識調査」は、様々な人権問題について皆さまのご意見をおうかがいし、令和4年に改訂したプランの中間見直しの基礎資料とするため実施するものです。

この調査は、令和7年9月25日現在、岸和田市内在住の18歳以上、3,000人の方を無作為に抽出し、無記名でのご回答をお願いしています。個人の秘密がもれたり、他の用途に使われたりするなどのご迷惑をおかけすることは一切ありません。

お手数をおかけし恐縮ですが、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

#### ご記入に当たってのお願い

- 封筒宛名のご本人様のご記入ください。お名前のご記入不要です。
- ご本人様のご記入いただけない場合は、代理の方がご本人様の意思を反映してご回答いただくか、人権・男女共同参画課までご相談ください。

#### 郵送でご回答いただく場合

- ①調査票(この冊子)に、黒のボールペンまたは鉛筆で、直接ご回答ください。
- ②多くの質問は選択式になっています。あてはまる選択肢の番号に○印をつけてください。  
また、「その他」に○印をつけた方は、( )に具体的な内容をご記入してください。
- ③質問によって、ご回答できない場合またはご回答したくない場合は、無理にご回答せずに次の設問に進んでください。

#### インターネットでご回答いただく場合

- ①下記のURLを入力するか、二次元コードを読み取ってアクセスし、表示にしたがってご回答を進めてください。ご回答の途中でページから離れると、ご回答が無効になりますのでご注意ください。(一時保存機能はご利用いただけます。)

【回答 URL・QR コード】 <https://logoform.jp/form/heqL/1178922>

- ②調査票(この冊子)の返送は不要です。



**回答は、令和7年11月15日(土)までにお願ひします。**

郵送での回答の場合、調査票(この冊子)を同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに郵便ポストに投函してください。封筒にご住所やお名前を記入する必要もありません。

※大きな文字の調査票や、ふりがなのある調査票が必要な方、その他サポートが必要な方やこの調査票についてご不明な点等がある方は、下記のお問い合わせ先へご連絡ください。

#### 【お問い合わせ先】

岸和田市 市民健康部 人権・男女共同参画課

電話：072-429-9833(直通) FAX：072-441-2536

住所：岸和田市加守町4丁目6番18号

メール：jinkens@city.kishiwada.osaka.jp

## さまざまな人権について

問1 さまざまな人権に関する次のような意見や考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思 いど ち え ち ら ば そ か う と	い ど ち え ち ら な い と も	思 あ ま り な い そ う	い そ う 思 わ な い
① 就職の面接で、人事担当者が就職希望者の家族構成を聞くことは問題だ	1	2	3	4	5
② 部落差別（同和問題）【注1】は、そっとしておけば自然となくなる問題だから、教育や啓発はしないほうがいい	1	2	3	4	5
③ 被差別部落（同和地区）住民は、現在でも生活のさまざまな面で優遇されている	1	2	3	4	5
④ 部落差別（同和問題）は、他の人権問題に比べてわかりにくいと感じる	1	2	3	4	5
⑤ 自分の身内は被差別部落（同和地区）の人とは結婚してほしくない	1	2	3	4	5
⑥ ホームレスの状態を続けているのは、本人の責任が大きい	1	2	3	4	5
⑦ 凶悪事件の場合は、未成年であっても犯人の実名を公表すべきだ	1	2	3	4	5
⑧ 刑を終えて刑務所を出所した人の就職が容易に決まらないことは仕方がない	1	2	3	4	5
⑨ 同僚に性的マイノリティがいる職場では働きたくない	1	2	3	4	5
⑩ 知人から性的マイノリティだと打ち明けられたら、どう接するべきかわからない	1	2	3	4	5
⑪ 住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいるという物件は避けたい	1	2	3	4	5
⑫ ハンセン病患者が強制隔離されたことについては、仕方がなかった	1	2	3	4	5
⑬ 表現の自由に関わる問題なので、インターネット上の情報規制は行うべきではない	1	2	3	4	5
⑭ 新聞やテレビ等のマスメディアからの情報よりもSNSで得られる情報のほうが信頼できる	1	2	3	4	5
⑮ 自分の身内は在日韓国・朝鮮人とは結婚してほしくない	1	2	3	4	5
⑯ 認知症になるのは、それまでの本人の読書習慣や人付き合いなど、その人の責任という面もある	1	2	3	4	5

※【注】は、この調査票の最後のページに記載しています。

問2 この5年位の間、あなたは、人権を侵害されたことがありますか。  
(○はいずれか1つ)

1. ある	2. ない → 問3へお進みください
-------	--------------------

問2-1 ~ 問2-2 は、問2で「1. ある」と答えた方にお聞きします。

問2-1 どのような言動を受けましたか。(○はいくつでも)

1. 結婚や就職の際に差別を受けた
2. あらぬ噂をされたり、他人から悪口を言われたりした
3. 仲間はずれや嫌がらせをされた
4. 暴力や虐待を受けた
5. 職場において能力が正当に評価されず不当な扱いを受けた
6. プライバシーを侵害された
7. セクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)を受けた
8. 痴漢行為やストーカー(つきまとい)行為をされた
9. 就職の面接で、家族構成や家族の仕事など労務と関係ないことを聞かれた
10. その他(具体的に: _____)
11. 覚えていない

問2-2 どのように対応しましたか。(○はいくつでも)

1. 家族や友人に相談した	2. 職場の上司や同僚に相談した
3. 近所や地域の人に相談した	4. 市役所で相談した
5. 法務局や人権擁護委員に相談した	6. 弁護士に相談した
7. 学校の先生に相談した	8. 警察に相談した
9. 市民団体に相談した	10. 民生委員児童委員に相談した
11. 相手に抗議した	12. 何もしないでそのままにした
13. その他(具体的に: _____)	
14. 覚えていない	

問3 人権問題などに関して次のような意見や考え方があります。あなたはこれらについて、どう思いますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。  
(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	思いど うえら ばそ うと	いど ちら も	あ ま り そ う 思 わ な い	い そ う 思 わ な い
① 政治・社会・経済的な要求などを掲げてデモ(示威運動)を行うことは、憲法で保障された権利である	1	2	3	4	5
② 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する	1	2	3	4	5
③ 人権問題は、差別する人と差別される人の問題であり、自分には関係がない	1	2	3	4	5
④ 差別に対して抗議や反対をすることによって、かえって問題が解決しにくくなる	1	2	3	4	5
⑤ ささいなことまで差別だ、人権侵害だと声をあげるのは、世の中を窮屈にさせる	1	2	3	4	5
⑥ 競争社会だから、競争に負けた人が不利益を受けるのは、仕方がない	1	2	3	4	5
⑦ 日本国憲法は、国民が従うべきルールである	1	2	3	4	5
⑧ これまで行われてきた少数者の人権を保障する政策は、少数者に特権を与えたという面がある	1	2	3	4	5

#### 慣習や文化などについて

問4 次のような慣習や文化などに関する意見や考え方について、あなたはどう思いますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう思う	思いど うえら ばそ うと	あ ま り そ う 思 わ な い	い そ う 思 わ な い
① 葬儀の際の「清め塩」は必要だ	1	2	3	4
② 女性が土俵に上がれないのは、しきたりだから仕方がない	1	2	3	4
③ 運気をよくするために、占いや方角は参考にするほうがいい	1	2	3	4
④ 結婚相手を決める時は、本人本位でなく、やはり家のことを考えて決めたほうがよい	1	2	3	4
⑤ だんじりに女性(子ども以外)が乗るのはいけないことだ	1	2	3	4
⑥ 「あの世」や「来世 <small>らいせ</small> 」があると信じるほうだ	1	2	3	4

### 憲法で決められた権利について

問5 あなたは憲法によって、義務ではなく、国民の権利と決められているのはどれだと思いますか。(〇はいくつでも)

- |                    |
|--------------------|
| 1. 思っていることを世間に発表する |
| 2. 税金を納める          |
| 3. 目上の人に従う         |
| 4. 道路の右側を歩く        |
| 5. 人間らしい暮らしをする     |
| 6. 労働組合をつくる        |
| 7. わからない           |

### あなたのまわりの少数者について

問6 あなたのまわりには次のような人がいますか。(〇はそれぞれ1つ)

	自分自身が そうである	家族が そうである	親しい友人に いる	知人に いる	出会ったことはあるが 関わったことがない	出会ったことがない
① 外国籍住民	1	2	3	4	5	6
② 被差別部落(同和地区)出身者	1	2	3	4	5	6
③ 障害者	1	2	3	4	5	6
④ 性的マイノリティ(少数者)【注2】	1	2	3	4	5	6

### 家族や性別役割などについて

問7 家族や性別役割などに関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思いど うえち ばら そか うと	いど えち ら な い も	あ ま り な い そ う	い そ う 思 わ な
① 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるほうがよい	1	2	3	4	5
② 妻が働いていなくても、夫は家事・育児をするべきだ	1	2	3	4	5
③ 夫の親を妻が介護するのは当然だ	1	2	3	4	5
④ 夫が海外赴任する場合、妻は働いていても仕事を辞めて、夫に同行すべきだ	1	2	3	4	5
⑤ 結婚したら、妻は夫の姓を名乗るほうがよい	1	2	3	4	5
⑥ 結婚しても、必ずしも子どもをもつ必要はない	1	2	3	4	5
⑦ 自分の身内が未婚のまま子どもを産むことは好ましくない	1	2	3	4	5
⑧ 女性は理数系科目が苦手なので、大学の理工系学部の女性比率が低いのは仕方がない	1	2	3	4	5
⑨ 男性は家族を養って一人前だ	1	2	3	4	5

### 子どもの人権について

問8 子どもの人権に関する次のような意見や考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思いど うえち ばら そか うと	いど えち ら な い も	あ ま り な い そ う	い そ う 思 わ な
① 収入の低い家庭の子どもが大学に進学できないのはやむを得ないことだ	1	2	3	4	5
② 児童養護施設で暮らした経験のある人の就職がむずかしいのは仕方がない	1	2	3	4	5
③ 家族の世話のために、子どもが学校の部活動に参加しづらくなることは問題だ	1	2	3	4	5
④ 学校の規則を定める際に、子どもの意見表明の場がないことは問題だ	1	2	3	4	5
⑤ 不登校は本人が努力すれば克服できるはずだ	1	2	3	4	5
⑥ 子どもは成長途上なので、人権が制約されても仕方がない	1	2	3	4	5

### 高齢者・障害者の人権について

問9 高齢者や障害者の人権に関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思 いど うえ ばら そか うと	いど ちら ない とも	思 あ ま り な い そ う	い そ う 思 わ な い
① 高齢者の就職が困難であったり、労働条件が悪くなることは、仕方がない	1	2	3	4	5
② 高齢者が一人暮らしを理由にマンションなどの入居を拒否されることは、人権侵害だ	1	2	3	4	5
③ 悪徳商法や詐欺などによる被害が多いのは、高齢者の注意が足りないからだ	1	2	3	4	5
④ 企業には障害者の法定雇用率が定められているが、企業は利益が第一なのだから、障害者の雇用が進まなくても仕方がない	1	2	3	4	5
⑤ 障害のある人が結婚したり、子どもを育てることに周囲が反対するのは、人権侵害だ	1	2	3	4	5
⑥ 住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、近隣に障害者の作業所やグループホームがあるという物件は避けたい	1	2	3	4	5
⑦ 出生前診断で胎児に障害があることがわかった場合、産まないという選択をすることはやむを得ない	1	2	3	4	5
⑧ 図書館やスポーツ施設、公民館などの公共施設を耳の聞こえない人が利用する際、手話による対応ができないために、施設利用をあきらめざるを得ないことがあっても、仕方がない	1	2	3	4	5

### 外国人の人権について

問10 外国人の人権に関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思 いど ち ら な い そ か う と	思 あ ま り な い そ う	い そ う 思 わ な い
① 外国人だからという理由で、賃貸住宅への入居を断られても仕方がない	1	2	3	4
② 日本政府が難民の受け入れに消極的であることは問題だ	1	2	3	4
③ 外国人は仕事の内容や給与などに関して日本人と格差があっても仕方がない	1	2	3	4
④ 災害などの緊急時に、日本語が伝わらない外国人への対応がおろそかになることは、やむを得ない	1	2	3	4
⑤ 自分が住んでいる地域には外国人は住んでほしくない	1	2	3	4
⑥ 外国籍であっても、自治体の住民であるので、地方参政権は認められるべきである	1	2	3	4
⑦ 外国人労働者が増えると、治安や風紀が悪くなる	1	2	3	4

### 部落差別(同和問題)について

問11 結婚相手が被差別部落(同和地区)の人であることを理由に、家族から結婚を反対されている親戚がいるとします。あなたがその方から相談を受けた場合、どうしますか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇は1つ)

1. 反対する家族を説得するなど、力になろうと言う → 問12へお進みください
2. 迷うことはない、自分の意思を貫いて結婚しなさいと言う → 問12へお進みください
3. 慎重に考えなさいと言う
4. あきらめるように言う
5. どう言えばよいのかわからない → 問12へお進みください
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_) → 問12へお進みください

問11-1は、問11で「3」または「4」と答えた方にお聞きします。

問11-1 「慎重に考えなさいと言う」「あきらめるように言う」と考えるのは、どうしてですか。最もお考えに近いものを選んでください。(〇はいくつでも)

1. 家族が反対しているなら、それに従うべきだから
2. 将来、結婚した本人がいろいろとトラブルに巻き込まれるかもしれないから
3. 将来、結婚した本人やその子どもが差別を受けるかもしれないから
4. 被差別部落(同和地区)の人と親戚になりたくないから
5. 将来、自分や自分の家族がトラブルに巻き込まれるかもしれないから
6. 将来、自分や自分の家族が差別を受けるかもしれないから
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問12 あなたは、ここ5年くらいの間に部落差別（同和問題）に関して、次のような発言を直接聞いたことがありますか。

複数ある場合は、強く印象に残っているものを選んでください。（〇は1つ）

1. 被差別部落（同和地区）の人（子ども）とは、付き合っては（遊んでは）いけない
2. 被差別部落（同和地区）の人とは、結婚してはいけない
3. 被差別部落（同和地区）の人はこわい
4. 被差別部落（同和地区）の人は無理難題を言う
5. 被差別部落（同和地区）は治安が悪い
6. 住宅を購入する際、被差別部落（同和地区）内の物件を避けた方がいい
7. 聞いたことはない → 問13へお進みください

問12-1 ～ 問12-2 は、問12で「1」～「6」と答えた方にお聞きします。

問12-1 それは誰から聞きましたか。主なものを選んでください。（〇は1つ）

1. 家族
2. 親戚
3. 近所の人
4. 友人
5. 職場の人
6. 知らない人
7. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

問12-2 それを聞いたとき、どう感じましたか。また、どうしましたか。（〇は1つ）

1. そのとおりと思った
2. そういう見方もあるのかと思った
3. 反発・疑問を感じたが、相手には何も言わなかった
4. 反発・疑問を感じ、相手にその気持ちを伝えた
5. とくに何も思わなかった

問13 あなたが住宅を購入したり、借りたりするなど、住まいを選ぶ際に、価格や立地条件が希望に合っている物件が被差別部落（同和地区）内にあったとしたら、あなたはどのようにしますか。（〇は1つ）

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 避けると思う          |               |
| 2. どちらかといえば避けると思う  |               |
| 3. どちらかといえば避けないと思う | → 問14へお進みください |
| 4. 避けないと思う         | → 問14へお進みください |

問13-1 は、問13で「1」または「2」と答えた方にお聞きします。

問13-1 あなたはなぜ被差別部落（同和地区）内の物件を避けるのですか。（〇はいくつでも）

- |                                               |
|-----------------------------------------------|
| 1. 被差別部落（同和地区）に住むことで、自分や家族が差別を受けるかもしれないから     |
| 2. 被差別部落（同和地区）の生活環境や慣習などが自分には合わないと思うから        |
| 3. 被差別部落（同和地区）は閉鎖的で、自分や家族が「よそ者」扱いされそうだから      |
| 4. 被差別部落（同和地区）は治安が悪いから                        |
| 5. 被差別部落（同和地区）の物件は価格上昇が見込めないから（転売がむずかしいと思うから） |
| 6. 被差別部落（同和地区）には住まないほうが良いと聞いたことがあるから          |
| 7. その他（具体的に： _____ ）                          |

### さまざまな分野での男女の地位について

問14 あなたは、次の各分野で男女の地位がどの程度、平等になっていると思いますか。それぞれの分野について選んでください。（〇はそれぞれ1つ）

	優男性のほう が	るうえど がばち 優男性か でのと あほい	平等 である	るうえど がばち 優女性か でのと あほい	優女性のほう が
① 学校教育の場では	1	2	3	4	5
② 家庭生活の場では	1	2	3	4	5
③ 職場では	1	2	3	4	5
④ 地域活動の場では	1	2	3	4	5
⑤ 社会通念や地域の慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5
⑥ 法律や制度の上では	1	2	3	4	5
⑦ 政治の場では	1	2	3	4	5
⑧ 経済界では	1	2	3	4	5
⑨ 社会全体として	1	2	3	4	5

## 人権や差別に関する考え方について

問15 人権や差別などに関する次のような意見・考え方について、あなたはどのように思いますか。  
あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	思いど うえち ばら そか うと	思 わ な い あ ま り そ う	い そ う 思 わ な い
① 権利ばかり主張して、がまんすることのできない人が増えている	1	2	3	4
② 人権には必ず義務がともなう	1	2	3	4
③ 差別する人だけでなく、差別される人にも問題がある	1	2	3	4
④ 社会福祉を含め、行政が実施する様々な支援策に頼るより、個人がもっと努力する必要がある	1	2	3	4
⑤ 子どもが3歳になるまでは、母親は育児に専念するほうがいい	1	2	3	4
⑥ 子どもをしつけのために、ときには保護者の体罰も必要だ	1	2	3	4
⑦ 教師が児童・生徒を指導するために、ときには体罰を加えることも必要だ	1	2	3	4
⑧ いじめ問題は、いじめを受ける子どもにも原因がある	1	2	3	4
⑨ 介護や介助を受ける高齢者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない	1	2	3	4
⑩ 介護や介助を受ける障害者が、あまりあれこれ自己主張するのはよくない	1	2	3	4
⑪ 結婚に際して、相手が被差別部落(同和地区)出身者かどうか調べるほうがいい	1	2	3	4
⑫ 日本の学校に通う外国人の子どもたちに、自分の国や民族の言葉を学習する機会を保障する必要がある	1	2	3	4
⑬ 外国籍住民は、日本に住んでいる以上、日本の文化や生活習慣などに合わせることは当然だ	1	2	3	4
⑭ 同性同士の結婚も認められるのは当然だ	1	2	3	4
⑮ 企業は、社員のパートナーが同性であっても、配偶者として処遇する必要がある	1	2	3	4
⑯ 自分の身内には同性愛者はいてほしくない	1	2	3	4
⑰ ニートやひきこもりは、本人自身に責任があると考えるのはよくないことだ	1	2	3	4

## 差別や人権に関する教育について

問16 あなたは、小学校から高校の間に、差別や人権に関する教育を受けたことがありますか。  
(〇は1つ)

1. 受けたことがあります、内容は興味深かった
2. 受けたことがあるが、内容はつまらなかった
3. 受けたことがあるが、内容はよくおぼえていない
4. 受けたことがない → 問17へお進みください

問16で「1」「2」「3」と答えた方にお聞きします。

問16-1 どういう内容を教わりましたか。(〇はいくつでも)

1. 女性の人権問題
2. 高齢者の人権問題
3. 障害者の人権問題
4. 部落差別(同和問題)
5. 在日韓国・朝鮮人の人権問題
6. 外国人労働者とその家族の人権問題
7. HIV(エイズウイルス)感染者の人権問題
8. ハンセン病回復者の人権問題
9. アイヌ民族の人権問題
10. 子どもの人権問題
11. 子どもの権利条約
12. 性的マイノリティの人権問題
13. インターネットと人権
14. 戦争と人権
15. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
16. おぼえていない、わからない

## 人権に関する法律や取組などについて

問17 あなたは、以下の法律や条例、また、人権問題に関する行政の取組や相談窓口を知っていますか。それぞれについて○をつけてください。（○はそれぞれ1つ）

	内容(趣旨・役割)まで 知っている	聞いたことはあるが 内容まで知らない	まったく知らない
法律・岸和田市の条例などについて			
① 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 (障害者差別解消法)	1	2	3
② 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組 の推進に関する法律 (ヘイトスピーチ【注3】解消法)	1	2	3
③ 部落差別の解消の推進に関する法律 (部落差別解消推進法)	1	2	3
④ 性的指向及びジェンダーアイデンティティの 多様性に関する国民の理解の増進に関する法律 (LGBT 理解増進法)	1	2	3
⑤ 岸和田市人権尊重のまちづくり条例	1	2	3
⑥ 岸和田市手話言語条例	1	2	3
⑦ 世界人権宣言	1	2	3
⑧ 子どもの権利条約	1	2	3
岸和田市の施設や取組			
① 広報きしわだに掲載している「人権の窓」や 「人の輪」【注4】	1	2	3
② 人権を考える市民の集い【注5】	1	2	3
③ 人権を守る作品展【注6】	1	2	3
④ 校区別人権問題研修会「なるほど！人権セミナー」【注7】	1	2	3
⑤ 岸和田市男女共同参画センター	1	2	3
岸和田市で実施している相談窓口			
① 人権相談、総合生活相談	1	2	3
② 人権擁護委員による人権相談	1	2	3
③ 法務局による人権相談・救済措置	1	2	3

## あなた自身のことについて

問18 あなたご自身のことについておたずねします。

※この調査結果を分析し、今後の人権教育・啓発の課題を明らかにしていくうえで、性別・年齢別比較は非常に重要です。そのため、あなたの性別と年齢をお聞きます。

① あなたの自認する性をお答えください。（〇は1つ）

- |       |       |            |
|-------|-------|------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. いずれでもない |
|-------|-------|------------|

② あなたの年齢をお答えください。（9月25日現在の満年齢。〇は1つ）

- |           |          |           |          |
|-----------|----------|-----------|----------|
| 1. 18～19歳 | 2. 20 歳代 | 3. 30 歳代  | 4. 40 歳代 |
| 5. 50 歳代  | 6. 60 歳代 | 7. 70 歳以上 |          |

岸和田市の人権施策・人権教育に関するご意見、ご要望等がありましたらご記入ください。

ご協力くださりまして、ありがとうございました。  
郵送での回答の場合、調査票は、同封の返信用封筒を用いて  
令和7年11月15日（土）までに、  
ご返送くださいますようお願いいたします。

## この調査で使用している用語について

### ■【注1 部落差別（同和問題）】

部落差別（同和問題）とは、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分階層構造により、日本の国民の一部の人々が長い間、経済的、社会的、文化的に低位の状態を強いられ、現在でも日常生活の上で差別を受けるなどの日本固有の人権問題です。

部落差別（同和問題）の解決に向け、平成14（2002）年3月に「地域改善対策特定事業にかかる国の財政上の特別措置に関する法律」が失効するまでの間、被差別部落（同和地区）の環境改善や同和教育・人権啓発などの取組みが積極的に進められてきました。

### ■【注2 性的マイノリティ（少数者）】

性には、生物学的な性（からだの性）、性自認（こころの性。自分の性をどのように認識しているか）、性的指向（恋愛感情や性的な関心がどの性別に向いているか）の3つの要素があります。

性自認や性的指向は、本人の意思で選んだり、変えたりできるものではありません。

生物学的な性と性自認が一致している人や、性的指向が異性に向いている人が多数派とされ、これらにあてはまらない人がマイノリティ（少数者）とされています。

### ■【注3 ヘイトスピーチ】

特定の民族・国籍の人々を排斥する差別的言動のことです。「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律」では、本邦外出身者を地域社会から排除することを煽動する不当な差別的言動の解消を国や地方公共団体の責務としています。

なお、職場や地域社会などで行われる、特定の人種、民族、国籍に係わる嫌がらせや「不適切で配慮に欠ける言動」はレイシャルハラスメントと言われ、身近に起こりうる人権問題の1つとなっています。

### ■【注4 人の輪】

毎年12月に広報誌と併せて配布している人権啓発紙です。

### ■【注5 人権を考える市民の集い】

毎年12月4日から10日までの人権週間に、講演会などを開催します。

### ■【注6 人権を守る作品展】

毎年12月4日から10日までの人権週間に、人権尊重をテーマにしたポスターや標語の入選作品などを展示します。

### ■【注7 校区別人権問題研修会「なるほど！人権セミナー」】

毎年10～11月に市内20カ所で開催する、DVDの視聴などによる研修会です。

# 人権問題に関する市民意識調査

## 結果報告書

令和8年(2026年)3月

発行 岸和田市 市民健康部 人権・男女共同参画課  
〒596-0042 大阪府岸和田市加守町4丁目6番18号  
(市立男女共同参画センター内)  
TEL 072-429-9833 FAX:072-441-2536  
E-mail [jinkens@city.kishiwada.lg.jp](mailto:jinkens@city.kishiwada.lg.jp)





